



2003 「踊りに行くぜ!! vol.4」  
~ JCDN 全国パフォーマンス スペース間のダンス巡回プロジェクト ~

# 報告書

NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network  
〒600-8092 京都市下京区神明町 241 オパス四条 501  
TEL075-361-4685 FAX075-361-6225  
E-mail [jcdn@jcdn.org](mailto:jcdn@jcdn.org) URL <http://www.jcdn.org/>

「踊りに行くぜ!!」企画趣旨 .....	P.2	
実施概要 .....	P.3	
「踊りに行くぜ!!」vol.4 を終えて	NPO 法人 JCDN 佐東範一 / 水野立子 .....	P.4
	テクニカルディレクター: アイカワマサアキ .....	P.5
選考会について .....	P.6	
参考データ .....	P.7	
【各開催地アンケート】(開催順) .....	P.8 ~ P.47	
松山・財団法人松山市施設管理公社		
札幌・NPO法人コンカリーニョ		
岡山・おかやまアートファーム		
福岡・イムズ、「踊りに行くぜ!!」福岡公演実行委員会		
大阪・NPO法人 DANCE BOX		
那覇・NPO法人 前島アートセンター、「踊りに行くぜ!!」沖縄公演実行委員会		
新潟・文化現場、「踊りに行くぜ!!」新潟公演実行委員会		
名古屋・「踊りに行くぜ!!」名古屋公演実行委員会		
仙台・edge-on-dance / 「踊りに行くぜ!!」仙台公演実行委員会		
広島・(財)広島市文化財団 安芸区民文化センター、FREE HEARTS		
東京・スフィアメックス、「踊りに行くぜ!!」東京公演実行委員会		
【出演者データ・アンケート】(あいうえお順) .....	P.48 ~ P.88	
GAMADASU ダンス研究所(北九州)		
北村成美(大阪)		
近藤良平 & 野和田恵里花(東京)		
合田有紀、玉井 翔(松山)		
佐藤美由紀・千田優太・吉田美香(仙台)		
塩澤典子(前橋)		
身体表現サークル(広島)		
砂連尾 理 + 寺田みさこ(京都)		
ズンチャチャ(岡山)		
sonno(大阪)		
高野美和子(東京)		
高木理恵+伏木啓(名古屋)		
Dance Theatre LUDENS(東京)		
丹野賢一 / NUMBERING MACHINE(東京)		
照屋美季・又吉大介(那覇)		
長尾忍(佐賀)		
納谷衣美 + 山下残(京都)		
野口知子(兵庫)		
ハニースァクル honeysuckle(松山)		
広島アートプロジェクト参加者(広島)		
福村まり(札幌)		
ほうほう堂(東京)		
増子浩介(新潟)		
三好絵美(松山)		
村上和司(兵庫)		
森下真樹(東京)		
康本雅子(東京)		
新聞雑誌、掲載記事 .....	P.88 ~ P.96	

## 【「踊りに行くぜ！！」 企画趣旨】

現在日本各地で新しい振付家・ダンサー・パフォーマーが数多く生まれてきています。

本プロジェクトは、

1. 全国の振付家／ダンサー／パフォーマーが、違う都市において公演を重ね様々な反応を得ることによって、作品及びアーティストが育っていくこと
  2. 全国のアーティスト間、スペース間、アーティストとスペース間の新たなコミュニケーションが生まれること
  3. 各地域の孤立をなくすこと
  4. 各地域の観客に新しいアーティストを紹介することにより、ダンスへの理解が深まり、観客自体が育っていくこと
  5. アーティストにとって地元以外での単独の公演やカンパニー公演が日本各地で行われるようになること
  6. 既成のダンスにとらわれることなく、オリジナリティのある動きや新たなダンスの価値を創り出すこと
- を目的に企画しました。

第4回目の本年は、札幌・仙台・新潟・東京・名古屋・大阪・岡山・広島・松山・福岡・沖縄の11の地域で開催致しました。

出演者の決定に関しましては、今回は

1. 開催地での選考会からの選出
  2. 参加スペースの推薦
  3. 初めて開催するスペースの希望
  4. JCDNの依頼・推薦
- のアーティストから出演者を決定致しました。

今後も全国各地域からのアーティストを紹介し、各地のパフォーマンス スペース間のプロジェクトとして毎年開催していきたいと考えています。

## 実施概要

平成 15 年度文化庁芸術団体人材育成支援事業

**公演名:**「踊りに行くぜ!! Vol.4」

~JCDN 全国パフォーマンススペース間のダンス巡回プロジェクト~

**企画・制作・主催:** NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network

**協賛:** アサヒビール株式会社 / トヨタ自動車株式会社

**協力:** スタッフ塾

**各地の主催・共催・制作:**

財団法人松山市施設管理公社 / NPO 法人コンカリーニョ / おかやまアートファーム / イムズ 「踊りに行くぜ!!」福岡公演実行委員会 / NPO 法人 DANCE BOX / NPO 法人前島アートセンター 「踊りに行くぜ!!」沖縄公演実行委員会 / 文化現場 「踊りに行くぜ!!」新潟公演実行委員会 / 「踊りに行くぜ!!」名古屋公演実行委員会 / edge-on-dance / 「踊りに行くぜ!!」仙台公演実行委員会 / (財) 広島市文化財団 安芸区民文化センター FREE HEARTS / スフィアメックス 「踊りに行くぜ!!」東京公演実行委員会

**スペースからの出演者推薦:** ST スポット・セッションハウス・NPO 法人 DANCE BOX

### 開催会場名

松山	松山市総合コミュニティセンター	10月10日(金)11日(土) / 2回公演
札幌	演劇専用小劇場 BLOCH	10月14日(火)15日(水) / 2回公演
岡山	西川アイプラザ	10月24日(金) / 1回公演
福岡	イムズホール	10月28日(火) / 1回公演
大阪	Art Theater dB	11月2日(日)3日(月祝) / 2回公演
沖縄	前島アートセンター	11月15日(土)16日(日) / 2回公演
新潟	新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ	11月21日(金)22日(土) / 2回公演
名古屋	七ツ寺共同スタジオ	11月28日(金)29日(土) / 2回公演
仙台	エル・パーク仙台	12月13日(土)14日(日) / 2回公演
広島	広島市安芸区民文化センター	12月20日(土)21日(日) / 2回公演
東京	スフィアメックス	12月25日(木)26日(金) / 2回公演

### 出演者名

GAMADASU ダンス研究所 / 北村成美 / 近藤良平 & 野和田恵里花 / 合田有紀、玉井翔 / 佐藤美由紀・千田優太・吉田美香 / 塩澤典子 / 身体表現サークル / 砂連尾 理 + 寺田みさこ / ズンチャチャ / sonno / 高野美和子 / 高木理恵 + 伏木啓 / Dance Theatre LUDENS / 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE / 照屋美季・又吉大介 / 長尾忍 / 納谷衣美 + 山下残 / 野口知子 / honeysuckle / 福村まり / 広島アートダンスプロジェクト参加者 / ほうほう堂 / 増子浩介 / 三好絵美 / 村上和司 / 森下真樹 / 康本雅子

## 「踊りに行くぜ!!」vol.4 を終えて

NPO 法人 JCDN 佐東 範一 / 水野 立子

今年は、札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・岡山・広島・松山・福岡・沖縄・東京の 11 箇所にて開催した。出演アーティストを決めるための「選考会 + ダンスディスカッション」も沖縄・新潟を除く 9 箇所で行い、全国で 107 組の応募があり、その中から 26 組のアーティストに出演していただいた。普段、自分の作品について感想や、批評を受ける機会が少ない地域では、この「選考会 + ダンスディスカッション」は、出演者にとっても観客にとっても良い機会となり、続けてほしいという声を多くもらっている。一方、関東、関西のように応募数が多くビデオ一次審査を潜り抜け選考会に出演することになる場合とは、ダンスを取り巻く環境に大きな違いがある。このような各地域の違いを鑑み、どのように出演者を決定していく場を設定すべきか、今年の課題である。

今年最も大きな成果は、全体的に観客が増えてきたことである。各地の主催者の努力の成果が絶対的にあるのだが、少しずつ新しい価値観のダンスが認められ浸透してきたように思う。今年初めて開催した岡山、新潟でも地元主催者の多大なる努力によって各公演とも盛況であった。

アーティストにおいても例えば岡山の選考会で選出された「ズンチャチャ」は、今年初めてスペシャル・バージョンとして開催した東京公演にも出演するなど、地方都市で活動しているアーティストが、より広く知られる良い機会になったと思う。同じように広島で選出された「身体表現サークル」も東京公演に出演した。当初は広島以外では大阪公演だけの出演だったが、観客からの評判が高く、「踊りに行くぜ!!」終了後、大阪や東京のダンスイベントに招かれ出演する機会を得、コンペティションに応募するなど積極的な活動に繋がってきた。これは「踊りに行くぜ!!」という、各地のおもしろいダンスを発掘していくというプログラムがなければ、なかなか有り得なかったことだろう。

昨年の課題であった東京と横浜の観客が減ってきていることへの今年初めての試みとして、東京・横浜を合わせて東京・スフィアメックスでの一箇所開催として、かつ他の都市と同じ形ではなく、vol.4 に参加した全体アーティストの中から話題になった作品を上演する公演を行った。その結果、2 回公演とも満席で、約 300 人の来場者があり盛況だったことは、本プロジェクトにとって大きな成果であると共に、各地からの参加アーティストにとって刺激となったようだ。東京公演のあり方とともに、他地域のプログラムの内容についてもどのように組んでいくのか、ダンス環境の変化とともに考えていく必要があると思う。各主催者の意向、また、新たな人材とキャリアのあるアーティスト作品との組合せなどを含め「踊りに行くぜ!!」が、その地の観客にとって興味の持てるプログラムであること、また、アーティストにとっても同時に影響力を待つプログラムであるためには、どうすればよいのか。年々開催を重ねるごとに「踊りに行くぜ!!」が、成長し続ける企画にしたいと思っている。

「踊りに行くぜ!!」は確実に各地で根付いてきている。そして各地でダンスを創ろうとするアーティストも増えてきている。しかし、より良いダンス作品を創るためには、年一回の「踊りに行くぜ!!」だけではなく、恒常的に各地でダンスの作品を発表出来るような環境が必要だと痛感した。それが同時に各地のダンスの観客が育ってくることに繋がっていくと思う。

今後、下記のことを進めていきたいと考えている。

この「踊りに行くぜ!!」を海外でも出来ないかと言う話がいくつかあり、海外公演も視野に入れていきたい。同時に海外のソロ アーティストの参加も検討し、「踊りに行くぜ!!」の世界版のような形での実施も検討していきたい。「選考会 + ダンスディスカッション」を膨らまして、ワークショップやミーティングなどを加え、各地でのダンス環境を整える場として機能できないだろうか。

各開催地では、全出演者のうち 4 - 5 組のアーティストしか観ることができないので、他の作品も是非観たいと言う声が多い。そこで、ビデオ上映会の形で、各地で他の出演者の作品も観られるように映像資料の整備を行いたい。各地で継続していくためには、できるだけ自治体や公共ホールの共催を得て行う形に持っていきたいと考えている。

2004年3月吉日

## 「踊りに行くぜ!!」テクニカルディレクター:アイカワマサアキ

JCDN全国パフォーマンススペース間のダンス巡回プロジェクト「踊りに行くぜ!!」のお手伝いを始めて2年目の秋を迎えた。10月10日の松山から12月26日の東京全国11カ所のうち札幌、大阪、岡山を除く8カ所をテクニカルディレクター、照明デザイナーとしてショーケースをまとめあげた。大劇場のステージに小ステージと観客席を作ってしまった松山と広島。中ホール of 福岡。クラブ風スペースを最初からダンススペースに変えてしまった沖縄。空中庭園のスタジオでの新潟。独自のスペースの名古屋七ツ寺。ファッションビルの中の小スペース仙台。東京のダンスのメッカのスフィアメックス。いかなかったけど頑張っている大阪、札幌。初めて参加した岡山。多種多様な全国のスペース達に多種多様なダンサーを送り込む。ダンサーにとっても20分の作品を作り上げていく過程は力になる。その地のスペースによってどう作品を変化させるか決断を要求させられる。その事が彼等を大きくする。照明の要求や音のきっかけ等、年々活発になってきた。ただそれが一方的だったり、どうしても会場の都合上できなかったり、こちらが提出したプランのほうがピタシしてたりして。

優柔不断であれ、そしてそれを認めよ。これがショウケースの必殺技。

こちらのほうも同じようにできるだけダンサーの意見を大切に、なぜならばそこに彼女も知らないこのダンスの秘密が隠れているからである。そして3組、4組をひとつにまとめる。これは3、4組をまとめるというよりは、3、4組を1組にする作業、ひとつの作品を作り上げることである。それが公平な形だと思う。それがよい結果に。

「踊りに行くぜ!!」は今が旬のダンサーの現場である。これからのダンサーの希有な才能を見極めたい。そして子供のようにゆっくりいい形を作る。

ステージを創ることしかできないおじさん  
アイカワ マサアキ

## 選考会 + ダンスディスカッションについて

各地の出演者を決定するために、「踊りに行くぜ！！ vol.4 出演者 選考会 + ダンスディスカッション」を、6月から7月上旬までの間に、東京、札幌、大阪、松山、仙台、広島、岡山、名古屋、福岡の9箇所で開催し、15組が選出されました。各地域4組から50組までの応募があり、応募が多い地域は事前にビデオ選考を行い、選考会当日に4組から11組の作品を上演し行いました。

この選考会は「選考」のみ行うのではなく、出演者・観客・選考委員と共に応募作品についてディスカッションしながら、新たな作品の可能性を迫る場をつくることを目的として開催しています。

作品についてオープンに話し合う場を設けることが、ダンス作品・ダンスアーティストの成熟に繋がっていくことになったと考えています。

### 各選考会での選出結果 (選出組数の内訳)

総応募数107組

札幌 応募者・選考会出演者 4組 1組選出  
仙台 応募者・選考会出演者 4組 1組選出  
東京 応募者 41組 選考会出演者 6組 3組選出  
名古屋 応募者・選考会出演者 4組 1組選出  
大阪 応募者 26組 選考会出演者 6組 3組選出  
岡山 応募者・選考会出演者 6組 1組選出  
広島 応募者・選考会出演者 3組 1組選出  
松山 応募者・選考会出演者 11組 2組選出  
福岡 応募者 8組 選考会出演者 7組 2組選出

計 15組

### その他 地元推薦、ホール推薦、開催地の希望により出演者を決定したもの

那覇 地元 1組  
新潟 地元 1組  
セッションハウス推薦 1組  
STスポット推薦 1組  
DANCE BOX 推薦 1組  
各開催地の希望 6組

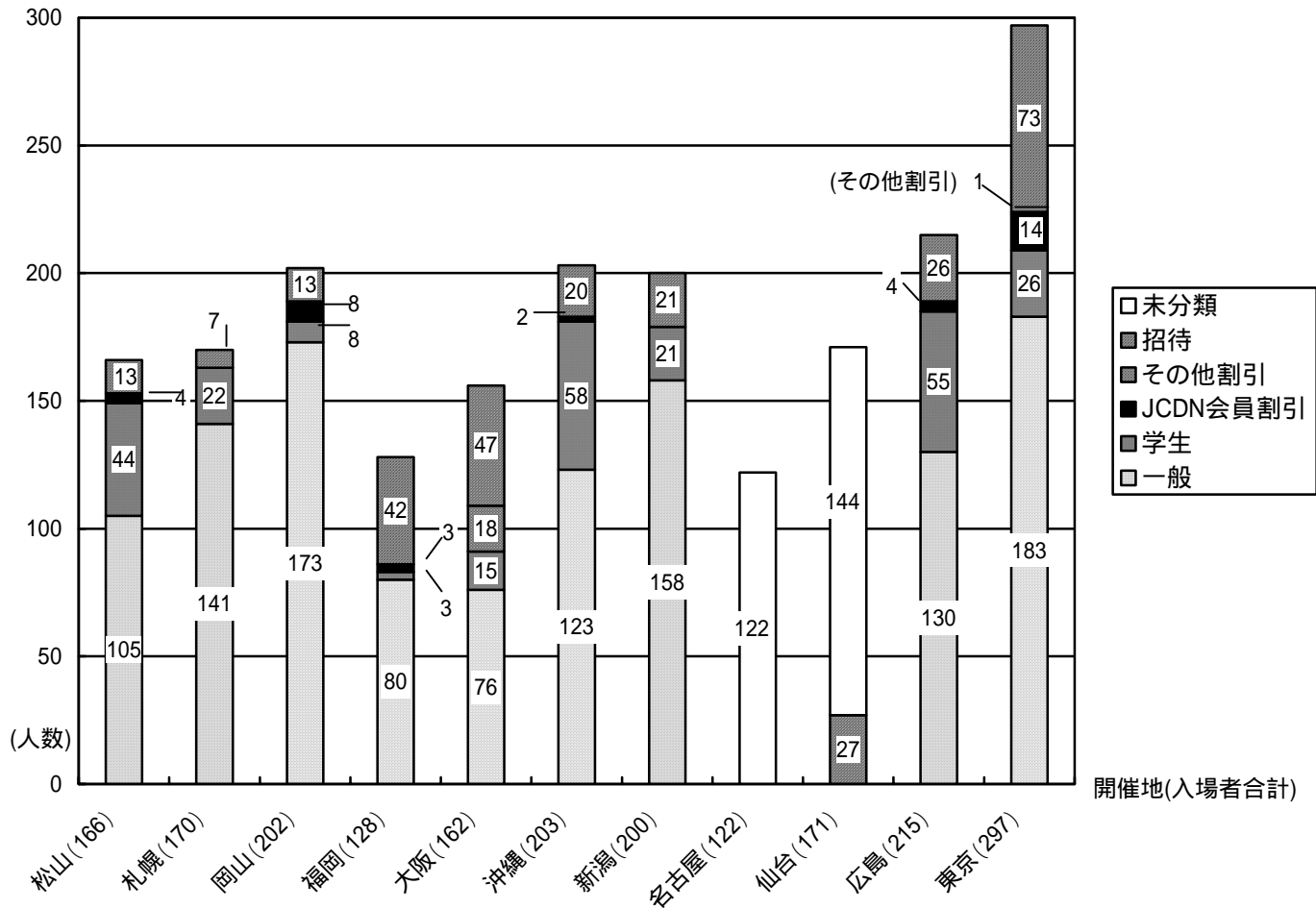
計 11組

# 参考データ

## 【出演アーティスト居住区分布】

北海道	1	札幌	1組	4%
東北	1	仙台	1組	4%
関東	8	前橋	1組	30%
		東京	7組	
中部	2	新潟	1組	8%
		名古屋	1組	
関西	6	大阪	2組	22%
		兵庫	2組	
		京都	2組	
中国	2	広島	1組	8%
		岡山	1組	
四国	3	松山	3組	12%
九州	3	佐賀	1組	12%
		北九州	1組	
		那覇	1組	

## 【各地域チケット内訳】 総入場者数 2036 名





# 【各開催地アンケート】

(開催順)

松山

# 松山市総合コミュニティセンターカメラリアホール舞台上

松山市湊町七丁目 5 番地 TEL/089-921-8222



## 実施概要

**【主催】 財団法人松山市施設管理公社**

【日時・料金】 2003年10月10日(金) 開演 19:00 / 11日(土) 開演 19:00  
一般前売 2000円・当日 2500円 高校生以下前売 1000円・当日 1500円

【出演者】 合田有紀・玉井翔(松山) / 塩澤典子(前橋) / Dance Theatre LUDENS(東京) /  
ほうほう堂(東京) / 森下真樹(東京)

【スタッフ】 テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

A.) 松山という地方で、普段観る機会が少ない他地域のアーティストの作品を観ることは、地元で活動している人達にとって、まさに刺激的なことであると思います。また公演終了後のアフタートークによって、アーティストが作品を創っていく過程や作品のコンセプトを知ることが出来ることも、今後の自己の活動に役立つ貴重な公演であったと思います。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

A.) 地方でありながらダンスが盛んであるといわれる松山で、一般の観客を含めダンス関係者の来場者が昨年を下回ったことは、公社(主催者)としては反省しております。告知方法のあり方が、他の事業も含め課題となりました。地元で活動するダンサーや作品を創る・育てるための継続された事業企画に取り組む必要性を感じました。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がございましたらご記入下さい。**

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい



## チケッ ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】(2ステージ)

一般 105 | 高校生以下 44 | JCDN 会員割引 4 招待 13 入場者合計 166

## 観 客 ア ン ケ ー ト 抜 粋

【10日】

**合田有紀・玉井 翔の作品について**

- ・最後に「素晴らしき世界」私も見れたような気がしました。さわやかさが残りました。
- ・物語性が強いなぁと。コンセプトが分かり易いので安心して見られる反面、分かりやすすぎるなぁとも。

**塩澤典子の作品について**

- ・最初すごくびっくりしました。とても印象的でした。そんなにがんがん動き回って踊っているわけではないけど、指先、足先から何か伝わってくるようでした。ジンとしました。体全体がタイトルと同じだぁ！とつい思ってしまいました。
- ・不思議な振りで感情が無いように淡々としてるかと思えば、手だけで空気を包み込んでいるみたいで面白かった。
- ・ちょっと良くわからなかった。分かるとか分からないとかは関係無いのかもしれませんが・・・。
- ・音から出る有機的の生物を想像しました。

**Dance Theatre LUDENS の作品について**

- ・ストーリーがわかり易かった。(感動系でしんみりきた。)
- ・普遍的で分かり易いテーマだったが、とてもドラマティックで緊迫感があり、作品の中に入りこめた。選曲も大人を感じさせるものであり、質の高い恋愛映画を見た充実感があった。
- ・まるで演劇を見ているようだった。
- ・不思議と言うか奇妙な空気を感じる作品でした。

**ほうほう堂の作品について**

- ・全身にまで神経を使わせているから、一つ一つの体のラインがきれいだった。二人の角度がきれいに揃い、踊りこみをしているなぁと思った。
- ・「身体」「ざわめく何か」言葉では表現できないものを感じました。舞台全体を軽やかに走りまわっていて独特の空間が出来ていたと思う。
- ・動的と言うよりは静止画として美しい総合的な作品だと思った。
- ・テクニクは有るのだろうが伝わってくるものが無い。

**森下真樹の作品について**

- ・年を重ねてゆく事の女の美しさを感じました。
- ・人間の有様をこういうスタンスで見れることにあこがれる。
- ・動きに迫力があり、生命感(?)を強く感じた。
- ・技術の上にクレイジーさがプラスされるとこんなに凄いパワーになるんだと感じました。



### 合田 有紀・玉井 翔の作品について

- ・分かり易い作品。内容と表現の一致が見られた。
- ・人間ではないものに見えました。“気”みたいなもの、息遣い、マスクの中に見える表情に吸い寄せられました。
- ・最初は笑ってしまいそうやったけど、どんどん泣きそうになっちまいました。
- ・肉体に見入った。

### 塩澤 典子の作品について

- ・コンセプトと構成のリンクが見えない。
- ・これは何だ??と思ったのが感想です。ほとんど動かないというのが良かったです。
- ・髪の毛で顔が見えてないとき、こんなにも指先に目がくぎ付けにされるものかと思った。顔が見えてないからもっと長く見たかった。
- ・なんか衝撃。髪が踊ってる。一番好きです。書ききれません。なんか好きです。目を開けた時も。
- ・好きではない。

### Dance Theatre LUDENS の作品について

- ・コンタクトが人間関係を物語っているような気がして凄く感動です。
- ・ダンスと音楽の調和が取れていたと思います。
- ・ドラマをみているような感じがしました。
- ・女の人のソロがちょっと・・・。
- ・現代版“カルメン”風のストーリーに惹かれました。

### ほうほう堂の作品について

- ・絶妙な振りのパターン変化が良かったです。
- ・二人の関係性がとても心地よい。素直に見れる作品でした。もう少しアクの強い部分があってもいいかなあとは思いました。
- ・仲が良いのか悪いのか。。。二人の表情が目も合っても変化しない。何かそこにブツときました。
- ・毒がほしい。作品としての深さを感じない。
- ・透明感のある動きに惹きこまれました。ただ凄くシンプルで、イメージの湧かない時間があった。
- ・斜めの構成が印象的でした。

### 森下 真樹の作品について

- ・体をはっているってかっこいい。めちゃくちゃ好きです。
- ・自分の中のキャラクターを良く知っていてダンスに活かしていたと思います。
- ・しなやかで洗練された動き、魅力的な容姿なのに強烈な個性のある踊りに思わず惹きこまれてしまいました。
- ・本当のものを見せるというよりは全てがつくられているものを見ている感じがしました。それらのクオリティーが高いので、それはそれで充分楽しい。女優っぽく、全て演じている感じがした。
- ・不思議なショーだった。
- ・セクシーな部分もあり、面白いところもあり、楽しく見ることが出来た。



札幌

## 演劇専用小劇場 BLOCH

札幌市中央区北3条東5丁目岩佐ビル1F(サッポロファクトリー北向かい)  
TEL/011-251-0036 URL/http://www.mc.megafit.ne/ bloch/



### 実施概要

**【主催】 NPO法人コンカリーニョ**

【日時・料金】 2004年10月14日(火) 開演 19:00 / 15日(水) 開演 19:00  
一般前売り 2,500円・当日 3,000円 学生前売り 1,500円・当日 2,000円

【出演者】

福村まり(札幌) / Dance Theatre LUDENS(東京) / 長尾忍(佐賀) / 三好絵美(松山) / 村上和司(兵庫)

【スタッフ】 照明:高橋正和 音響:大江芳樹 舞台監督:坂本由紀子 制作:斉藤ちず

【後援】 札幌市、札幌市教育委員会、財団法人 北海道文化財団

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

- A.) ・全国各地で動いているダンス状況を感じることができ、一般の観客、札幌のダンス関係者と呼ばれる人たちにもそれを伝えることのできる意義が大きいと考えています。  
 ・今年の札幌公演は、特に JCDN でのセレクションのバランスのよさによって、観客の反応がとてよかったように思われます。アンケートの回収率が上がり、アフタートークへの観客の参加数が多くなりました。これは、非常に嬉しいことで、企画の定着も少しは進んだのか、と感じました。  
 ・各地での公開選考会も、その土地土地を刺激するという意味で、非常に意義深いと考えています。

**2) 今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など**

- A.) 本企画の意義ある部分を十分に生かしているかといえば、現状、まだまだである反省が毎年残ってしまいます。  
 ・選考会に関する募集告知をもっと早い時期に行い、多くのダンサーに情報が行き渡るようにしようと考えます。  
 ・観客の層を広げるための協力者、協力団体を探す必要を感じています。  
 ・我々が行っているコンテンポラリーダンスの企画が、現状、この JCDN との協力で行っている「踊りに行くぜ!」のみになっていることが、本企画の意義を十分に生かしきれていない原因でもあったと考えられ、札幌独自でも、なんらか、コンテンポラリーダンスの企画を再スタートすべきと検討するつもりです。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がありましたらご記入下さい。**

- A.) 色味、デザイン、それぞれよかったと思います。特に「魅せます。ダンスフルコース。アナタどれが好き？」のキャッチコピーはすごく効果があったと思います。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

- A.) その年のそこそこの状況によると思います。今年の福岡のように新しい人たちが自分たちのチラシを作成したいという要望が上がって、それが企画全体の力になっていたり、公演地での人材育成につながるのすごくいいと思います。

ただ、札幌および現在のコンカリーニョの状態とすると、今年のように JCDN で一括作成してもらったことで、すごく助かりました。また、札幌でも現地で作成したいという要望を出せるようになったら、要望します。それくらい公演現地に力があつたほうがいいとは、思いますので。



## チケッ ト ・ 観 客 ア ン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】(全2ステージ)

一般前売 127 | 一般当日 14 | 学生前売 21 | 学生当日 1 | 招待 7 | 入場者合計 170

## 【観客アンケート集計】 / 回収枚数 42 枚

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性		5	4	7		4	20
女性	2	9	4	1	1	5	22
計	2	14	8	8	1	9	42

地域別 <札幌市内 26 | 市外 7>  
 情報の取得 <チラシ 8 | 新聞 0 | ご案内状 4 | 知人の紹介 20 | その他 5>

## 観 客 ア ン ケ ー ト 抜 粋

【14日】

## 21 歳 男性 学生 江別市

言葉が言葉でなくなって表情が表情でなくなっていく  
 表情が表情のもつ意味でなくなっていく瞬間が続いていく  
 のが好きです。人の肉体を見るのが好きです。  
 踊っている最中に垣間見た表情を終演後にその人の顔に  
 いくら探しても見つからないのです。ほんの一瞬でしたけど、  
 もう見られないものを忘れる事ができず、思い出すたび震わ  
 せられます。

## 25 歳 女性

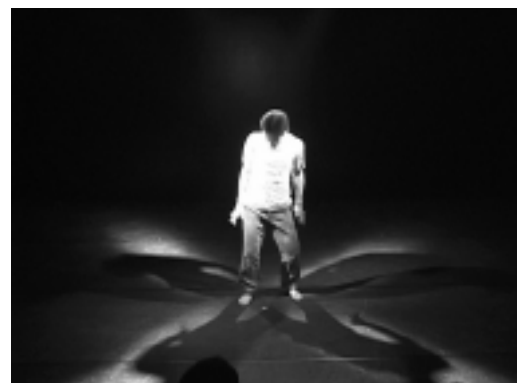
お疲れ様でした。踊りに行くぜ！！は今回で多分三回目です。  
 年を経る毎に色々なジャンルの境界線がうすーくなっている  
 気がするなぁ、と思って見ていました。芝居っぽかったり、限り  
 なくパントマイムチックだったり、しっかりダンスだったりを行っ  
 たり来たりしている感じが凄く好きです。段々と「コンテンポラ  
 ーってこんな物」とかまえてきた肩の力が抜けてらくーに観ら  
 れるように(自分が)なってきて、おー、良い傾向だ！と思っ  
 てもみたり。自分でやってみたら、体さえ動けばさぞかし気持ち  
 良いのだろう…。

## 26 歳 男性 音楽家 余市郡

日本に帰って初めてダンスを見ましたが全ての作品に共通  
 して痛感したのは“日本人”であるという所から始まり“現代”  
 “文化”“内面”ということ。音楽、照明、演出、振付、のコーポ  
 レーションであり、非常に感動しました。こういった身体表現  
 が日本人、日本の教育にもっともっと必要であり、日常に溢  
 れていたらいいなぁと思った。

## 27 歳 女性 札幌市

目からうるこというのでしょうか。コンテンポラリーダンスは初  
 めて見ましたがとても面白かったです。人 1 人の身体の表現  
 の広さに感激しました！ぜひまた観たいです。





### 30代 女性 会社員 札幌市

昨年も観に来ました。昨年は丹波さんに圧倒されて他の人が薄れてしまった気がしましたが、今年は全員凄かったです(ルーデンスが一番好き)見ごたえが有りました。客層も若い人から上の方まで幅広くて好感が持てました。

### 30歳 男性 僧侶 札幌市

身体のパーツをいかに細かく切り分けて「動かす」と「動かさない」の指示を詰めていくかという作業が手にとるようにわかるとてもよい狭さのステージ。どの瞬間から汗が吹き出すかとか、どこで呼吸を許すかとか。だから1人じゃないと成り立たないジャンルかと思いきや、最後の二人は顔のパーツもそっくりだからか(姉弟かと思いましたが)、成り立つ人達も見られて、至福でした。明日も見たい!! ホント良かった!!

### 42歳 男性 江別市

・ コンテンポラリーダンス? 舞踏・バレエ・ダンス? 色々な要素が入っているのでしょうか? 新鮮な感覚を得ました。  
・ 「いつもとかわらない」 意表を突いた音の使い方が印象的です。



## 【15日】

### 10歳 女性 小学生 札幌市

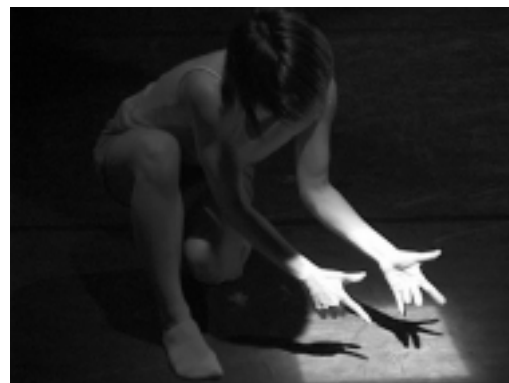
とても表現がきれいで楽しかった。とくにまりさんのダンスがきれいだった。一番最後の人達(LUDENS)がとてもおもしろかった。

### 23歳 女性 北広島市

恐れ入りました。自分の知らない世界がたくさん見れてとても面白かったです。私も頑張りたいです。

### 33歳 男性 トロンボーンプレイヤー 札幌市

今回は仕事仲間である、福村まりさんが出演するというところで、見に来ました。まりさんの作品はもちろん、皆さんとても素晴らしい作品で楽しませて頂きました。ダンスと音楽は同じ部分が色々あります。勉強になった部分も多かったので、今後自分の活動にも生かさせて頂きます。本日は良い作品を見せて頂きありがとうございました。



### 44歳 女性 主婦 札幌市

おもしろかったです。三好さんの足に惚れ惚れしました。足先・指先すごいですね。長尾さんの表情がステキでした。太田さん、大塚さん、とっても面白かったです。

私としては三好さんが好みでした。

どのダンスパフォーマーもとってもよかったです。来年も楽しみにしています!

### 45歳 男性 会社員 札幌市

小ホールでの公演はGood!

### 男性 大学生

面白かったことは面白かった。でもいまいち踊りの本当の楽しさを味わったかどうかは不明。そこまで深く読み取る事はできなかった。残念。もっと直接的な方が好きなのかな?



岡山

# 西川アイプラザホール

岡山市幸町 10-16 TEL/086-234-5877



## 実施概要

### 【主催・制作】 おかやまアートファーム

【日時・料金】 2003年10月24日(金) 開演 18:30

【出演者】 近藤良平 & 野和田恵理花(東京) / ズンチャチャ(岡山) / sonno(大阪) / 三好絵美(松山)

#### 【スタッフ】

舞台監督:木村義人 照明プランナー:吉本輝子 照明:ステージ岡山、小林大記 音響:丸山真輝

【協力】 就実大学、岡本悦子、片岡志保美、矢野しをり、藤原奈保、倉知桂子、阿部泰久

【後援】 岡山県、岡山市、岡山県現代舞踊連盟、山陽新聞社、朝日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、産経新聞岡山総局、岡山日日新聞社、山陽放送、岡山放送、NHK岡山放送局、岡山エフエム放送、岡山シティエフエム

【関連企画】 10月25日(土) 「Dance After Meeting」

13:00 ~ 15:00 / ワークショップ 講師:須原由光(ズンチャチャ)+三好絵美

15:15 ~ 16:30 / アフタートーク ゲスト:近藤良平

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

- A.) 地域のパフォーミング・アーツにおいて最も課題だと考えている作者と作品の“相対化”が「踊りに行くぜ!!」プロジェクトには具現されている。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

- A.) ただ、地域の才能はまだ未開拓・未成熟な要素が大きく発表型だけでなく育成型の取り組みも重要かと思われる。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がございましたらご記入下さい。**

- A.) 判型などは今年ので良かったと思います。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

- A.) 今年の方法で問題なかったため。テキスト、ロゴ、写真等のデータ集積の効率がよいと思います。



## チケッ ト ・ 観 客 アン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】（1ステージ）

一般前売 161 | 一般当日 12 | 高校生以下 8 | JCDN 会員割引 8 | 招待 13  
 入場者合計 202

## 【観客アンケート集計】

この公演を何でお知りになりましたか？

<新聞 0 | テレビ 0 | チラシ 6 | DM 4 | 情報誌 2 | ダンスなどの団体 14 | 家族・知人 16 | その他 8 >

チケットはどこで購入されましたか？

<プレイガイド 4 | 団体 6 | 知人・友人 13 | 当日 7 | JCDN 5 | おかやまアートファーム 6 | その他 6 >

これまでにコンテンポラリーダンスの公演をご覧になったことがありますか？

<ある 35 | 初めて観た 17 >

ダンスについてお聞かせください。

<ダンス経験がある 28 | 経験はないがやってみたい 4 | 観ているだけで良い 12 >

本公演で良かったと思われる出演は？

<近藤良平 & 野和田恵理花 39 | ズンチャチャ 36 | sonno 9 | 三好絵美 31 >

## 観 客 アン ケ ー ト 抜 粋

## 感想

## 16 歳 女性 高校生

ダンスを超えた、これこそ「本当のダンス」を観れた気がした。出演者、それぞれの雰囲気違ってよかったです。

## 21 歳 男性 保育士

見た事のない感じのダンスばかりで驚きました。瞬きを忘れる位じっくり見てしまいました。

## 28 歳 男性 公務員

こういう企画はこれからもどんどんしてください。観ていて元気が出ました。また観たいです。毎年岡山でやってほしい！

## 28 歳 女性 販売

観に来て良かったです。身体一つでこんなにいろいろな感動を受けるとは。。。生命や身体的美しさや、躍動感や、観ていて本当に楽しかったです！！ダンスって自分では踊れないけど、楽しいし鳥肌が立ちます。ありがとうございました！！

## 31 歳 女性 OL

体の可能性を感じることが出来て良かったです。みんな身体がすごく綺麗でした。

初めて観てびっくりでした。ダンスってこんなに楽しめるものなんだって感じました。これからたくさん観に行きたいです。



### 31歳 女性 公務員

岡山でこのような会が開かれて大変嬉しく思います。とても気持ちの良い空間でした。

### 40代 女性 公務員

ダンスの公演を見せていただくのは初めてだったので、この日が来るのを楽しみにしていました。もう十年早くこんなチャンスに恵まれていたら私も一緒に踊れたのに…。是非、またみたい!

### 56歳 女性 主婦

とにかく楽しかった。そして現代のメカ文明に汚染される前の、人の温かさを感じられる交流風景が、遠い良き時代を思い起こさせてくれました。



## (アーティスト別)

### 近藤良平 & 野和田恵理花

- ・さずが! あれだけの長さにも関わらず、全てが完成されている印象を受けました。
- ・かわいかった。分かり易かった。お二人の関係の微妙なかけひきと、素敵なダンスとで、ストーリーがあって、時間があつという間に過ぎました。大人の余裕が素敵でした。

### ズンチャチャ

- ・面白かった。踊らされているという印象がなかった。
- ・とっても楽しそうでした。もっと大きな舞台の方が似合いそう。
- ・女性らしい発想で、すごく意外性がありました。

### sonno

- ・面白くもうまくもない。分からないのがコンテンポラリーダンスだと言う時代は終わらなければと思う。
- ・初めてダンスから怖いという感情と、驚くほどの緊張感を与られました。スバラシイ…。

### 三好絵美

- ・動きが興味深かった。とても引き込まれました。なんか涙が出てきました。
- ・悪くはないのだが…。構成が甘かったね。
- ・こんなに肉体って自由なんだ…。って思いました。身体との会話がすきなんです。
- ・手足がまるで別物でした。筋肉のうめきみたいな感じでした。美しい動き。
- ・一人であれだけのことが出来るのか! と感動しました。身体のパーツが意思を持っているようで、
- ・観ていて不思議な気分になってきました。



福岡

# イムズホール

福岡市中央区天神1-7-11 イムズ9F  
電話/092-733-2016 URL/http://www.ims.co.jp



## 実施概要

### 【主催】 イムズ 「踊りに行くぜ!!」福岡公演実行委員会

【プログラム名】 「イムズ パフォーミングアーツシリーズ 03」

【日時・料金】 2003年10月28日(火) 開演 19:00  
前売 2500円・当日 3000円 学生 2000円

【出演者】

長尾忍(佐賀) / GAMADASU ダンス研究所(北九州) / 森下真樹(東京) / 塩澤典子(前橋) / 砂連尾理 + 寺田みさこ(京都)

【スタッフ】 テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ 照明:(株)SLI 音響:(株)STAFF

【制作協力】 五島朋子

【後援】 福岡市、福岡市教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団

【SPECIAL THANKS】

(財)福岡市文化芸術振興財団「制作者になるアート・マネジメント・セミナー」実践編受講の皆さん

## チケット集計

## 【総入場者数・チケット内訳】(1ステージ)

一般前売 23 | 一般当日 57 | 学生券 3 | JCDN 会員割引 3 | 招待 42 | 入場者合計 128

## 主催者アンケート

古場治 (株式会社 イムズ)

1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

A.) 受け入れ側の反省としては、きめ細かな広報体制を敷けなかったこと。

2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など

A.) 作り手側も制作する側も、地元でトップランナーと呼べる人が出てきて欲しい。



大阪

# Art Theater dB

大阪市浪速区恵美須東 3-4-36 フェスティバルゲート 3F  
TEL/06-6646-1120 URL/http://www.db-dancebox.org/



## 実施概要

### 【共催】NPO 法人 DANCE BOX

プロデューサー:大谷燠 アシスタントプロデューサー:文 運営スタッフ:横堀ふみ、竹ち代毬也、内山大

【日時・料金】 2004年11月2日(日) 開演 19:00 / 3日(月祝) 開演 15:00  
前売 2500円・当日 3000円 DANCE BOX 会員前売 2300円・当日 2800円 学生(前売のみ)2000円

【出演者】 身体表現サークル(広島) / 高野美和子(東京) / 野口知子(兵庫) / honeysuckle(松山) / 康本雅子(東京)

【スタッフ】 舞台監督:大田和司 照明:MAKI(片岡組) 音響:宮田充規(GEKKEN staff room)  
スチール撮影:清水俊洋



**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

## A.) 良かった点

初めての試みである選考会を開催したことは、関西のアーティストにとってチャンスが広がり、また、この選考会によって今まで知られてなかったアーティスト(野口知子さん)の参加もあり、有効な機会であった。選考会には、過去3回の巡回公演に参加したアーティストや、またビデオ選考にもれたアーティスト他一般観客も多数集まり、ノミネート作品の上演と選考委員のコメントに耳を傾けた。関西では、このような専門家の意見を聞くことの出来る公の場が未だ少なく、関係者の興味が集中する場となった。

また、地方のアーティストの DANCE BOX 企画への参加が促進された。

2004.1 アートキャバレー #3 身体表現サークル (03 年出演)

2004.2 「Dance Circus.25」 合田緑 得居幸 大阪公演の出演者ではないが、相互交流の促進によって出演が決まった。

2004.2 「Dance Circus.25」 山賀ざくろ (02 年出演)

2004.3 「コンテンポラリーダンス in 新世界」野外ダンスサーカス編 身体表現サークル (03 年出演)

一方で足りなかった点

公演がパッケージ化されてきて「上演して帰る」だけになってしまい、その後のアーティストとのつながりもあまり持続しない感も拭えない。受け入れ側の姿勢はあるが、事前事後の詰め方をもう少し豊かにしていければと思う。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

## A.) 第1の課題は、集客である。

普段から数多くの公演を開催する中で、どうスペシャルな企画として見せていくのか。また、関西での秋に開催されるダンスの公演数は年々増える傾向にもあるので、公演情報の発信方法の検討は必要である。

また、動員数拡大の柱としてアーティストの動員を伸ばし、関西のアーティストと出演アーティストの相互交流が生まれる場になればと思う。選考会の広報を充実させると、アーティストにとっても段階的に今プロジェクトの認知の浸透になると思う。また、具体的には交流会/アーティスト・ミーティングを開催することで、相互の情報交換は促進するのではないだろうか。

アーティストに、各地方の主催団体の活動内容や特性、そしてコンテンポラリーダンスのおかれている状況を知ってもらえたら、アーティストにとってもその場で上演する意義が出るのではないだろうか。各劇場および主催団体はそのための資料を作る必要があると思う。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がありましたらご記入下さい。**

## A.) 地域別チラシは、効果はどこまでのものがあつたか把握しかねるが、確実に情報は届けていくことが出来たと思う。ただ、形態、デザイン、色合い等、全体的に弱い印象を持った。

来年度に関して・・・

総合チラシに、各地域の特性であつたり、主催団体の活動内容を TOPICS 程度でもあると、このプロジェクトの膨らみが出るのではないだろうか。

地域別チラシは、JCDN から大阪公演に向けての(ここで開催する意義が見える)コメントがあるといいのではと思う。また、DANCE BOX からの視点が入ったコメントもあってもいいかもしれません。

コメントがいいのか、具体的な内容はもっと検討したいです。検討事項として、昨年度のアンケートの抜粋もあってもいいかもしれません。

地域別のチラシがあつた方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

## A.) ある程度統一感があつた方がいいと思う

## チケッ ト ・ 観 客 アン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】(2ステージ)

一般前売 76 | 一般当日 6 | 学生前売 15 | 招待 47  
 DANCE BOX 会員割引 17 | 当日 DANCE BOX 会員割引 1 | 入場者合計 162

## 【観客アンケート集計】/ 回収枚数 92 枚

	10代	20代	30代	40代	50代	不明	計
男性		10	5	4	1	5	25
女性	1	23	9	3	3	28	67
計	1	33	14	7	4	33	92

## 地域別

<大阪府 22 (大阪市内 9・大阪市外 13) | 兵庫県 22 | 京都府 15 | 滋賀県 2 | 愛知県 1 | 富山県 1 | 石川県 1  
 | 広島県 6 | 愛媛県 2 | 岡山県 1 | 千葉県 1 | カナダ・モントリオール 1>

## 情報の取得

<広報誌 2 | 新聞 2 | 劇場 2 | チラシ 17 | ホールからの案内 8 | 友人から 25 | その他 18 (出演者、JCDN)>

## 観 客 アン ケ ー ト 抜 粋

## 20代 女性 京都市

野口知子さん = これからエレベーターガールを見かける度に側転をしだすのではなかろうかとドキドキしそうです。後半の展開力に圧倒されました。何ともいえない表情にみつまられるともうー。

身体表現サークル = 人間の体って素晴らしい！新たな発見がたくさんありました。また何処かで出会いたい。

高野美和子さん = 都市の暗闇を徘徊する人形のように思えました。後半の壁の方に移動してからののびが好きです。行きつ戻りつの動きの質が好きです。

ハニーサークル = お二人独特の関係が見えた様な気がしました。女の人が上に乗ってる動きが好きでした。

康本雅子さん = 無音であれだけでもたせられるなんて。関節の柔らかさにビックリです。シンプルなんだけど飽きさせない上手さを楽しめました。個人的に一番好きです。



## 20代 女性 富田林市

身体表現サークルはいい意味で予想を裏切ってくれて良かった。そのうち笑いにつながっていくだろうとは思っていたけれど、二人で創り上げた「カタチ」が素敵な「モノ」に見えてきて、ハッとした。アフタートークでも二人の手柄が垣間見えて楽しませてもらいました。それから康本雅子さんも、ものすごく良かった。何というか、手の指一本一本にも、関節一本一本にもタマシイが宿っている感じがして感動した。そして笑った。

私も眠れない時に、手であんなウゴキをして遊んでいることがあるから。…もしや見られてた？と焦った。



## 50代 女性 川西市

それぞれが懸命に自己表現している姿に感動しました。

益々、日頃の練習が沢山のの人に認めてもらう場の多からんことをお祈りします。素敵でした。

### 59歳 女性 河内長野市

ダンスもバレエもショー的なものも好きで見たりしますが、今回見せて頂き、「こんな身体表現もあるんだなぁ」と自由でのびのびと楽しく拝見しました。

### 女性 川西市

どれもすごい迫力で、息を詰めて見てしまいました。体が熱くなり正直とても疲れました。手は、足は、体は口ほどに物を言い、です。実に沢山の“ことば”をもらった気がします。

### 33歳 男性 豊中市

選ばれて出てる人達なので質が高いと思う。ただ、どれも内省的な空気を感じてしまい、気が重かった。コンテンポラリーダンスの美意識が全てこの様なものではないかと思いたいのので、もっと空気感の違うアーティストでのラインナップも考えて欲しい。

### 19歳 女性 京都府船井郡

それぞれの作品での良さがあり、コンテンポラリーのすごさがわかったような気がした。今までジャズやモダンダンスに触れることは多いけどコンテンポラリーはあまり見ないので良い機会でした。

### 28歳 男性 東大阪市

体の感覚を意識して踊っている人と、感情によって動きを作り踊っている人とがあったように思いました。後者はともすれば、物語（おはなし）になってしまう恐れがあり、ダンスという本来、体で表現するべきものから離れ、芝居に近いものになってしまう可能性すらある。

### 31歳 女性 大阪市

動くということ、踊るということ、改めて考えさせられました。皆さんお疲れ様でした。

### 24歳 男性 京都市

見たこともない踊りの数々が展開し、とても驚きの多い公演でした。ハニーサクルさん、see saw とは随分違う世界観で良かったです。空間が色々な質に変化するのが見えました。身体表現サークル、康本さん、ショッキングでした。ありがとうございました。

### 43歳 男性 千葉市

全体的にバラエティーがあって面白いんですが年々小粒になっている感も  
来年も期待

### 49歳 女性 西宮市

康本雅子 うちの娘をみているようで途中から笑いをこらえるのが大変でした。

### 59歳 男性 川西市

表現を身体のみで表すことの思いが伝わりました。



那覇

# 前島アートセンター 5F TAKASAGO ホール

那覇市前島3丁目16-2 TAKASAGOビル  
TEL/098-863-0244



## 実施概要

【共催】 NPO 法人前島アートセンター

【制作】 「踊りに行くぜ!!」 沖縄公演実行委員会

代表: 祖父江玲 宮平剛仁 神山若夏

【日時・料金】 2004年11月15日(土) 開演 19:00 / 16日(日) 開演 19:00  
一般前売 2000円・当日 2500円 学生前売 1500円・当日 2000円

【出演者】 砂連尾理 + 寺田みさこ(京都) / 照屋美季・又吉大介(那覇) / 納谷衣美 + 山下残(京都) / 三好絵美(松山) / 康本雅子(東京)

【スタッフ】

テクニカルディレクター: アイカワマサアキ 音響: 三橋めぐみ 照明: 下田めぐみ 舞台: 仲宗根満

【協力】 山城幸雄(山幸産業) / JUNK TAKASAGO HALL / スタッフ塾 / 沖縄舞台 / wanakio 実行委員会 / 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE / 菅野信也 (ステージオフィスばんく) / 劇団・夢宙 / 渡久地部品店 / 渡久地蔵人 / SHINE / プロジェクト・コア / 金城太志 / はーるー / woma cafe / わたるさん / マイクさん

【後援】 沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、琉球新聞、沖縄タイムス、NHK 沖縄放送、沖縄テレビ放送、琉球放送、FM OKINAWA、FM 那覇、おきなわ JOHO、おきなわ倶楽部、hands

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

- A.) 企画自体の意義は素晴らしい。公演を施行して更にその重要性が私自身再認識できた。沖縄に関して言えば沖縄には皆無とされる「コンテンポラリー・アート・シーン」にひとつの風穴をあけたイベントとなったこと。また、公演に向けての制作的な運営をしていくなかでいろいろなお会いがあり、今後の沖縄での舞台公演、アートイベントなどに発展していく可能性を感じたこと。以上の2点が非常に素晴らしかったです。もちろん沖縄公演の出演者たちの演目も素晴らしかったです。足りなかったのは沖縄公演に関して言えば実行委員会の体制力の弱さです。シーンが未発達な状況の中で開催に踏み切ったことは、十分に反省し検討し、今後慎重に考えなくてはいけないでしょう。

**2) 今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など**

- A.) 1)の足りなかったところ、の項目の続きでもありますが沖縄に関して言えば、「踊りに行くぜ！！」を終えて沖縄でこのようなイベントをやる意義・必要性は十分に感じてはいますが、そのイベントの受けもととなる実行委員会的な役割を全うできる人材というものが根本的に現在、いない、という問題があります。昨年の公演は何とか終わることが出来たのですが(もちろんJCDNからの多大なサポートがあったからなのですが)ではこの2004年はどうするのか、という話になったときの事を考えると今はまだ明確な返事を出来ないでいます。踊りに～の受けもとになる地域の制作に対し、地域の現状を理解していただきたいと思います。もちろん踊りに～の必要性、企画のすばらしさは沖縄にいる誰よりも理解しているつもりです。しかし制作をしてくれる人を一人の人間として見たとき、その個人の生活・仕事・活動を苦しめるようなことはあってはいけません、これはJCDNに察知して欲しい、という訳ではなく、今の沖縄ではそういう現状なのだということを、ご理解いただきたいのです。その上私は個人的には踊りに行くぜ2004年沖縄公演の開催は難しいのでは、と思っています。この件に関しては今後また検討していきたいと思います。(案ですが踊りに～の主催者・地域制作者を一同に集めて懇談会みたいなのをしたら、いいのでは?と思いました。反省や地域ごとの体制、新案などを話し合える良い機会になるのでは?)

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がありましたらご記入下さい。**

- A.) デザイン全般に関しては恐れ多くも以前、水野さんに意見してしまったこともありましたが問題ないと思います。全体チラシにあれだけ多くのアーティストが掲載されていると圧巻、という感じで、私はかっこいい、と思います。あえて気になった点をあげると、全体チラシの日本地図の部分の公演地域と地域ごとの情報のレイアウトがわかりづらいこと、全体チラシの表紙の部分がインパクトは強くて良いのだけれどデザイン的なスタイリッシュさに、ちょっと欠けているかな、と思います。恐れ多いのですが。最近の舞台の公演のチラシはどこもかっこいいので(もちろん個々のカンパニーなりの世界観、というものがあるから、かっこいいのだと思いますが)無限大の可能性と踊りに～が持つワクワク感(期待感)、JCDNの威厳みたいものを感じられるデザイン(?)そういうデザインに期待します。期待感、そそられる感、楽しそうな感じ、があるといいですね。ビジュアルとして人間が現れてもいいと思います。ダンスですし、人の身体が主役ですし。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

- A.) 宣材が早くから用意されていたことは非常に制作的には動きやすかった。しかし、地域チラシがもっと効果的に使われるために  
・サイズを変更する(例えばダイレクトメールとしてハガキで郵送できるようなサイズ・レイアウト)  
・より多くの情報を掲載するために発注期間をもっと後にする。(沖縄に関しては、実行委員会の動きが遅かったためでもありますがJCDNに制作していただいたチラシが早く上がったのでチケット取り扱いの情報や後援名などを掲載した別の沖縄公演チラシの製作が必要となってしまったので)  
以上の2点を考慮していただければ全体チラシと、地域チラシが、より効果的な役割をします。

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

- A.) 全体チラシとの統一感を出すためにJCDNで作っていただいた方がよいか、と。

## チケッ ト ・ 観 客 ア ン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】（2ステージ）

一般前売 106 | 一般当日 17 | 学生前売 54 | 学生当日 4 | JCDN会員割引 2 | 招待 20 | 入場者合計 203

## 【観客アンケート集計】

本公演をどのようにお知りになりましたか？

<出演者から 4 | 友人・知人から 20 | チラシ 9 | インターネット 1 | DM 1 | 雑誌・新聞・ラジオ 1 | その他 3 >

特に印象に残ったアーティストは？

<砂連尾理+寺田みさこ 19 | 照屋美希+又吉大介 8 | 納谷衣美+山下残 11 | 三好絵美 15 | 康本雅子 15 >

## 観 客 ア ン ケ ー ト 抜 粋

## 【15日】

コンテンポラリーダンスはあまり接する事がなく、なんとなく観てる方は退屈じゃないかと思っていた。しかし、観てみるととても楽しく、迫力があつた。

表現という言葉、身体という言葉、言葉では言い表す事のできないエネルギーを受け止められた事、生命力を改めて感じられた事、感謝です！素晴らしい！！

すごくよかったです。沖縄にはアートの土壌というものが発達していないと思うので、こういったイベントがあることがすごく嬉しいです。よいものをみせて頂きました。ありがとうございました。

新聞の告知を見ましたが、宣伝不足だと思います。次回はもう少し工夫して県内の幅広い人達に見せて下さい。

トリップ。全てが不思議。欲望。全て初めての体験。笑いも美もだるさも驚きも。最終的に刺激的。



## 【16日】

体で表現するということはすごいと思った。音や絵や言葉で表現するよりダイレクトに伝わってくるけれど限定的でないからいろんな捉えられ方ができる。面白かったです。

面白かったです。ダンスって難しいなあって、こんだけ汗かいて頑張ってるのになかなか伝わりにくいもんだなぁと思いました。

はじめてこういう表現をリアルに観たのですが、スゴイ！身体表現は理解しにくいというイメージがあるのですが、人が人でなくなる瞬間と戻る瞬間がよいです。狂気に近いものもある。演劇にはないものがあって勉強になりました。また観たいです。

純粹に体を動かすと本当に心地よい。身体の動こうとするままに、体を動かす事で、自分の命の鼓動、息吹をその時の自分として聴ける気がする。今日は本当にありがとうございました。



# 新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあスタジオ B

新潟市一番堀通町 3-2

TEL/025-224-5622 URL/http://www.ryutopia.or.jp



## 実施概要

**【共催】「踊りに行くぜ!!」新潟公演実行委員会**

**【制作】文化現場**

【日時・料金】 2004年11月21日(金) 開演 19:00 / 22日(土) 開演 15:00  
一般前売 2500円・当日 3000円 学生 2000円(前売のみ)

### 【出演者】

北村成美(大阪) / 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE(東京) / ほうほう堂(東京) / 増子浩介(新潟)

### 【スタッフ】テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ

照明:伊藤裕一 音響:今井麻衣子 舞台監督:松浦武利 舞台スタッフ:安達修子

### 【協力】劇団五十嵐劇場

### 【後援】新潟県教育委員会、新潟市教育委員会

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

- A.) 新潟は初めての開催でしたが、参加して面白かった(良かった)というのが全般的な印象です。このことは、主催者、地元出演者、観客ともに共通した感想です。「踊りに行くぜ!!」の企画趣旨が共感できるものでしたし、情熱をもって関わることができました。
- それと回を重ねる毎に進化発展していくプロジェクトであることも、認識しました。と同時に地域の主催者の主体的な意見(関わり方こそ)が肝要だと痛感しました(コンテンポラリーダンスの定義づけというか、そのへんの解釈も含めて)。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

- A.) 結果的にはそこそこ集客できましたが、開催間際まで盛り上がり欠け、話題を呼び起こすことにずいぶん苦勞しました。全国紙(誌)でのパブリシティ展開なども、もっと露出を期待したいところ。プロジェクトのねらいは複数あるわけですが、達成度に関きがあることもまた事実、そのへんも今後、整理検討していった方がよいでしょう。
- それと新潟公演が行われる前に、(今年の話題作を集めて行うとした)東京公演の出演者が発表されたときには、正直がっかりしました。いろんな意味で、以後、検討してもらいたいと思います。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がございましたらご記入下さい。**

- A.) 地域別のチラシについてはあった方がよいと思います。
- その作成については、地域で作ろうかJCDNで作ろうか、そのどちらでもいいと思います。ただし、後者の場合は、校正等ていねいにやりとりできることを条件とします。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい





## チケッ ト ・ 観 客 アン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】（2ステージ）

一般前売 148	一般当日 10	学生前売 21	招待 21	入場者合計 200
----------	---------	---------	-------	-----------

## 【観客アンケート集計】

本公演をどこでお知りになりましたか？

<チラシ 11 | ポスター 1 | DM 2 | 新聞 5 | 雑誌 1 | ラジオ 1 | 友人、知人 13 | その他 11 >

本日の出演者のうち、これまでに公演をご覧になった方はありますか?!

<北村成美 1 | 増子浩介 11 >

## 観 客 アン ケ ー ト 抜 粋

## 《感想》

## 10代 女性

踊りにも色々なものがあるんだと改めて感じました。とてもダンスの枠を超えていて、すごかったです。次回も是非みたいです。

## 10代 女性

ただ立つだけ、腕を伸ばすだけの動作でも、一つの動きであり、踊りであると、またどんな動きでもつなぎ方や速さなどで美しくなるものだと教わる事ができました。一つの作品がとても長い時間なのですが、見ていると時間を忘れ、頭の中が作品だけになりました。今回来てたくさんの方を学び、とてもいい経験になりました。とてもいい時間でした。

## 10代 女性

1~2人の踊りで、すごく近くで見る動きには、迫力と驚きでいっぱいです。踊りというものへの理念が吹っ飛びました。

## 20代 女性

きれい過ぎるものばかり見ていたので、久しぶりのコンテンポラリーダンスは新鮮で刺激的でした。身体での表現はとも心に響きます。

## 20代 女性

初めてプロのコンテンポラリーダンスを拝見しました。日常の些細なことや実体験からテーマを見つけると聞いて、目の付け所がすごいなあと感じました。

## 20代 女性

アフタートークで話を出来たところが良かったと思います。“ダンス”という言葉をもっと発見するようになりたいです。

## 女性

四組それぞれが本当に「愛すべき」という感じでした。全



然違うお互いのやり方を、どう(もちろん自分のやり方に誇りを持っていらっしゃると思いますが…)思うのかなぁと思いました。全く違う形の組が次々に出てきてこちらはすごく面白い。

#### 40代 女性

まだまだマイナー間のあるコンテンポラリーダンスが新潟にも少しずつ根付き始めたことを感じます。ダンサーばかりでなく、観る側の目も同時に育っていくことの大切さをこの公演の中で実感しました。JCDN という存在は初めて知りましたし、団体に所属しないソロのダンサーの発表の場が提供されることはとても貴重なことだと思います。ダンスの盛んな新潟はこれからどんどん面白くなりそうな気がします。企画の提供有難うございました。



#### 60代 女性

人間の原点を見たような思いです。余分なものをこそぎ落としたシンプルさの中に、表現の原点を見たような思いです。ダンスの概念を変えさせられた。

#### 60代 女性

何かよく分からないなーという思いの中にも、心の奥を揺さぶられる、そんな経験をしました。

#### 30代 男性

やっとここでもこういうダンスが見られるようになったのかと感動しました。

#### 40代 男性

伝えたいのか、表したいのか。表すことによって伝わるのか。色々考えさせられました。

#### 40代 男性

四組とも個性的で大変ゲー！毎年やりましょう。



### 〈アーティスト別〉

#### 北村成美

北村成美さんの人柄のあつさが好きです。観ていて全然飽きませんでした。

オリジナリティーのほかに、高い身体能力もを見せていただき感激した。

本当に命の限り踊っているという感じがして、すごく良かったです。

#### ほうほう堂

かわいらしくて素敵だった。個人的に一番好きでした。しなやかな動きが素敵でした。

#### 増子浩介

増子先生のようなダンスが好きです。動きがきれいで素敵でした。

#### 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE

気迫がすごく、吸い込まれました。



名古屋

# 七ツ寺共同スタジオ

名古屋市中区大須二丁目 27-20  
TEL/052-221-8646



## 実施概要

### 【共催】「踊りに行くぜ!!」名古屋公演実行委員会

【日時・料金】 2004年11月28日(金) 開演 19:30 / 29日(土) 開演 15:00  
一般前売 2500円・当日 2800円 学生前売 2000円・当日 2300円

【出演者】 sonno(大阪) / 高木理恵+伏木啓(名古屋) / 高野美和子(東京) /  
納谷衣美 + 山下残(京都) / 村上和司(兵庫)

【スタッフ】 テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ / 舞台監督:金子康雄 / 音響:神阪立人

## 主催者アンケート

伊藤ふき代(「踊りに行くぜ!!」名古屋公演実行委員会)

1)本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど

A.) やっと名古屋公演で集客のめどがついたことがよかったです。

今回集まらなかったら、少しお休みしようかなと思っていたところです。見てくださった方々は口をそろえておもしろかったという意見で今後も期待できそうです。WSの集客が思ったようにいきませんでした。前は好評だっただけに残念です。来年のJCDNに作品をだしたいというアーティストもでてきたので今後も活動に少しは希望が持てました。

今回地域のチラシをつくったことは非常によかったです。全体チラシは小さくて折りこみをすると落ちてしまうことが多かったです。

2)今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など

A.) 今後は利益をだしていきたいと考えています。

今の段階では名古屋の制作費は全然でていないのですが、チラシに広告を載せるなど、工夫をしてなんとか少しでも制作費をだせるようにしていきたいです。

3)今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がございましたらご記入下さい。

A.) 大きさは適当だったと思います。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

## チケット集計

## 【総入場者数・チケット内訳】(2ステージ)

11/28 66 | 11/29 56 計 122名



# 仙台

## エル・パーク仙台スタジオホール

仙台市青葉区一番町4丁目11番1号 仙台 141ビル 6F  
URL/http://www.sendai-l.jp/whats/



### 実施概要

## 【主催・制作】edge-on-dance / 「踊りに行くぜ!!」仙台公演実行委員会

代表:伊藤みや、制作:亀山季代子、阿部立男、石井忍、太田久美子、鎌田順子、千田祥子、千葉里佳

【日時・料金】 2004年12月13日(土) 開演 19:00 / 14日(日) 開演 15:00

前売一般 2500円・当日 3000円 学生前売 2000円・当日 2500円 ペアチケット前売 4600円(先着50組)

【出演者】 佐藤美由紀・千田優太・吉田美香(仙台) / 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE(東京) / 野口知子(兵庫) / honeysuckle(松山) / 森下真樹(東京)

【スタッフ】 舞台監督:(有)舞台監督工房 音響:(有)コントライブ 照明:アイカワマサアキ

【助成】 仙台市市民文化事業団

【仙台公演アドバイザー】(五十音順)

小川直人(企画活動支援家)、里見まり子(ダンサー・宮城教育大学)、曾根隆司(ウェルパフォーミングアートマネジメント代表)、村上タカシ(美術家・宮城教育大学・NPO芸術資源開発機構 ARDA)、吉川由美(演出家・プロデューサー)

【後援】 財団法人宮城県文化振興財団、ミヤギテレビ、TBC 東北放送、NHK 仙台放送局、仙台放送、KHB 東日本放送、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台支局、河北新報社、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、せんだいタウン情報、ラジオ 3FM76.2、エフエム仙台

【special thanks!!】 伊藤トオル、砂金範子、きらく企画、坂本晋、せんだい演劇攻防 10-BOX、仙台メディアテーク、仙台市市民活動サポートセンター、財団法人仙台市市民文化事業団、財団法人盛岡市文化振興事業団、ひょうげん畑 千の遊び、(有)ウェルパフォーミングアーツマネジメント

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

A.) 特に仙台ではバレエなどの“お教室”人口は多いのだが、コンテンポラリーを自分たちとは縁のないものとしてとらえているように見受けられる。ダンス周辺の客だけでなく、アートや音楽など表現活動全般に関わる人へのアピールを考える。(仙台のアドバイザーはそのひとつの試み)

踊る側が圧倒的に少ない地域なので、選考会以前にWS等で踊る人を育てる/刺激することを地道に継続して行く方法はないものかと思う。もちろん最終的にはダンサー個人の問題なのだが、まだその土壌がない段階なので。ちなみに「ローリーナ・ニクラスの振付家のための構成力養成WS」はかなり良い刺激になったようだ。理論的にダンスを語ることは、普及活動にとっても役立つと痛感した。

仙台だけでなく東北を視野に入れた宣伝活動が必要。(盛岡、山形ですら全く知られていない) JCDN から直接各バレエ教室や団体にDMをおくるといのはどうだろうか？

選考会は批評でなく「ダンサーと観客を結ぶ場にする」ことに重きを置きたい。

そもそも日本人は、“ディスカッション”の文化が未熟である。客席の組み方やファシリテーターなどの工夫(ex.場のデザインとしても、審査員席を机とともに設置してしまうと、どうしても構えてしまう。フラットな雰囲気づくりがまずは必要)によってもっと心安く作品について語り合える空間になった方がお互いにとって有意義だろう。(ダンサーは他者の意見を聞ける。観客は新しい表現に近づける、など)ダンスという行為を巡って多角的な視点が生まれ、より立体的にする工房というか。批評だと、その基準に沿わない人はこの企画に背を向ける以外ないような気がした(“良し悪し”の批評や批判ではなく「分析」のスタンスがふさわしいように思う)。

今回の選考会ではダンサーにディスカッション能力も問われていたように思う。そうであれば書類選考の時点で、作品意図等を言葉で説明できるように支持することも重要だろう。ダンサー自体も観客や選考員とコミュニケーションをとる用意を事前にしないと、ディスカッションはスムーズに進まないと感じた。

そもそもダンサーにとって、踊る以外に言葉による説明が必要なのか…という考え方もある。

選考会の結果発表は公表する必然性を感じなかった。むしろ後日郵送にするほうがよい。まだまだ仙台では“デリケートな”問題だったらしい。

公演後のトークはせっかくの機会なのでもっとヴィヴィッドなものにしたい。ありきたりな質問をダンサー全員に丁寧に聞く必要はない。しかも観客の感想というものはボディブローのようにあとでじわじわ来るものだから、その場でトークというのは実は簡単ではないのであった…。それを引き出すのはファシリテーターとしての司会の力量なのかもしれない。

他地域のことは分からないが、この規模の企画を有志の実行委員会形式で運営し、継続していくのは難しいかもしれない。委員会ではできあがった企画を受け入れるだけでいいのか、積極的に関わってつくっていくのかなど予算やプログラム含め、JCDNとの関係にとまどうことが多かった。地域の実行委員が招聘ダンサーについて知識を持っていないとプログラム編成も宣伝活動もできないことを痛感。出演ダンサーのプロフィールのみでなく、セールスポイントとなるコメント、今までの作品のビデオと今回の作品のビデオを事前にもらいたい。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がありましたらご記入下さい。**

A.) 全国版の大きさは設置するには適当だと思います。デザインは少々にぎやかすぎるかな、とも感じましたが…。地方のチラシは、金額に余裕があるなら、A4サイズで情報をより多くかつ読み取りやすいようにしたほうがいい。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/ B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

A.) 必要な情報項目と入校日程(初校から責了までの日程を)を事前に指示して欲しい。

チケット・観客アンケート集計

【総入場者数・チケット内訳】(2ステージ)

収益対象人数 144 | 招待 27 | 入場者合計 171

【観客アンケート集計】

情報の入手先

< チラシ 29 | 人づてに 62 | DM 10 | ウェブサイトで 3 | テレビ・ラジオで 1 |  
新聞・雑誌・情報誌で 6 | プレイガイドで 0 | 通りがかりに 1 >

ダンスとの関わりは？

踊っています:< クラシックバレエ 5 | モダンバレエ 3 | ジャズダンス 0 | その他 17 >

観るだけです:< しばしば 13 | たまに 18 | めったにない 29 >

好きな(または観たい)ダンサー/ダンスカンパニーは？

国内:< コンドルズ、大野一雄、伊藤キム+輝く未来、砂連尾理+寺田みさこ、水と油、コンボイ、ぱくぱく、  
上海太郎舞踏公司 他 >

国外:< ピナ・バウシュ、ローザス 他>

観客アンケート抜粋

佐藤美由紀・千田優太・吉田美香作品について

・頭上を覆う新聞紙は「ピーシャピーシャ」みたいで圧巻。でも前に見たときより「作品性」が強すぎて「面白ければいいや」みたいな部分が少し減ってしまったのが残念。

・新聞を着ているときは「何が起こるんだろう？」と想像力を掻き立てられ、ひきつけられたが、皮肉にも脱いたら集中力がとぎれてしまった。また、ダンスのコンセプトとは違うけど新聞のパフォーマンスは子供が見ても喜びそう。

・宮沢賢治の「クラムボン」と、初めて顕微鏡を覗いたときの感覚とその細胞レベルの世界という感じ。「そこにあるのに見えない。見えるけどそこにあることは分からない」ということのように思った。

・羊水の中で動く胎児。紙のカサカサという音 ヨカッタ。アメリカとイラク、密林の中での生き物誕生と死。“混沌”老いと若さ。次から次へと私の中でイメージが浮かんでは消えました。

・舞台が新聞紙で覆われた瞬間が最も美しいものでした。

・真剣な瞳でやるのも素敵だけど、楽しそうにやっているのも凄くいいと思いました。新聞紙が固まりで動いた時はびっくりしました。楽しかったです。

・みずみずしいです。これは実際触りたい感覚です。

・これから!という時に…。もっと続きが観たかった。

野口知子作品について

・親近感が湧きました。何もかも全てを投げけてしまいたい時をイメージしてみました。

・制服(に代表されるいろんなもの)なんて嫌いだという叫びが聞こえた

・衣装と動きのギャップにやられました。指で手袋を引っ剥がすあたりセクシーでやるせなくて「もっとやれ!」と思ってしまいました。

・すごく分かります。こういう気持ちになりますよ。直接的な表現が多くて、それがまた面白かった。直接的な表現は見る側の想像力を萎えさせてしまうものですが、それを逆手にとっている感じでよか



ったです。

- ・見慣れた動きをドンドン崩していく構成がとてもよかったです。
- ・箱の中で全ての仕事をこなすエレベーターガール。公と私、「体裁」と「本音」、表と裏、真と偽の中で揺れ動くのだから出れない女の象徴でしょうか。後半制服を脱いで箱(枠、殻)から飛び出した姿が悲しくまたすがすがしかった。
- ・エレベーターガールでなくてもこの作品はできるような気がしました。エレベーターガールを良くみて考えているのは分かるが、いまひとつ楽しめない。

### 森下真樹作品について

- ・「まちがっている?」「ニッパチ」「もっと高く!」等々、言葉と動きのコンビネーションが絶妙です。切実さにグッときました。まちがない! 素敵。
- ・初めの何秒か何分。声を発するまでの「一行の文」を発する時どうしてもピツリとした表現が、言葉が出ない時の気持ち。この方「うまい」なあ、句会で(俳句)巨匠が手馴れた俳句で首席を取った感じ。
- ・すごく良かったです。大好きです。「踊る」という言葉に私は固定観念を持ちすぎていました。パワフルでおもしろくとても素敵でした。アイデアがスゴイです。また見せていただきたいです。
- ・ええ! ? なにこれ?! 面白すぎじゃないですか?! すごいっ × 100 ユーモアは世界を救います。少なくとも私は救われました。元気をありがとう。
- ・日常の所作が繰返すうちにずれていく様は興味深いものでした。

### honeysuckle 作品について

- ・雰囲気があって、とても可愛らしかったです。毛糸、ラジコン、生活音を夕暮れを感じさせられました。
- ・絵本のように。ミクロな世界がすごく可愛かったです。
- ・男性の力強さとしなやかさ、女性のしなやかさと力強さが重なることこんなにも美しいものかと思った。
- ・表現しようと思うことが、今日の中で一番分かった気がします。
- ・つくりだされた世界が美しく、なんか「愛」を感じ、なぜか泣いてしまいました。
- ・後半が好き。かな。二人の影が綺麗にできていました。
- ・はじめ2人がばらばらな印象をうけたが、一体感があり、赤い毛糸を使ったのが凄く色っぽかった。

### 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE 作品について

- ・身を切る感じ、ステージで赤い光にさらされて涙し、スポットライト(白)を浴びてはカタルシスを感じ、そして不安へ変化して…。救いは必ずあると信じたい、そしてそんな作品でした。
- ・生演奏で踊りも迫力ありましたが、苦しみ、孤独 etc 負のイメージが強くて、ちょっと救いが欲しかったです。
- ・構成がドラマチックな分、身体が希薄に映った。
- ・1945/3/10、暗闇で高射砲の音。ベースギターはB-29のエンジン音。荒火に追われて逃げ惑う人々…。不条理に殺されていったアジアの人々の怒り。眼前に迫った踊り手はまさにその人たちでした。
- ・ここまでつっぱっているといふと思う。間近で見た眼力はものすごかった。痛そうだけど目が離せなかった。
- ・音楽との融合がとても印象的でした。最初の、ステージからではない登場も驚きました。
- ・むき出しの表現。ピアニストが弾き殴っただけ、客のイマジネーションは入る余地なし。
- ・黙って見ているのは酷、シャウトしたい!
- ・脱皮の時のような苦しみや新しい力が生まれるような強さを感じた。





広島

# 広島市安芸区民文化センター舞台上

広島市安芸区船越南 3-2-16

TEL/082-824-1330 URL/http://www.cf.city.hiroshima.jp/aki-cs/



## 実施概要

**【共催】(財)広島市文化財団 安芸区民文化センター**  
**【制作】FREE HEARTS**

【日時・料金】 2004年12月20日(土) 開演 18:00 / 21日(日) 開演 14:00  
一般前売 2000円・当日 2200円 学生前売 1500円・当日 1700円

【出演者】 北村成美(大阪) / 合田有紀・玉井翔(松山) / 身体表現サークル(広島) / ほうほう堂(東京) / 広島アートプロジェクト参加者(広島)

【スタッフ】 テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ 舞台監督:村木克彰 音響:宮田充規  
(GEKKEN staff room)

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

A.) 「踊りに行くぜ！」は今回で2度目の公演になります。そして、初めて選考会が行われました。地元ユニットが選出されたことで、地元メディアに広くアプローチしました。地元大学生ボランティアスタッフ7名にも仕込みの段階から、舞台制作の体験をしてもらいました。出演者以外にもダンス空間を楽しみ支える公演をつくれたことは、大きな収穫だと思います。

昨年の作品群は既存のダンス関係者を意識して、プログラムされたものでしたが、今回参加の若手アーティストは、ダンス表現の多様性をより身近に伝えることが出来たように思います。公演後、会場内で来年の選考会の問い合わせがあるなど、確実に新しいダンスシーンが、認知され始めようとしている手ごたえを感じています。

地元の身体表現サークルが広島だけでなく、大阪、東京公演にて好評を博し、次の展開への大きな原動力と成り得ることと期待しております。

**2) 今後の課題点、改善した方が良いところ、展望など**

A.) 動員に関しましては、昨年度より大幅にアップしているものの、チケットの大半は出演者による手売りでした。この不況下の中、集客に関しては相変わらず厳しいものがあります。一般の方々に、如何にしてダンス公演の面白さを伝えていくか。今後とも、この課題が残されているように感じます。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がありましたらご記入下さい。**

A.) 今回は、JCDN作成チラシとは別に、チラシを作成致しました。デザインもインパクトが有り、一般の方々にも分かりやすかったようです。ただし、地方でのチラシ作成には、デザイン面で不安があります。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい



## チケッ ト ・ 観 客 アン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】(2ステージ)

学生 55	一般 130	招待 26	JCDN 会員割引 4	友の会割引等 0	入場者合計 215
-------	--------	-------	-------------	----------	-----------

## 【観客アンケート集計】

性別 &lt;男性 32 | 女性 87&gt;

年齢 &lt;10代未満 0 | 10代 9 | 20代 69 | 30代 25 | 40代 7 | 50代 5 | 60代 3 | 70代以上 0 &gt;

住まい &lt;市内 81 | 市外 6 | 県内 16 | 県外 7(松山・岡山・東京・山口)&gt;

## 本日の公演を何でお知りになりましたか?

<チラシ 24(学校、区民センター、横川シネマ、広島青少年センター、JCDN 他) | ポスター 2 | 安芸区民文化センター催し物案内 2 | 図書返却案内裏 1 | to you 1 | テレビ・ラジオ 0 | 雑誌 3 | 新聞 9 | ひろしま情報 a-ネット 0 | 区民センターホームページ 1 | JCDN ホームページ 1 | 大型ビジョン 0 | 知人・友人 66 | その他 7(出演者等)>

満足度 &lt;満足 79 | 普通 21 | 不満 0 &gt;

## 観 客 アン ケ ー ト 抜 粋

## 【20日】

## 10 歳代 女性 県内

どの作品もそれぞれが個性が強く、それぞれのメッセージを私なりに受け取る事ができました。これから、自分が表現していく上で、また作品を作っていく上で、今日のこの公演での自分の感情を生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

## 20 歳代 女性 市内

初めてJCDNの催し物を見させて頂きました。こんな動きがあるのだなあ、というか、人間ってこんな動きができるんだ、と新たな発見があった!!という感じです。どうもありがとうございました。これから、広島からもたくさん踊る人が出て来ると面白いですね。今日は少し、ダンスを身近に感じる事ができました。

## 20 歳代 男性 市内

本日のような舞台を観るのは初めてだったので、正直理解するのに難しい部分があった。でも、出演されてる皆さん、とても生き生きと表現されているのが印象的だった。

## 20 歳代 女性 市内

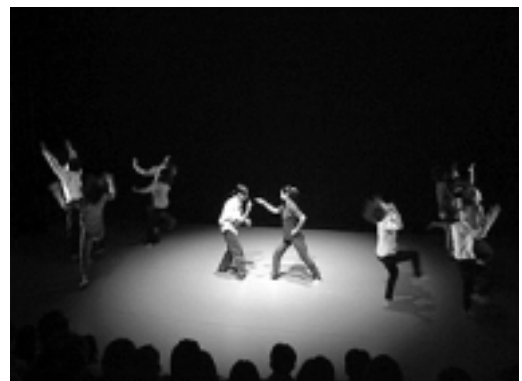
1年に1回じゃなくてももう少し回数を増やしてもらいたいです。

## 40 歳代 女性 県外

もう一度観てみたい。自分なりの解釈をつける事ができるのが楽しい。

## 40 歳代 女性 市外

踊りだけでなく、話を聞いて、またイメージが色々膨らみ、身近な感じがしました。外見からだけでは想像できないダンスだと思いました。皆様それぞれが個性の塊って感じで、パワーとエネルギーをたっぷり感じました。



## 50 歳代 男性 市内

人体美、裸体美を感じます。動きの中に別の要素が見える。そのほか、呼吸の音すらも、衣装もユーモアも別の要素と感じる。

### (アーティスト別)

- ・ 北村さんのバラのアイデアよかったです。ダンスも切れがあって最後まで飽きなかったです。(20代女性)
- ・ ほうほう堂さんが可愛くて素敵でした。女の子ってこういう感じの行動とか動きをするよなぁというところが沢山あって、ここにこしてしまいました。また観たいです。(20代女性)
- ・ 身体表現サークルはまた人が違ったら確かに新たなものができると思いますが、この二人の面白さも捨てがたい。何ともいえず、二人の間や空間やキャラが面白いのです。本当に久々に心から、楽しいと思えた作品でした。(20代女性)



### [21日]

## 20 歳代 女性 市内

発表会のような舞台に感じました。一つ一つのダンスは見応えのあるものだったと思います。お金を取るなら、とるなりの何か一工夫が欲しかったです。ホールの舞台上でお客に見せるということの面白さと難しさを感じました。

## 20 歳代 女性 市内

はじめてこのような表現を観て、正直わかりませんでした。人の体があれだけ動くのかということと、トークの時と比べて、やはり皆さん踊っている時は全く違って、きれいだと思います。近くで見られて、息や汗などを感じられてよかったです。出演者の皆さん一人一人が打ち込めるものを持っていて、とてもうらやましく思いました。

## 20 歳代 女性 市内

はじめてコンテンポラリーダンスを見ました。とってもおもしろいのに笑えなかったのが辛かったです。なんだかめちゃくちゃに踊っているように見えるのに、足先、指先まで神経は届いていて驚きました。すごく楽しかったです。また是非みたいです。



## 20 歳代 男性 市内

舞台上に客席がある密着した空間が気持ちよかったです。踊り手の息が伝わってきてドキドキしました。

## 50 歳代 女性 市内

若い人達のエネルギッシュな舞台に感動致しました。身体表現サークルの人達のユーモアあふれる演技に、大きな声を出して笑ったらいけないと思い、声を殺して涙が出るほど笑いました。

### (アーティスト別)

- ・ ほうほう堂さんの始まりがカッコよかった。(20代女性)
- ・ 広島組がよかったです。テクニックよりも、ダンサーの個性が自然に出ている作品に好感がもてました。(30代女性)
- ・ 身体表現サークルさん。期待以上でした。見ている人がクッと笑える要素は大切だと思います。「何でもあり」の扉をどんどん広げてください。北村さんの楽曲の使い方が、日常的にもいただけない。合田さん達は可能性を感じます。身体機能に目を見張りました。(30代女性)
- ・ 全体に力強い作品が多かったので、ほうほう堂さんの女性らしい、軽やかな作品が印象にのこりました。(20代女性)



東京

# スフィアメックス

東京都品川区東品川 2-2-8

TEL/03-5460-8511 URL/http://www.tennoz.co.jp



<b>実施概要</b>
<b>【共催】 スフィアメックス</b>
<b>【企画制作】</b> <b>「踊りに行くぜ!!」東京公演実行委員会</b>
ハイウッド、市川絵美、河合ゆま、北沢輝樹、多田哲平、徳永梓、依藤祥世
【日時・料金】 2004年12月25日(木) 開演 19:00 / 26日(金) 開演 19:00 前売 2500円・当日 3000円 学生割引 2000円
【出演者】 塩澤典子(前橋) / 砂連尾理 + 寺田みさこ(京都) / 身体表現サークル(広島) / ズンチャチャ(岡山) / 三好絵美(松山) / 康本雅子(東京)
【スタッフ】 テクニカルディレクター・照明:アイカワマサアキ 音響:伊藤尚司 舞台監督:三枝淳
【制作協力】 ハイウッド
【技術協力】 スタッフ塾:宇野敦子、桑原淳、下田めぐみ、三橋めぐみ
【協力】 パークタワー・アートプログラム 【スチール撮影】高木伸俊

## 主催者アンケート

根木山恒平(ハイウッド/「踊りに行くぜ!!」東京公演実行委員会)

**1) 本企画の意義・感想・何が良くて何が足りなかったかなど**

A.) 2003年の東京公演は、昨年まで、東京(セッションハウス)と横浜(STスポット)で別個に実施していた公演が合流するようかたちで、収容人員が一回り大きい会場(スフィアメックス)を借用して、SPECIAL IN TOKYOとして実施した。

他地域と比べて、ダンスの公演数が極めて多い東京圏のダンスシーンにおいて、「踊りに行くぜ!!」の趣旨やプログラムを、競合する他公演と差別化しながら、かつ、人々にとって魅力的なものとしてPRするために、今回「スペシャル」と銘打って実施したことは、ひとつの有効な仕掛けであったように思う。結果的に、東京圏のアーティスト、制作者、批評家、支援者を含め多くの方々が来場してくれた。

また、「スペシャル」としてプログラム・上演された松山、広島、岡山、京都、前橋、東京の各アーティストによる6作品は、それぞれに独自の方向性を持ち、とても活きたパフォーマンスであったため、観客に対しても、ある種のインパクトを与えることに成功した。もって、「踊りに行くぜ!!」のようなプログラムをとおして、各地域から、新たな才能が出てくることに対する注目・期待が、東京圏においても高まったように思われる。

**2) 今後の課題点、改善した方がよいところ、展望など**

A.) 2003年の東京公演は、東京公演実行委員会として、学生などからボランティア・スタッフを募り、集まったメンバーと共に運営しました。初めてのことであり、諸々のことが後手後手にまわった感否めませんが、そうした中でも、種々のアイデアが提案され、ウェブサイトでの出演者インタビュー記事の掲載など、そのうちのいくつかは試行しました。

今後は、東京公演においても、こうした自主的な組織がうまく回転するよう十分な配慮・準備をしながら、そうした活力を取り込むことで、既存のルーチン・ワークに規定されない、より柔軟な取り組みを実現していくべきです。

また、今回は、東京公演実行委員会と、セッションハウスやSTスポットという東京圏における拠点スペースとの協力関係をうまく活用することができませんでした。

今後も東京公演実行委員会を組織するのであれば、ボランティアなメンバーからなるスタッフたちにとって、今回のケースにおけるハイウッドのみでなく、すぐ近くにある外部の専門機関としてセッションハウスやSTスポットとも連携し、コミュニケーションをとる中で、アドバイスをもらったり、あるいは、公演に向けた取り組みを協力して行うこと等が望まれます。

また、スタッフ連中が、他の地域の公演まで実際に足を運ぶことは経済的にも容易にはできませんが、Eメールやウェブを介してでも、他の地域の公演スタッフさんなどと、情報や意見を交換したりすることができれば良いなあ、と思います。

**3) 今年初めて「地域別チラシ」を作成しました。デザイン・大きさ・地域別チラシの効果、等、ご意見がございましたらご記入下さい。**

A.) おそらく、各地域毎に、ダンスを取り巻く状況が違うので、ケース・バイ・ケースに考える必要があると思います。東京の場合、近年、コンテンポラリー系のダンス公演が年間通して増加している、限られたパイの取り合い的な様相になりつつあります。そうした状況にあって、他の公演との差別化をはかるため、さらに、新たな観客層を開拓するため、チラシのデザインもとても重要です。東京の現状に応じた、広報宣伝プラン、および、それに付随するチラシづくりは、今後の課題であり、必要だと思います。

地域別のチラシがあった方が、

A. 良い

/

B. 必要ない

来年も地域別のチラシを作成する場合は、

A. 各地の主催者が作成する方がよい

/

B. JCDNで一括して作成する方がよい

## チケッ ト ・ 観 客 アン ケ ー ト 集 計

## 【総入場者数・チケット内訳】

一般前売 146 | 一般当日 37 | 学生 26 | JCDN 会員割引 14 | 子ども 1 | 招待 73 | 入場者合計 297

## 【観客アンケート集計】 / 回収枚数 27 枚

20代	30代	40代	不明	合計
9	2	3	13	27

客層 &lt;アトラクター ・ 自由業 ・ 会社員 ・ 国際交流基金 ・ 舞台関係 ・ 公務員&gt;

この公演をどこでお知りになりましたか？

&lt;チラシ 11 | 新聞、雑誌 0 | 案内状 0 | 知人 10 (出演者・主催者など) | その他 1 (母)&gt;

## 観 客 アン ケ ー ト 抜 粋

【25日】

## 女性

今まで観た踊りに行くぜ!シリーズの中で、一番質が高いと思いました。なんか色々違ったダンスが楽しめて、とてもよかったです。一番好きなのは塩澤さんのです。まだまだ荒削りだし、なんか一発芸っぽかったのですが、とってもピュアな感じで、観てて悲しくなったりそわそわしたり、不思議な作品です。

## 23歳 女性

寺田さんと砂連尾さんのは、引き込まれないぞと思いつつも、あっという間に引き込まれてしまいました。塩澤さんのは、音楽を聞くということを視覚的に感じれて、面白かったです。

## 40歳 男性

今年は僕のダンス元年でしたが、その締めくくりとして相応しい見応えのある公演でした。

## 25歳 女性

素敵な時間をありがとうございます。公演を観る機会、本当に楽しめました。この楽しさが、多くの場に広がっていくといいなと感じました。

## 無記入

最初の説明が長すぎると思いました。ソロで踊る人が自分の身一つでやってる感じがよかったです。

## 【アーティスト別】

## ズンチャチャ

気持ちよかったです。元気一杯で可愛かった。

## 三好絵美

とてもきれいな身体、動きで、見入ってしまいました。

## 身体表現サークル

とても気に入りました。友人にも早く知らせてあげたいです。

## 康本雅子

最初の手の動きが素敵でした。別な感じの踊りも是非観てみたいです。



## 塩澤典子

とてもよいライブを見せてもらった感じです。とっても気に入りました。

## 砂連尾理+寺田みさこ

大人っぽい。ヨーロッパの映画のようでした。

[26日]

### 女性 アートライター

いろいろな身体表現が見られて大変面白かったです。それぞれの表現がダンスの定石にとらわれることなく、自分の身体を使って自分の世界象徴を表現していてとてもすがすがしく、素敵でした。また観てみたいと思います。

### 39歳 男性 自由業

余りに違う6組を観られたので、ダンス鑑賞者一年の初心者には嬉しかったです。

### 女性 国際交流基金

これほどまとまって全国のダンスを観られる機会は少ないので、続けていただきたいと思います。一点のみ、裸舞台は良いのですが、背面パネルの汚れがとても気になりました。シンプルだからこそ、気を使っていただければと思います。

### 25歳 女性 舞台関係

いろんな作品を見ることが出来て面白かったです。出身地、土地によって空気の違いも感じました。もっと、より中身の濃い、踊りに行くぜ！！になっていくことを期待しています。東北対沖縄など..

### 男性

普段余り見られないアーティストをまとめて観られて良かったです。

### 43歳 女性 公務員

砂連尾理+寺田みさこさん、文学的ですねえ。大人っぽくて大好きです。

## (アーティスト別)

### 三好絵美

三好さんの作品、とても惹き込まれました。とても丁寧に大事に育てられた作品だと感じました。なんだかうまくいえませんが、踊っている姿勢に感動しました。私も、素直に踊っていきたくて思いました。

### 身体表現サークル

刺激的でした。むちゃくちゃ面白くて、また是非観たいと感じました。

### 康本雅子

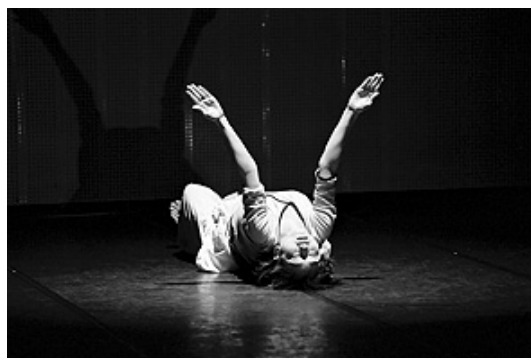
相変わらずの宇宙人ぶりが素敵。半分壊れかけたキャラクターが、ベケット的な世界の終わりを彷彿させ面白かったです。

### 塩澤典子

人間でない状態、普通の視覚感や言語にふれたことのない生き物が、ロックの振動や熱に触れて少しずつ意味や表現の世界に知覚を開いていき、やがて人間になっていく過程を思わせて、とても感動しました。

### 砂連尾理+寺田みさこ

マイリマシタ。オソレイリマシタ。何ともいえません...





# 【出演者データ・アンケート】

(あいうえお順)

# GAMADASU ダンス研究所 / 北九州



## 「ストライプ」

振付：つかのみき

出演：つかのみき 藤尾加代子 花田優子

これは商業施設の中の、買い物客が普通に立ち寄れるスペースで、公開で稽古をしながら生まれた作品です。「ストライプ」は“お葬式”です。自分自身の再生のためのお葬式です。ダンスの魅力がたくさん詰まった楽しいお葬式です。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………福岡1回  
上演回数……………合計 1回

## 出演者アンケート (回答者：つかのみき)

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

福岡でコンテンポラリーダンス作品に触れる機会は少ないので観れるだけでも刺激になりました。また楽屋で他の出演者と作品作りについて話しができた事がうれしかったです。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

JCDNの活動に具体的に触れられたのが良かった。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

照明音響等の調整の時間が少ないので難しい点はあった。(通常、演劇公演にて2日間ほど仕込みにかけているので)

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

北九州でGAMADASUダンス研究所がダンス作品を作っている、という事が紹介できてよかったと思います。他の出演者から各地のダンス状況や作品作りの方法、稽古場問題、ダンスを作りながらの生活までいろいろな話しが聞けてとても参考になりました。福岡の人に全国の今のダンスを紹介するにはとてもいい企画だと思います。

私自身、前回の「踊りに行くぜ！！」の北村成美さんの作品を見たことがキッカケでGAMADASUを立ち上げ、今回の作品を作ったという経緯があります。こういった企画が続く事で、多くの人が刺激を受け、いろいろなダンスが生まれるのではないのでしょうか。

私たちは福岡で更にダンスが盛んになる事を期待して、これからも活動していきたいと思います。

## プロフィール

北九州を拠点に活動する劇団「飛ぶ劇場」内のダンスセクション。身体表現・ダンスに関する諸研究や振付、作品製作を行う。局長：つかのみきは同劇団で作品中のダンス、イメージシーンの振付を担当。'97年竹内登志子振付『nostalgia』出演。'01年 ダンスラボ / 井手茂太振付『立ち往生』出演。'02年 北九州演劇祭 10周年記念作品『IRON』振付。

# 北村 成美 / 大阪



## 「うたげうた」

振付・出演:北村成美

人生にそう何度もない極上のとき。  
大切な人たちと過ごす特別な宴。  
いのちのきらめき。あいのうた。

踊りに行くぜ！！出演は……………3回目  
出演場所……………新潟2回 / 広島2回  
上演回数……………合計 4回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

今回の作品は既に何回か上演しているものですが、それでも細かい変更や改変がいくつもあり、空間の使い方、衣装のスカートの長さ、髪型、小道具の維持の仕方など、毎回試行錯誤しました。新潟、広島に行かせてもらいましたが、それぞれに劇場の条件が異なったので、その場に合わせた見せ方を研究しました。中には無駄な努力もありましたが、それも含めて、こうした作業が作品の可能性を広げることになったと思います。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

ツアーで出会った全てのアーティストの方からそれぞれのダンス魂を感じ、大変刺激を受けます。その中で今回とくに印象に残ったのは、新潟公演での丹野賢一さん。いろんなものを頂きました。ご自身の作品はもちろん、パフォーマンスアーツ全体に対する深い愛情と厳しい視点に触れ、そのかっこよさに打たれました。また、今回2都市とも「ほうほう堂」さんと一緒だったのですが、彼女たちの真摯な取り組みで作品がどんどん進化していく過程に感動しました。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

今回は2都市とも自分にとっては初めての土地で、お客さんとのやりとりを大いに楽しみました。上演中は、良い作品を見せなければというより、この街の人々にダンスを知ってもらいたい、楽しんでほしいという感覚でした。それがかえって、私らしく踊ること、私にしか出来ないダンスを引き出してくれたように思います。

#### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今のところは未定ですが、「ダンスアットホーム」(ご家庭公演)の依頼がありました。

#### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

広島市安芸区民文化センターのホールの舞台上にアクティングエリアと客席を組んでいるのにびっくりしましたが、小劇場にはない天井の高さと、舞台袖の広さや空間の広がりがとても気持ち良かったです。大型公共ホールの活用法として全国に広まれば良いと思います。

#### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回で3回目の参加でした。しかし、何度やっても毎回難しいのは、作り手として作品をより良い状態で持ち運ぶこと、

踊り手としてその場所でどう立つかということです。こうした作業に慣れや終わりはなく、常に悩み考え続けるところにライブで作品を見せる価値があるのだと思います。作品に完成はなく、作り続ける心と身体が止まらないことが作品なのだ痛感しています。このツアーを通して学んだことは自分の活動に大きな影響を与えてくれています。単独のアーティストにとって、作品を引っさげて複数の都市を巡回し上演を重ねること、他の土地の観客やアーティストと交流することは、簡単には出来ないことで、こうした機会は本当に貴重です。ご当地のダンスを作る人、見る人、それに携わる人を広げていくためにも、このツアーが継続してほしいと思います。最終地の東京が選抜制になったのは、参加アーティストにとって大きな励みであり、公演としても凄く面白いと思います。(地元で見れないのは残念ですが。)また、各地の選考会や、ツアー参加者の練習会なども、アーティストが受け身にならず、積極的に盛り上げていく必要があると思います。

## プロフィール

なにわのコレオグラファー・しげやん。6才よりバレエを始め、ラバンセンターにて学ぶ。'93年より創作活動を開始。'00年ソロとなり、「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」をモットーに、ご家庭の居間で踊る「ダンスアットホーム」や1週間1人で踊り続ける「ダンスマラソン」を開催するなど、国内外で精力的な活動を展開。'02年「第1回 TORII AWARD」においてフランス賞、オーディエンス賞を受賞。

## 合田 有紀・玉井 翔 / 松山



### 「この素晴らしき世界」

振付:合田有紀

出演:合田有紀、玉井 翔

お金と時間さえあれば、何でも手に入る時代。自分にとって本当に大切なモノ、時間を選ぶことは難しい。この世界で何が本質か。ひとつずつ、捨て去っていくことで、見えてくる。この素晴らしき世界

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………松山2回 / 広島2回  
上演回数……………合計 4回

### 出演者アンケート (回答者:合田 有紀)

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

あまり外で踊る機会が少ないので、とても新鮮だったと思います。作品が変わるというより、積みあがっていく感じがありました。広島のとときは今までになかった、おちつき(?)よくわかんないですが、これを感じました。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

都会で活躍しているひととか、どうやって作品つくってるのか、練習してるのかなどなど、いろいろ話ができとてもよかったです。あとリハーサルの照明や、音あわせなど、作っていく作業もみれてとても勉強になりました。まだまだわからないことばかりです。

**Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？**

より多くの人に自分の作品を見てもらって、感想がきけたのがとてもよかったです。いつもは松山でやって、見に来る人もほとんど知り合いです。今までにあった安心感？みたいなものもないし、何回か踊っている作品でも新鮮に感じました。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

公演の雰囲気は全く違いました。部活以外の公演はほとんど経験がないせいもあってか、1つ1つの作品をみんなまでみて、意見を言って直したりとか、部活では公演全体のまとまりみたいなものをつくる。みたいな公演ではない雰囲気。うまくかけません…。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

松山・広島を終えて、自分の作品をまた踊る機会ができたのもありますが、プロで活躍している人達をまじかにみれたのが素直に嬉しかったです。それと想像してたとおり、面白い人(変な人)が多かったです。上でも書きましたが、照明や、音の使い方などリハーサルしてるのを見るのがとても勉強になりました。

広島で印象に残ったのは、現地のスタッフさんでした。ポスターが面白かったり、CMまで作ったり、なんか羨ましかったです。その効果もあってか、広島では普段ダンスしていない人が結構みにきていたようです。松山だと、大体がダンスしているか、その関係者(家族など)だったり。

正直、今回踊りに行くぜに参加して、自分が踊った事よりも、踊る以外のことが、松山に帰ってきて考える事が多かったです。自分たちで何とかしようという広島スタッフの人達と、「僕を感じる」松山の現状と。考えるとモヤモヤしてきますが、少しでも広島で感じたことを松山の先輩方と、話ができればなと思ってます。これもうまくかけませんが、

あと、やはり踊って実際お金をもらえるのが不思議な感覚がしました。もらえて当然と思うと、後々恐ろしそうなので、この感覚は忘れないようにしよう、と思ったり。

---

**プロフィール**

99年松山大学入学後、モダンダンス部に所属。00年ジャパンダンスデライト、四国地区予選通過し全国大会出場。02年全日本高校・大学ダンスフェスティバル In Kobe に作品「横顔」を出品。3月愛媛県民文化会館で、坂本公成、大野八重子と「Creative Circuit」、「Asian Voices」に参加。ここで「この素晴らしい世界」を発表。

---



# 佐藤美由紀・千田優太・吉田美香 / 仙台



## 『ウム Zeitung』

振付・出演：佐藤美由紀・千田優太・吉田美香

物。もの。モノ。  
ヒト。ひと。人。  
ふれあうとき、  
モノは人からエネルギーをもらい、  
人はモノからエネルギーをもらう。  
そのひとつひとつに、生命(いのち)をふきこんでみよう。  
きつとなにかが生まれるはず。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………仙台 2回  
上演回数……………合計 2回

## 出演者アンケート (回答者:佐藤 美由紀)

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

自分らしさを出す大切さを教わった。  
よりよいものにするために、ぎりぎりまで試み続けること。  
踊りの中で自分は何を大切にすることをしっかり持つこと。  
作品の構成。  
作品に対してどれだけこだわりを持ち続けるかということ。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

具体的には決まっていないが、出演したことで顔を覚えてもらい、一緒に仕事をしたいと声をかけていただいた。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

まず全体的にレベルが高く、緊張した。  
普段は出演者・スタッフとの顔合わせが本番前に何度も行われ、意見し合う場がある。なので、会場によって出演者が異なり、巡回ということで難しいとは思いますが、本番前に作品を見合っただけで出演者同士、出演者とスタッフが意見交換しあう場があるととってもいいと思った(ビデオで見るということは出来たのだが…)。  
今回は、舞台監督さんをはじめ、たくさんのスタッフにたくさん支えてもらい、感謝している。

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

すごく勉強になった。自分の意識が高くなった気がする。

## プロフィール

佐藤美由紀 宮城教育大学卒業。千田 優太 宮城教育大学在学。二人ともに、『Dance & Performance group ぱくぱく』のメンバーとして作品を発表。吉田 美香 フリーの役者として舞台に立つ。

# 塩澤 典子 / 前橋



## 「ギギギギファーファーファーボボボボウーウーウー」

振付・ダンス：塩澤典子

殻の内側から外側に対する弱々しくもかたくなな攻撃、そして内側へ向かう破壊。  
しかしやがて外側へゆっくりと開き、発信する…。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………松山2回 / 福岡1回 / 東京2回  
上演回数……………合計 5回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

今回の作品は内面がとても影響する作品なので、作品として変化したというよりは、私の内側にある何か公演を重ねる事で確実に変化していて、それが作品に反映していると思います。「確実に変化」しているのは感じ取れるのですが、それが何なのかは最終公演の舞台に立っていた自分と向き合う時間ともう少し必要で、簡単に言葉に出来ないし、具体的な言葉で説明するのは今は難しいです。

ツアーが終わり改めて、この作品が大好きであると感じています。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

経験豊富な砂連尾理さん + 寺田みさこさんや、Dance Theatre LUDENSさんと組めた事は、色々な面で刺激になりました。特にテクニカルの面で詰めていく作業を見る事ができ、勉強になりました。

また、同じ「女性のソロ」である康本雅子さん、森下真樹さん、三好絵美さんにはそれぞれ刺激を受けました。

康本さんには我が道を貫く姿勢に親近感を感じましたし、森下さんは作品自体が面白かったです。上演後思わず「女サイコー、女で良かったー」と叫びたくなりました。たくさん元気をもらいました。三好さんは小さな身体の何処にそんなパワーを秘めているのか？圧倒的な迫力を感じましたし、それでいてしなやかで…魅力的でステキな身体が舞台にありました。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

海のない群馬で生活する私には、海を渡る四国や九州は遠くに感じられます。踊る為に行き、現地のスタッフの方々と仕事をする事で、とても身近に感じられるようになりました。

松山も福岡も個人的に別の思い出もあったので、「この作品」を上演出来た事を幸せに思います。両方共に非常に楽しめました。

東京は、楽しむ所まで気持ちを持っていく事ができませんでした。長く住んでいた場所で、踊りの魅力を教えてくれた場所でもあり、体を壊してしまった場所でもある…私にとって複雑な場所です。

東京の町並みや人混みを見て、体が辛かった時の精神状態にフラッシュバックして、不安定な状態になってしまいました。舞台に立っているのが精一杯だったように思います。作品は私の強い部分が出ているのですが、それを支えるテンションを持っていく部分に弱さが出てしまいました。多くの課題が残りましたが、良い勉強になりました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

具体的に舞台が決まったという事はありません。

この作品は舞台で踊りたい、発表したいといった強い意志からではなく、心身のリハビリの為に作ったもので、「踊りに行くぜ」に参加する前は踊りを続けたいけど続けたくない、どちらでも構わないという非常に曖昧な気持ちでいました。

参加した事で、もっと作品を作りたいと思うようになりましたし、踊りたいという確かな欲求が出てきました。それが、今後の舞台に繋がっていくと思います。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

普段、地元で公演をする際は、友人達の自主公演に参加する事が殆どです。それはとてもこじんまりとしたもので皆スタッフも兼ねている手作り感覚なものです。

それに比べたら規模が全然大きくて、会場も大きくて、それを支えるスタッフの人数も多くて、テクニカルスタッフもプロの方々と、機材も取り揃っていて、何から何まで違います。

公演を成功させたいと思う根本の気持ちはどちらも変わりませんが、踊り手として集中できた事は舞台にのった時の身体に違いが出たと思います。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

自由に書きます。

ダンスという舞台芸術はこれから一体何処に向かうのだろう。

情報も物も溢れ、何不自由のない日本だけれど、現実には世知辛い。この世知辛い世の中で、心が悲鳴をあげている人も少なくないはずだ。中には自分を見失ってしまう人もいるだろう。犯罪が多発する背景にはそういう事も大きく関係していると思う。

犯罪にならないまでも、身近な所に辛い事を目にするだろう...電車の中で些細な事による小競り合い、自分より弱者に対する言葉の暴力等...心が荒んでいる。不幸な事だ。

ダンスという舞台芸術は、踊り手のリアルな身体のエネルギーと、それを支える多くのスタッフのパワーでもって観た人の心を強く揺り動かす事の出来る最高の芸術だと信じている。そして、人々の心を潤し、豊かにしてくれるものだ。

大昔、踊りが人々の生活に密接に関わっていたのは、踊らずにはいられない内側から突き動かされる衝動だったに違いないし、また芸術が生まれたのも人間が心のより所を内側から求めた先に見えたものだったのだろう。

数多くあるダンスのジャンルの中で、私がコンテンポラリーに心惹かれるのは、現代を生きる私にとってとても身近でリアルなものだからだ。そして作品を作る事、踊る事そのものが、他者が関与する事の出来ない私自身のより所となっている。お蔭で日々の生活を頑張れるし、他者に対して優しくもできるのだ。

この全国巡回プロジェクトが世の中をガラッと大きく変える事は今はないだろう。しかし、確実に僅かに開催地で変化があったのではないだろうか。

そして、それは後に主要都市の限られた人々にだけでなく、日本の各地で必ず大きな変化をもたらすだろう。

小さな私の小さな力もほんの僅かではあるが、それに貢献できたと思うと嬉しいし、このプロジェクトに参加できた事を誇りに思う。そして何よりも大切な事は、私自身の心が潤い、ささやかな日常を笑顔で過ごす事ができるという事だ。

---

**プロフィール**

群馬生まれ。'87 踊り始める。クラシックバレエ、コンテンポラリーダンスを学ぶ。

'95 アート集団「BURI」との共同作業でDanceFilm作品『HELLO ROCKET』発表。

'99 踊りと距離を置く。'02 再び踊り始め、ソロ作品に取り組む。

'03 年 1 月『ギギギギファーファーポーボボウーウー』にて横浜STスポット「ラボ 20 # 14」参加、ラボアワード受賞。身体でマイナーコードをかき鳴らす事に日々奮闘中。

---



# 砂連尾 理 + 寺田 みさこ / 京都



## 「男時女時」

振付・出演：砂連尾理、寺田みさこ

身体がある。そこに二つの身体がある。  
身体は「いま」・「ここ」を一杯に受け止めて、噛みしめる。  
身体が欲求する。この不確かな身体の欲求は何なのだろう。  
二つの身体が、正直であり続けたなら……

踊りに行くぜ！！出演は……………3回目  
出演場所……………福岡1回・那覇2回・東京2回  
上演回数……………合計 5回

## 出演者アンケート (回答者：寺田 みさこ)

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

私たちが常に意識していることですが、作品を繰り返し上演する事に深い意味を感じています。「本番」という極度に集中力を発揮出来る場でしか感じ得ないことがあり、そのことは作品をより成熟させていく上で欠かせないものだと思います。また、多くの人の意見を聞き、作品に反映させていくことはとても重要な事なのですが、それは回を重ねるごとに、その聞くスタンス自体も変化しているように思います。

当然のことながら、観客の好み、望んでいるものは千差万別で、毎回様々な意見を頂くわけですが、今回東京公演ではそれが特に顕著でした。人によって様々な感想を抱いてもらうことは、「多くのイメージを彷彿させたい」という意味においては望むところではありつつも、それらの意見に直面した時に、いかに惑わされ過ぎず、と同時に、閉ざさず柔軟に受け止めるかということは、とても難しいことだと改めて感じました。

十分にオリジナリティーを発揮しながらも人と共有すること、言い換えれば、「個であり続けながら人と関わる」ということは私達の作品作りのテーマでもあり、経験の中でしか学べないことではないかと思っています。

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

近年、他都市に於いてワークショップを行う機会が増えてきていることもあり、お互いの地元のダンス事情(上演機会や創作方法)について情報交換出来ることは、興味深い事でした。

### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

念願だった沖縄の那覇に行くことが出来て大満足です！

今回会場となったのは以前は結婚式場だったという古い建物で、赤い絨毯に屏風にミラーボール、客席に並んでいる持って帰りたくなる程にキュートな座椅子やソファーなどそれぞれが、しっかりと趣を持っており、決して他ではありえない独特な空間でした。

この時一緒だった山下残さんに、後日同じ作品を別の会場で見てもらった折、「那覇のあの空間と距離感で見たのが良かったなぁ～」との感想をいただき、改めて空間について考えるきっかけになりました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

今回2回目となった福岡でのダンスジェネレートという企画に、ワークショップ講師として招いて頂きました。

また、東京公演で short version を発表出来た事は、2月にパークタワーホールで行われるネクストダンスフェスティバルに於ける「男時女時」公演の良いステップになったのではないかと思います。(創作上、また宣伝という意味において)

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

普段公演をする際との最も大きな違いは、テクニカルリハーサルとして使える時間の短さです。限られた持ち時間の中で、その場に作品を成立させる為の準備を整えるには、まだまだ経験不足です。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

「踊りに行くぜ」への出演も今回で3回目となり、私達にとっては、再演を繰り返しながら作品を成熟させていくという方法論も定着しつつあります。そして度重なる経験により、少しずつではありますが完成までの期間も短縮されてきていると思います。

問題点として考えられるのは、上記と重複しますが、テクニカル面に於ける経験と知識不足の為、作品のクオリティー、或いはパフォーマンス性を低下させてしまっている可能性があるのではないかとことです。今回ある方からの指摘を受けて改めて気付かされた事は、限られた設備しかない場に於いて、他作品とのバランスなども考慮した上で最良の選択をする為には、より多くの想像力と知識(持ち札)が必要であるということです。また、私達は普段公演をする時には、可能な限りホールでリハーサルが出来るようスケジューリングをするのですが、それが不可能な場合、出来るだけ詳しい情報収集をする事も、パフォーマンス性の向上に繋がるのではないかと思います。

今後もまた機会が得られるならば、様々な場で少しでも多くの経験を積んでいきたいと思います。また、公演と併せてワークショップなども開けると、出演者だけでなく、より多くの地元のアーティストや観客の方々の理解も深まり易いのではないかと思います。

---

**プロフィール**

1991年より共同で活動を開始。西洋のメソッドを取り入れながらも、日本人の持つ繊細な身体性にこだわりを持ち、自己と他者という人間関係の最小単位である「デュオ」という形態の中で、人間の新たな関係性を模索した作品づくりを行なっている。

2002年3月「第一回 TORII AWARD」大賞受賞、7月「トヨタコレオグラフィーアワード2002」にて「次代を担う振付家賞」「オーディエンス賞」をW受賞する。



# 身体表現サークル / 広島



## 「範ちゃんへ」

振付・出演：常樂 泰、竹内雅人

身体を動かすのがだいぶ好きな人たちによる、ダンスらしいものへの挑戦。  
遊びなんかじゃないが、本気愛まで至れない模様を彫刻家志望の男子ペアによる、粗彫りな身体表現。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………大阪、広島、東京  
上演回数……………合計 3回

## 出演者アンケート (回答者：常樂 泰)

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

毎回の作品発表時に毎回の細かい所の反応が知れて、短い期間で次の公演で直せること。作品の反応に対する、ダンサー側の変更、そしてまた反応の繰り返しが短期間で経験できたこと。

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

いろんな身体表現を観れたことで、自分の行っている作品の方向性が見えた。広島という地でどのように活動したら良いかと考えるきっかけになった。

### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

次回の作品発表時に他の土地でも公演できるかもしれないという出演場所への期待感が持てた。自分の住んでいる土地以外で行えることで、作品に対して責任感が出た。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

ありました。近隣県とのコミュニケーションにもつながりました。  
2004.1 アートキャバレー #3 身体表現サークル (03年出演)  
2004.3 「コンテンポラリーダンス in 新世界」野外ダンスサーカス編 身体表現サークル (03年出演)  
2004.3 「六本木ダンスクロッシング」出演

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

普段は会場でお金を取ってまで行うことは皆無に近かったため、全うな 舞台、スタッフ、鑑賞者で行えたこと。

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回出演できた事で、作品に対する責任感が持てました。また観に来られた方の意見を聞ける場(打ち上げ、アフタートーク)に参加できたことが収穫でした。

コンテンポラリーダンスというジャンルで社会と接する可能性を持てました。

アフタートークでは、ダンサーがうまく話せなかったことに、残念に思います。せっかく面白い作品を発表するのに、ダンサー自身が控えめに話すことで、観覧者に対して作品の一方的な投げつけのような傲慢な気がしました。ダンサーは踊っているだけで良しでなく、作品を通して、自分らの価値観なりを鑑

賞者に伝えてのコミュニケーションもダンスの環境から社会に発信するうえで大事だと思います。

作品に対して既成のダンスの枠をとろうとする作品が集まっており、ダンス好き以外の人にも興味を持つ企画だったと思います。個人的意見として短くギュッとしたパフォーマンスが好みのせいか、各作品に対しての持ち時間はもっと短くてもいいのではとも思いました。この企画が毎年行われることによって、広島という土地でコンテンポラリーダンスがどんどん浸透していくのではと思います。また他の地との共同制作ができるのではと、地域外への関心が高まりました。

## プロフィール

共に大学で彫刻を学んでいる学生。普段の身体行動は主に、ノミやノコギリなど使い立体制作のための動きをしている。反復する動きが多い。

学内外の飲み会で、たまに一発芸を披露して女性に自らをアピールしているうち、身体表現に目覚める。常楽は水泳が得意。竹内はサッカーが好きだった。

## ズンチャチャ / 岡山



### 「ラムネ - 夏休みのうた - 予告編」

振付・演出:須原 由光(よしみ)

出演:江口久美子、大高真砂子、下妻裕子、西本千奈美、山口佳子、山田暢子、須原由光

2004年1月に倉敷市芸文館アイシアターにて全編を公演いたします。お客様にずうずうしいお願い・・・最後のシーンで「ご期待ください!!」という字幕スーパーを思いうかべて欲しいです。

踊りに行くぜ!! 出演は.....初めて  
出演場所.....岡山1回 / 東京2回  
上演回数.....合計 3回

## 出演者アンケート

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

わたしちは当初、初めての巡回公演への参加であり、岡山公演1回のみという条件で、7名での参加を特例で認めていただきました。その後、光栄なことに東京公演に選出していただく事により、計3回上演させていただく機会を得ました。

岡山公演のみでは地元ということもあり、作品に対して好評も得たのですが、客観的な作品に対する具体的な意見を聞ける機会が少なかったように思われます。

東京公演が決まった後、会場の仕様に合わせて作品を創り直すことになり、とまどいもありましたが、必然的に作品を練る機会を得、「ラムネ - 夏休みのうた - 予告編」がより本編との絡みを感じさせる作品に変化していきました。

地元を離れての東京での公演は当初勝手が分からず、とまどいがあったらしく1日目の公演は自分たちでは意識していなかったのですが、動きが固まっていました。

2日目前日の作品に対する評により、何をどのように変化すればよいか迷いも生じましたが、アドバイスをいただいたり、「7人で炸裂するしかない!!」と心ひとつにして、はじけることができました。

3回公演することで、「公演によって観客の反応が違い」、「作品自体も生きているもの」、「作品の動きに対して、ダンサー自身が真摯に深みを見いださなければならぬこと」をダンサーが実感し、固まった形

通りのものを踊るのではなく、柔軟に作品に順応していく姿勢を身につけることを認識できるようになりました。

**Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？**

普段岡山にはコンテンポラリーダンスに対しての認識があまり無く、ダンサー同士の交流も稀少であるので、とにかく全国で「こんなに本気でダンスする人がいるんだ」、という事で勇気が出ましたし、素晴らしいダンサーの方たちと色々な話ができて、楽しかったです。自分達には無いそれぞれの出演者のダンスのこだわり方に感動する事が多々ありました。

**Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？**

土地土地によって、同じ作品にもかかわらず観客の反応のポイントが違い、作品の受け取り方が違うところがおもしろいと思いました。特に東京は、皆さん目が肥えておられ、作品の甘さを見抜かれてしまう怖さと、たたかれる感触と、岡山とはかなりの違いを感じました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

具体的に、仕事に発展はまだしてませんが、出会った他の出演者の方たちと、今後何か、やれそうな気がしています。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

自分達が公演する場合は出演者であると同時にスタッフとして、すべて自分たちがやらなければなりません。『踊りに行くぜ！』は舞台の裏方として支えてくださる方が作品に対して理解を示してくださり、より良くなるよう協力してくださるので、私達は基本的に体調管理や、自分達の作品についてだけ考えていれば良いという環境を創りだしてくださるということに、ありがたみと幸せを感じました。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

『踊りに行くぜ！』のことは、昨年初めて広告で知り、出演されている方々のプロフィールが立派な方ばかりだったので、「挑戦してみたい。」と漠然とした憧れはありましたが、まさか今回私達が参加できるとは。びっくりしたのと、夢のようであったのと。。。

普段仕事をしながら、自分達の地元岡山で定期的に行っている公演の作品づくりと、『踊りに行くぜ！』での作品を平行して創っていくことは、正直スケジュール的にかなり、ハードなものであります。

でも、3回公演することにより私達がいかに、“井の中の蛙”であった事や、東京と岡山の客層の違いを実感しました。同時に「これまで築き上げたものが崩れてしまうのでは？」という思いを持つ危機にもありましたが、前述したようにズンチャチャがただの仲良しダンスグループで終わるのではなく、7人集まれば、10倍以上の力を発揮できるものであるということが互いに実感し合える良い機会を持つことができ、ありがたかったと思います。

---

**プロフィール**

米国でダンス研修した須原由光（ハティ・ジョーンズ、フリッツ・ルティン両氏に師事）が、帰国後（'96年）ズンチャチャを結成し活動を開始。誰もが踊れる、誰もがおもしろいを信条に、岡山・倉敷以外の県外でも意欲的に作品を発表してきた。根アカ集団ズンチャチャはポジティブなエネルギーを放ち、進化し続ける。一生青春ダンシング少女との異名をも持つ。

---

## sonno / 大阪



### 「a la notte」

振付：TEN

出演：sonno ( TEN, wall painting 山口智美)

ひとりだけひとりじゃない。いつも何かにつつまれて生(せい)ある宇宙がやさしく揺れている。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………岡山 1 回、名古屋 2 回  
上演回数……………合計 3 回

### 出演者アンケート (回答者：TEN / 山口 智美)

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

パフォーマーの上演するにあたっての感情の変化。回数を重ねる事で深く追求する事が出来た。最後の名古屋では、箱の布の色を変えてみることにより、より観客に伝えたいとする事がしるの時よりもわかりやすくなったと思われます。(TEN)

ありました。物理的な条件の違いで(照明の使い方など)試行錯誤する中でどのようにみえるのかの勉強にもなりました。繰り返す中でパートナーとの関係も変わったし作品も表面的な大きな変化はないにしても向き合う気持ちをより練ることができました。(山口)

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

作品に対する姿勢、作り方、観客との距離感。自己表現の違い。アーティストとしてのあり方。とりわけ sonno は最後の点に関しての意識がかなり薄く反省する所であります。(TEN)

観せ方を知っている人の佇まい。(山口)

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

全く知らないひとのまえで上演でき大変おもしろかったです。観客の反応がダイレクトでいい刺激になりました。白黒ははっきりするというかんじです。(岩澤)

岡山と名古屋だけが客層に土地柄というか箱柄(?)があるように感じた。岡山は一般に広く、名古屋はコア、という印象がある。(山口)

#### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

まず、箱によって壁の色、天井、大きさの違いで照明、作品の雰囲気がこれほどまでに違うのかとおもしろくもあり、良い点でもあり悪い点でもあるなど。作品が全くちがうものになりえてしまうなと思いました。後これは私達の反省点ですがちゃんと確認しなければと。岡山ではプロジェクターが使えなかったの。(TEN)

公演経験そのものが浅いのでなんともいえませんが、最低限の舞台用語は知っていないとやりたいことを伝えられないと思いました。毎回初めての方々と限られた時間で舞台を創って行くという点で。何度かやりとりのあるスタッフさんだともう少し余裕ができますが。(山口)

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

初めにこのプロジェクトに参加させて頂きありがとうございました。違う土地でこの作品を上演でき幸せです。ただ今回この企画に参加出来なければ自分のこれからのあり方をここまで考えるようにはならなかったなと。いろいろな方を知る事により沢山の事を学ばせて頂きました。これをバネに次に飛躍していきたいです。もっと沢山の地域で上演していく素晴らしい企画になることを切望します。もっと沢山の人のコンテンポラリーを知ってほしいです。(TEN)

こういう地方を巡回するような企画を重ねて行くことでコンテンポラリーダンスや現代アートが一部の人のものでなく、社会一般のより厳しい目にさらされ、さらに昇華していくといいと思う。逆にこの分野にまったく興味のない人にも何かが伝わったり、印象的な場面を残せるような作品づくりができればと考えている。

今回の作品では、当初より観客側の視点というものが欠けていた。表現したいストーリーは自分たちの中に確固としてあるのに、演じる側の思い込みがはげしく、それを整理してわかりやすく観る側に伝えるゆとりと技術を根本的に欠いていたし、またそのことを棚に上げて抵抗すらしていたように思う。ものすごく単純なこと、たとえば布地の色を反転させるだけでずいぶん分かりやすくなる、ということにさえ気がまわらないほどにかたくなだった。もう少し委ねるということができれば案外自由に想いが飛び立って行くような瞬間を味わえたのではないかと、いまさらになって思う。作品自体が熟しきっていなかったし、発展途上であった。と、いうことはこれからもっとよくなっていく、ということでもある。

いずれにせよ、繰り返し作品を練るチャンスをくださって、どうもありがとうございました。(山口)

**プロフィール**

TEN ストリートダンスを経てコンテンポラリーダンスに。バレエ、モダン、HipHopとジャンルの違うダンサーたちで構成するダンスユニット”はっぴいすまいる”を主にソロでも活動中。

山口智美 店舗、住宅、施設から live painting まで‘壁’にこだわって創作する wall paintist。TEN とは前述の”はっぴいすまいる”での共演に引き続き本作品で 2 回目の共演となる。スタジオパフォーマンス、野外、倉庫など場所をみつけてはその空間とたわむれる。

**高木 理恵 + 伏木 啓 / 名古屋**



『2002年6月9日より』

構想・構成・演出：高木理恵 + 伏木 啓

出演：高木理恵

テクニカルスタッフ：伏木 啓

コンセプチュアルコラボレーター・アドバイザー：  
Robert Darroll

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………名古屋  
上演回数……………合計 2回

**出演者アンケート**

**Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？**

今回、巡回公演はしていませんが、オーディションにおいて様々な方々からご意見を頂いただけでも、大きく変化するきっかけとなりました。

**Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？**

作品から何かを得たというよりは、このような機会を出演者を含めた多くの方と共有できたことで、それぞれの方の作品に対する姿勢や思想などなどを感じることができ、とても良い機会となりました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

具体的にはありませんが、名古屋会場だった為に、名古屋の方々とのネットワークを持つ事ができました。ここから、今後に繋がる事が生まれる事と思います。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

空間や雰囲気などに関しては、常に違うものと思うので特にありません。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

現代の芸術は、制度が解体され、表現の手法も多岐にわたり、例えば現代美術を例に挙げれば、絵画や彫刻などといった手法を使う必要は無い。時には自らの身体を素材、手法とすることもあります。

コンテンポラリーダンスに関する私たちの理解も同様で、踊る必要も無いし、もしかすると素材としての身体ですら、使用する必要は無いのかもしれない。つまり、コンテンポラリーにおいては、美術、ダンスなどといったジャンルの命名ですら、本来は意味の無い事になっているのかもしれない？あるいは、そのような文脈、制度の解体/再構築といった方法は、20世紀的特有の芸術の状況であり、例えばダンスとしての文脈、展開は、やはりあるのか？

この時代における、良い作品とは何か？リアリティとは何か？

「踊りに行くぜ！」は、このような現在の芸術が抱える、過渡期としての状況を見事に露呈している場と思えました。

このような状況を体感する場は貴重であり、また地方に視点を向けていることも素晴らしいことだと思います。何より、これだけのプロジェクトを実践できているのがすごい。今後も、継続させて、様々なプロジェクトを実現させてください。

私たちにとっても、身体を用いる意味を改めて考える、良い機会となりました。

このたびは、本当にありがとうございました。

これからもよろしく御願います。

---

**プロフィール**

高木 理恵：幼少の頃より様々な舞踊を経験する。2000年から02年まで音楽家・桃山晴衣に師事し日本古来の身体性を研究。また nplace 設立に関わりメンバーとして複数のメディアの関係を利用した作品を制作している。昨年は、伊藤キム演出「跳ぶ教室」、スー・ヒーリ - 演出「NICHE」などにも出演。

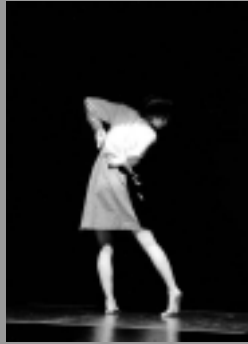
伏木 啓：武蔵野美術大学大学院造形研究科映像コース修士課程修了。2001年に nplace を設立し建築やダンスなど様々な専門領域を持つメンバーと共に複数のメディアの関係を利用した作品を制作している。現在、名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科専任助手。

---





# 高野 美和子 / 東京



## 「fragment vol.4」

振付・出演 : 高野美和子

かたちにはまりたい衝動 かたちからのがれたい衝動 そのはざまでおどる

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………大阪2回 / 名古屋2回  
上演回数……………合計 4回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

回数を重ねることで、作品の変化する部分と変化しない部分がクリアになり、作品自体の精度が高くなったように思います。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

殆どの出演者の作品を見たことがなかったので、いろいろと刺激になりました。また、それぞれの地域のダンスの状況やダンスを続けていく上での問題などを話すことができ、少し東京以外の状況を知ることが出来ました。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

普段地元で上演する時は、何らかの知り合いや親類など自分を知る観客がいる中で踊るわけですが、今回は全く知らない方々を前に、その地域のダンス状況も殆ど知らない中で踊ったので、刺激的である一方、内輪のノリというものは全く通じず、一回の上演の出来そのもので評価されるという厳しさがあると思いました。

#### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

直接の仕事に発展はしませんでした。プロデューサーの方々や、制作、批評家の方々と知り合うことができ、公演直後だけでなく、東京に帰ってきてからも、様々なアドバイスや意見をいただくといった交流ができ、よい出会いに恵まれたと思います。

#### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他 どんな事でも良いです)

大阪、名古屋とも初めての会場だったため、その会場に合うように作品の踊り方、照明等を変えました。

#### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

とにかく、同じ作品を何度も踊る経験が殆ど無かったため、非常に貴重な経験だったと思います。1番の質問にも書きましたが、本番の回数を重ねていくことで、作品の中で何度踊っても変化すべきでないところ、変化させてもあまり影響のないところ、新たな振りが加わるべきところ等が明確になり、作品がよりよく

変化していく過程を実感することができました。また、観客の方から様々な感想を頂くことで、客観的な作品に対する印象を得ることが出来、作品の理解が深まりました。

ただ、何度も踊っていると、初演当時の新鮮な感覚をそのまま持続できなかつたり、マンネリに思えてしまうという状況にも遭遇し、自身の身体や時間、周辺状況の変化していくなかで、いかに既に出て上がった作品を何度もフレッシュな感覚のまま再演できるかという技術も、踊り手の重要なテクニックのひとつであると実感することができました。

その他の感想としては、現地のスタッフ、JCDN の方々の対応が的確であり、非常にサポートイブな雰囲気であったので、踊りに集中することができました。また、スケジュール調整、移動、宿泊などの手配がスムーズでした。特に、宿泊ホテルが会場から近く、体力的に調整し易かったのがよかったです。

## プロフィール

1990年より、パフォーマーズ・ショップ(村井千枝主宰)、ゴルジ工房(林貞之主宰)の活動に参加。1994年、渡英。ラバンセンターにてプロフェッショナル・ダンス・ディプロマを取得後、エティエンヌ・ドゥクルー直属のマイムを学ぶ。1998年より、小スペースにて「fragment」(ソロ・シリーズ)、「white fetish」、「佳子の部屋」などの作品を発表。2003年、横浜ソロ×デュオコンペティションに「fragment vol.4」を出品、特別賞を受賞。2003年5月、フランス国立 Tours 振付センターより招聘され、作品発表の機会を得る。

## Dance Theatre LUDENS / 東京



### 「Be-duo version」

振付・演出：岩淵多喜子

共同振付・出演：太田ゆかり 大塚啓一

Be・・・である。存在する。自分自身であること、自分自身でありながら他者と存在すること。他者と存在しながら自分自身であり続けること。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて

出演場所……………松山2回、札幌2回

上演回数……………合計 4回

## 出演者アンケート

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

松山と札幌でアクティグスペースの大きさがとても違い、特にこの作品はこれまで小さい空間で観ていただく機会がなかったので、札幌の公演について始めは不安でしたが、結果的に同じ作品でも場所により、見せかた、見え方が違うということを感じることが出来、作品のディテールを再確認できました。

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

普段、東京圏以外の方と交流する機会が稀で、特にうちはグループで活動をしているため、個人で活動しているアーティストの方と一緒にいる機会がこれまであまりなかったのですが、作品を観せあったりすることを通して、作品の作り方などの意見交換が出来たことはとても良い刺激となりました。また、各地のコンテンポラリーダンスを取り巻く環境などについて色々情報を交換するととてもよい機会となりました。

**Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？**

自分達のことについて事前に何の情報も持たない観客の前で作品を踊ることによって、よりシンプルに作品そのものを観て頂けたように思います。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

具体的にどういう展開が開けていくかはまだ分かりませんが、今回は25分程度の作品を出させて頂きましたが、フルの作品も観てみたいと言ってくれる方が多くいらっしまったので、機会があれば違う作品を持ってまた公演が打てたらと思っています。

また、札幌ではワークショップを行ったのですが、作品を観て興味を持ってワークショップに参加して下さった方も多く、とても熱心に受講して下さいました。ワークショップに関しては、今後も年に1回位の割合で行って行けたらというふうにプロデュースをして下さった方ともお話しています。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

普段、自主公演などを打つ時は広報、宣伝やテクニカルなこと、予算のことなど全てカンパニー内部で行わなくては行けません。今回はそのようなことはJCDNの方で段取りを全てつけて下さったので、作品を観せることだけに集中することが出来ました。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

作品は公演の場を踏みながら、だんだん完成度が増していくものだと思いますが、現在の日本の状況では、どうしても新作を要求されることが多く、同じ作品を、繰り返し違う場所で上演し作品として成長させていく機会がなかなか持てない傾向があります。その点において、JCDNの「踊りに行くぜ」は、同じ作品を違う場所で観せて、実際の舞台経験や観客の反応から作品をじっくり暖めていくことが出来る点で、コンテンポラリーダンスを地域に広めるという意義の他、アーティストや作品を育てるという意味で、現場＝アーティストの視点、要求に応えたとても有意義なプログラムだと思います。個々のアーティストやカンパニーが地域の劇場のネットワークなどを構築し、公演活動を行って行くのは様々な物理的な問題があり、不可能だと思いますが、JCDNのように、地域間、劇場間のネットワークを構築し、ダンスをする人、見る人の基盤を少しずつ整えてくれる機関があることにより、コンテンポラリーダンスはより社会的に広がっていける可能性があるのではないかと思います。制作サイドの方は大変なご苦労だと思いますがぜひ今後もこのような活動を継続して行って頂きたいと願っております。私達も今回のような機会を今後の自分達の活動に生かし、現場で継続的な努力を積み上げていきたいと思っています。

---

**プロフィール**

99年設立。以来、岩淵、太田を中心としたメンバーの共同作業により作品を創作。01年「Be」- duo versionにて横浜ソロ×デュオコンペティション横浜市文化財団賞・在日フランス大使館賞受賞。フランス、チュニジア、オーストリアなどの国際フェスティバルへの招聘参加、レジデンス活動などの国内外で創作、公演活動をしている。代表作は、「Via」、「Be」、「Es」、「Distance」、「Against Newton」

---



# 丹野賢一 / NUMBERING MACHINE / 東京



## 「PUNK EXECUTION-SHORT SOLO WORKS- 012-RAG」

構成・出演:丹野賢一  
音:ガスカンク、松本じろ

衣装とメイクにより様々なパンキッシュな異形のキャラクターに扮しての短時間のソロ作品のシリーズ。どのキャラクター達が登場するかは、各会場の条件によって選考、決定される。 Who is coming?

踊りに行くぜ！！出演は	……………	3回目
出演場所	……………	新潟2回、仙台2回
上演回数	……………	合計 4回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

私の基本的な姿勢が、完成した作品を極力違わないように再生していくという方向ではなく、事前に考え得る事は考え尽くしておいた上で、本番で発見される新たな事態を積極的に受け入れるというものですから、今回も「いつものように」変化は覚えました。

今回の作品「012-RAG」は、これまでに40～50回は上演していますが、それでも毎回のように出来る(その場にそぐう)事が生まれたり、出来ない(その場にそぐわない)事が生まれたりする振幅を面白く受け入れています。その事とは別に今回の場合は、他の出演者の皆様の作風や戦略を見ながら、どうしたら狙いや印象が重ならないように出来るか、効果的に違いを提示出来るかといった視点で、意図的に内容を変化させた所も大きいです。

「012-RAG」という作品が上記したように多数の上演経験を持っている事もあり、「精度」を上げていく時期からケースによっては「対応」を比較的容易とする時期に移行した為だと思います。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

リハーサルや会話を聞きながら、他の出演者の方々が何を気にし、何を大事にして作品を創られているのかを知っていく事は、非常に興味深いです。それを取り入れるという意味では無く、「違い」を把握していく事で、自分の位置や方法は明確になっていく事があります。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

初めての土地である事は、スタッフ、観客共に初めての出会いの可能性も高く、また実際にそれは多く、嬉しく思っています。極めて個人的には、今年は数年前から話をしてきた仙台のスタッフの方との仕事の実現、新潟では現在地元で活動をされている舞塾時代の先輩との再会などの喜びもありました。

また、どの公演日も観客数も多く、現地のスタッフの皆様の努力に敬意を表します。一般にこのような公演の動員は難しいと言われるますが、別な見方をすれば、供給が過多になっている大都市よりも需要とのバランスは取れているとも考えられ、可能性は感じます。

今回出会った現地の方々と今後の展開を共に思考する事の継続を望んでいます。例えば、今回は、場所的には2会場共に特殊なスペースでは無く、所謂小劇場でしたが、非劇場の空きスペースや野外など、大都市では中々行い難い場所での公演の実現などは寧ろ地方都市の方が場所の確保、認可などのハードルが低いのではとの感を持っています。

## Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今回に関しては、具体的に決定している事はありません。

しかし、仙台では公演翌日に劇場や空倉庫の下見をさせて頂き、実現を計画中です。また今年の私の出演場所ではないですが、前橋や岡山でも「踊りに行くぜ」での縁も作用しながら、話を進めています。

## Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

単独公演と複数の出演者がいる場合とでは、一出演者が使用出来るリハーサルの時間や機材の量に贅沢が言えないのは理解します。しかし、私がこれまで経験したショーケースなどの複数の出演者の企画と比較しても、「踊りに行くぜ」の場合は限定が厳しいように思います。特に照明に関しては、全体で共用するものが非常に多いです。これは一つには、私個人の作品に対してやりたい事が相当に限定されます。「限定」される事でこそ「発想」出来る事も多々あり、それは楽しむ部分ではあるのですが、上演作品の選定、選定後の作戦など厳しい部分が多いのは事実です。

もう一つは、使い回しが多い為、連続して上演される皆の演目が似た印象に見えてしまうという問題も起こしているように思います。全体をフォローしていく事は必要でしょうが、まず枠組みを作るより、個々の演目で必要なものをまず上げていってから、全体を考えるとという過程が必要な気がします。各地で連続して公演が行われているし、総出演者も多い訳であり、時間的な問題は壁ではありますが、テクニカルスタッフとの綿密な打ち合わせの機会は不可欠です。

但し、抜本的には上記のような問題があると考えますが、現場ではテクニカルディレクターの相川さん、また現地のスタッフの皆様の配慮に感謝しています。

## Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

単独で地方公演を行っていく事は容易いとは無い中、JCDNのような組織が率先してこのような企画を実行し、端緒を作ってくれる事は非常に意義があると思います。実際私自身も、「踊りに行くぜ」に参加する事で、得たネットワークは極めて貴重です。感謝します。

その上で問題点を語ると、5で記した点に加え、現場がやや啓蒙的に過ぎる、固いのではとは感じています。開始時の挨拶の内容やタイミング、演目と演目の間の処理の仕方、アフタートークの方法など、改善の余地があると思います。説明や紹介の機会でもあるのですが、ともすれば会議や発表会のような固さになってしまう方向ではなく、イベント全体がグルーヴ感を多少は持てるような構成を求めます。

また公演当日の話ではありませんが、東京での選考会を観た印象を。

上演の後、観客に作品に対するコメントを求めていましたが、これは「行うのであれば」まずJCDNのボードメンバーが発言すべきだと思います。(コメントは無しの方角もありでしょう。)

というのは少なくとも選考会当日の上演はJCDNのボードメンバーのビデオ審査で通過した方々のものであり、JCDN側に推薦する理由があった筈ですし、「選考」するJCDN側の視点を明示する必要があると考えるからです。

観客の感じ方はそれぞれに当然あり、その多様な見方が羅列され「公開ダメ出し」化していった状況は正直感心出来ませんでした。意見は多ければ有用というものでもなく、分裂も起こしますから。

最後に今後も「踊りに行くぜ」に参加出来れば幸いである事は勿論ですが、出演以外の部分でも更に協力出来る事は無いだろうかと考えています。

お膳立てがある事は素晴らしい事ですが、お膳を立てる(企画の)段階から某かの実演者側からの意見を発言したり、各地の関係者とも実演者側からの意見を事前に交える事で、発展や解決されていく事もあると思っておりますし、各地のアーティストとの関わりも当日同じ舞台を踏む前から何か関係出来る事はないか等、模索しています。

---

## プロフィール

'84年、田中泯主宰「舞塾」第四期に参加。翌年より独自の活動を開始。'92年以降は、3000個のコンクリートブロック、4トンのピンクの粉、高さ約4メートルの鏡の壁等、会場を作り替えるほどの大掛かりな舞台装置と身体の動き、「もの」と絡む行為によるソロ作品の上演を屋内外で続ける。一方、'00年からは装置を使用せず、今回上演の形態での作品創りも開始。一気に軽快となったフットワークで、これまでに海外11ヶ国14都市でも公演。

# 照屋 美季・又吉 大介 / 那覇



「ちむ」

振付・出演：照屋美季・又吉大介

こころのころ、その流動性。私達に宿る何か。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………沖縄  
上演回数……………合計 2回

## 出演者アンケート (回答者：)

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

人と人との関わり、肢体の可能性、発想の可能性を感じました。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

仕事柄、クリエイティブな一面もあるので、そこに影響はでてると思います。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

初舞台、初経験だったのでなんともいいがたいのですが、自分達と舞台、音響、照明等の関係性には悩まされました。

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

初めてコンテンポラリーダンスというイベントにふれて、日常の中の自分や人の動き、しぐさや癖などを、また違った視点から意識するようになったかもしれません。普段普通に有り得る光景が、妙に滑稽に映ったりするのも面白いです。

また、沖縄はまだ文化面といったところなどでひらきがあったりするので、JCDN 側から踊りに行くぜの前に、ワークショップ、イベントなど、ワンクッション、なんらかの場をもうけてくださると幸いです。

## プロフィール

照屋美季：沖縄県立芸術大学絵画専攻に在学する傍ら、大学内で結成されたダンス・ユニット「Veshmic」でダンスを踊るなど身体を使った表現を現在模索中。

又吉大介：パンタンデザイン研究所在学中、ショーの運営企画、リーダーなど務める。

# 長尾 忍 / 佐賀



## 「なんだ・なんだろう」

振付・出演：長尾 忍

なんだ・なんだろうって、なんだろう！！????????のソロの作品です

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………札幌2回 / 福岡1回  
上演回数……………合計 3回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

精神的に一杯一杯でよくわからなかった！

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

色んな人達がいらっしゃると思った(寺田さんの表現力、動きが忘れられません！！)

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

問1と同じです。同じ気持ちです。一杯一杯で何がなんだかわからなかった！！

#### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

地方(佐賀県)のカットショーでパフォーマンスをする仕事を頂けました。

#### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

1人での出演は初めてだった事！！

札幌の会場、テクニカルの方々本当に素晴らしかったです。感謝しています。

#### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

コンテンポラリーダンスを一生やって行くと思った！！

### プロフィール

27才から佐賀の福岡加奈子バレエ研究所にて、バレエ・ジャズダンスを学び、'98年ニューヨークにて1ヶ月間バレエとコンテンポラリーを学ぶ。'02年よりイタリア・ニューヨークなどで路上パフォーマンスを行っている。現在佐賀にてパフォーマンス活動を行っている。自分の動きを探索中！

# 納谷 衣美 + 山下 残 / 京都



## 「シビビ」

振付：山下残 出演：納谷衣美、山下残

最近興味があるのはダンサーではない人が踊り出す瞬間。

僕はダンサーなので得意技ではない技を連発してそれらをつなげて作品づくりしました。

一生懸命やります。(山下)

踊りに行くぜ！！出演は……初めて  
出演場所……沖縄2回 / 名古屋2回  
上演回数……合計 4回

## 出演者アンケート (回答者：納谷 衣美)

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

ありました。普段同じ作品を繰り返し上演する機会はなかなか無いので、ダンスの振付けには大きな変化はないけれど、踊りの質は初演よりずっと納得のいく形になっていったのではと思います。ワークインプログレスという作品の作り方に対して今までは否定的だったのですが、今回このような形で作品が育っていくことに立ち会えたことで考え方が変わりました。

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

直接作品から影響を受けたというよりは、各地での今のダンスの現場の状況をきいて自分の今の状況を知る機会になりました。

### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

初めての土地であるかどうかは作品にどう影響したのか、ちがいがあまりわかりません。踊る側としてそれを意識して踊ったりすることは無かったので。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

普段はその場所に行ってただ踊ることだけ、という状況にいることは少ないので、その土地に行って、その作品を踊ることだけに集中した時間を持てたことは貴重だと思います。

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

初めて参加するひともし長く活動を続けている人も同じところで作品を発表できるというのがこの企画のいいところだと思う。審査会の場も公開という形をとるのであれば、その作品を初めて見た人にも開かれた批評の場であって欲しいと願う。今回の参加作品に対しての意見でないあまり意味が無い気がする。その他の活動との比較を審査会で話されてもその場にいる人には解らないことが多かったと思う。ビデオ審査でなぜこの作品を選んだか、実際にみてどう思われたのかということがもっと話されればよかったのだろうか、と思う。

そして審査会でのコメントや意見が宣伝にもっと反映されていくといいと思う。(ホール推薦であればそのホールからのコメントがあるとか)アーティスト側のコメントだけでは作品がどういうものか、想像が付きにくく、「知っている名前の方が自分の町で見れる」というところだけに陥る危険がある。審査会からダンスの批評が生まれ、文章化され、宣伝美術へリンクしていけば、もっといいチラシやサイトになるのでは。その編



集する労力は大変なことだと思いますが。

## プロフィール

納谷衣美(なやえみ) 93年より舞台活動に関わりはじめ、山下残の作品に宣伝美術、ダンサーとして多数参加。ハートのあるグラフィックデザインとダンスを目指してつき進む日々。

ブックデザイン『ココロのトリ ドローイングの旅に出る』(つき山いくよ著)が好評発売中。

山下残(やましたざん) ダンサー、振付・演出家として活動している。最新作は浅草・隅田川の観光船の上で寿司を食べ、カツオを持って船内を移動し、観賞用の金魚を川に放流した後、金魚鉢に花を生ける作品を発表。

---



# 野口 知子 / 兵庫



## 「エレベーターガール」

振付・出演：野口知子

ご利用の階をお知らせください。お知らせください。  
お知らせくだ... お知らせ.....  
喧騒のなか、今日もエレベーターに乗ってくる  
人々。あなたもいっしょに乗ります？

踊りに行くぜ！！出演は.....初めて  
出演場所.....大阪、仙台  
上演回数.....合計 2回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

同じ作品でも、時間と場所が異なるとこんなにも違うのかと思い知らされた。2回目(仙台)の方がよくなっていると自分では思う。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

出番直前の舞台に臨む姿勢がとても刺激になった。  
控え室での時間の過ごし方、アーティストそれぞれ異なるが、興味深かった。  
入念に柔軟体操する人、リラックスして仮眠する人、振り付けを丹念におさらいする人...皆それぞれのやり方で精神を集中させ、来るべき時を静かに待っていた。  
「緊張するのは一緒...皆同じ人間なんだなぁ」としみじみ共感してしまった。  
リハーサル、ゲネプロの時間の使い方が、アーティストそれぞれ全力投球していた。  
敬服するばかりである。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

初めての土地の方が、素直に「自分」を出せたように思う。  
自分を知っている人がほとんどいないという状況下で、かえって開放感を味わえた。  
この解き放たれた気持ちがパフォーマンスにも反映されたように思う。  
これは憶測だが、大阪で「白いスリッパに！」と言われていても、果たして買いに走っていたかどうか...  
解らない。

#### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

「見る天国、やる地獄」とはよく言ったものだ。  
舞台がこんなに苦しいものとは...!  
私にとっては、チケットを買ったお客様に見ていただくのは初めての舞台。  
他の出演者とは違ってド素人もいいところ...こんなところに入らせてもらっていいのだろうか？  
恥ずかしながら「キューシート」も解らなかった。  
そもそもが解らないことだらけであった。  
思い起こせば、選考会のダンスが私の予想以上に評価を得たのが「解らない」ことの始まりであった。  
なんであんなに受け入れられたのか...さっぱり解らなかった。  
練習してきたことの半分くらいの出来だった。なのになんで??

大阪公演の初日が終わって、選考会を見てくださった方から今度はブーイングの嵐。  
同じ気持ちでやっているつもりなのに...なんで??  
練習で慣れすぎたのだろうか?  
毒気が無くなったのだろうか?  
あの日の晩、かつてこんなに悩んだことがあったのだろうか?というくらい悩んだ。  
悩み抜いた末、かすかに見つけた作品のコア「社会への怒り」を思い出して2日目に臨んだ。  
結果、初日よりは幾分ましであったが、まだまだ選考会にはほど遠かった。  
過去の自分に脅迫されるって、恐ろしい。  
今の自分を否定されているのだから。  
自分に負けるのが悔しかった。  
仙台公演は、私にとっては崖っぷちだった。  
衣装を変えた。  
お金で解決できることなんて容易い。また一生懸命働けばいい。  
ゲネプロから、何かが自分の中で変わっていくのを感じた。  
それは自信でもない、安心でもない、  
この作品を作った頃の気持ちになれるほんのちょっとした仕掛けのようなものを見つけた。  
公演が終わって、すべてを出し切った充実感でいっぱいだった。  
選考会を越えられたか...それは今でも解らない。  
でも、これだけは言える。  
選考会を越えられなかったとしても、  
今、ここにいる私は、あの選考会で震えていた私ではない。  
少しだけ、ほんの少しだけ成長した私が愛おしい。  
解らなかったことが、ほんの少し見えてきたように思う。  
作品を世に出すことの意味、そこから新しい対話が生まれること、そして新しい自分に出会えること。  
作品を世に出した以上、それに関わる一切に責任を持つこと。  
本番は練習どおりにやってもダメなこと、更なる魂の飛翔が必要なこと。  
人間の気持ちは日々変わることで、作品を作った頃の同じ気持ちには簡単にはなれないこと、だからこそ仕掛けが必要なこと。  
自分のやり方でしか練習できない、自分のやり方でしか作品は作れないこと、そして、作品を作り続けること...。  
「踊りに行くぜ!!!」で、人間の生き方を学んだように思う。  
最後に...  
こんな情けない私を支えてくださったJCDNのスタッフの皆様、公演会場のスタッフの皆様、見に来てくださったお客様、  
そして私の友人、家族。皆に感謝!!

ps:文化庁・アサヒビール株式会社・トヨタ自動車株式会社 御中  
ダンスを通じて人間の生き方を学べる、こんな素晴らしい企画はございません!  
どうか、いついつまでもご支援を!

事務局の方へ希望:

パントマイムの公演では、出演者・作品名を書いたものを暗転前に掲示することが多いです。  
ダンス公演ではほとんど見られません。お客様の立場からは、あった方が親切のように思います。  
出演者順に印刷したプログラムを当日準備できないことも考えられるでしょうから、暗転前に掲示するのは、いい方法だと思いますが...いかがでしょう?(作成するのは手間ですが...)

---

## プロフィール

ごく一般的な社会人。勤続21年。  
99年から勤め帰りにパントマイム、演劇、ダンスのワークショップで学ぶ。  
ジャンルにとらわれない身体表現で自己の解放を目指す。

---

# 近藤良平 & 野和田恵里花 / 東京



## 「小さな恋のメロディ」

振付・出演:近藤良平、野和田恵里花

思い立ったが吉日のココロなのです

踊りに行くぜ！！出演は……………3回目  
出演場所……………岡山  
上演回数……………合計 1回

### 出演者アンケート (回答者:野和田 恵理花)

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

今回は一回だけでしたので、その間の変化はないのですが、なにせ作品自体が2年ぶりの上演になり、この2年間の状況の変化などを思うと感慨深い再演でありました。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

岡山のダンスの状況。パワフルさを知りました。びっくり。ダンスに対して真面目でかつ楽しんでいる人間が増えてきているように思います。

#### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

札幌の時にはその後、地元のスタジオでワークショップという形に発展。

#### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

今回は子連れでの参加をさせてもらいました。ご面倒をかけたことと思いますが、ボランティアとしてベビーシッターをお願いでき、本当に有り難かったです。なかなか腰が重くなりがちなのが、これで気が軽く動くことが出来ます。感謝感謝。

岡山で実際にベビーシッターを捜して動いてくれた倉知さん、彼女が立ち上げようとしているコンテンポラリーダンスを普及させるというDAMDA、そういう存在がとても頼もしく楽しみです。意外にもダンスに対しての期待感が大きくなっているのが驚きと共に、時代が動いているのだなあ、当たり前なのですが、嬉しいことだと思います。

これは大きな成果ですね。ここ2年間は東京でのみ踊っていたので、私の知らなかった広がりを今回は感じる事が出来ました。これからは腰軽く、たくさん踊れたらいいなとも思います。現地でのサポートをしてくれている方たちと、あまりお話しが出来なかったのが、どうしても子連れでのマイナスな部分、、でしょうか。

### プロフィール

アスンシオン,サンパウロ,マナウス,サンチアゴ,リマ,ブエノスアイレスと南米の様々な町で 育ち 10代で日本に帰国。二人は東京神楽坂で'95年、衝撃的に出会う。

野和田恵里花は、ダンス.ウィズ.コリオグラフィーを追求する創造集団バオバブ・プラネットを、近藤は、直撃型抱腹絶倒ダンスカンパニー コンドルズをそれぞれ主宰する。

二人は、東京を代表する最もヒップでハートフルな人物である。

ハニースクル  
honeysuckle / 松山



「リンゴの骨」

振付・出演：星加 昌紀・高橋 砂織

知の果てが折れた・・・  
男と女はくるくる周り、1つの世界にポトリと落ちて  
いる。  
骨からあふれ出す  
ただそれだけの味わい

踊りに行くぜ！！出演は……………2回目  
出演場所……………大阪2回 / 仙台2回  
上演回数……………合計 4回

出演者アンケート

Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

松山での選考会から1箇所目の大阪まで5ヶ月あり、自分達で作品を大幅に変えました。  
作品のコンセプトは同じだったものの、選考会の時の作品と印象が随分変わってしまい、観客も含めて、あまりいい反応が返ってきませんでした。むしろ、厳しい意見がほとんどでした。  
自分達でも何とかしなければと思っていたので、観た人の率直な意見が身にしみてありがたかったです。  
そんなこともあり、1ヶ月後の仙台までは、選考会の時のベースに戻す作業と、新しく創りなおす作業を同時進行にしながら、本番ぎりぎりまでトライしてみました。とにかく、大阪での課題点をクリアするという事に精一杯だったので、2箇所目があるということが、プレッシャーでもありましたが、同じ作品を、よみがえらせるチャンスだとおもしろい、さらに作品と向き合えたのでよかったです。

Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

皆様から刺激を頂きました。  
特に、丹野さんの、作品のもっていきかたに、興味津々でした。

Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

前回とは、また違った場所を巡回することができ新鮮でした。やはり、行く先々に独自の風情があり、それぞれの場所で、いろんな人に出会えるので面白いです。特に仙台で現地のスタッフ、お手伝いの方々が印象に残ってます。作品を踊るうえで励まされました。ありがとうございました。

Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今までのところないのですが、松山に来てみたいといってくれている人がいるので、それが嬉しいです。

Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

作品について、色々感想、アドバイス、ダメ出しを言ってくれる人が多いのでありがたいです。  
あと、自分達はテクニカル、特に照明について、知識と経験が乏しいので何かと助かりました。  
大阪の会場で、ジェットコースターがすぐ近くを走っているのと、下の階でプロレスが行われているのには驚きました。

Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

前回について2回目の参加となりました。前回の参加が2人でつくる最初の作品で、今回は2作品目だったのですが、1箇所目の大阪と、2箇所目の仙台では作品の振付が大幅に違ってしまい、それぞれの反響がやはりちがいました。

前回の作品では3場所(札幌、富山、東京)とも、若干の変更はあるものの、回を重ねる度に自分達のイメージに近くなり、作品の印象もさほど開きがなかったので、ある程度の手応えを感じることができました。

今回はそういった分心残りがあるので、「りんごの骨」という作品とは、もう少し向き合っていこうと思っています。

これも「踊りに行くぜ」に参加することによって、多くの人に見てもらうことができ、色んな意見、感想を聞けたからだと思います。

自分達がいっぱいいっぱいだった分、水野さん、佐東さん、長谷川さんをはじめ行く先々のたくさんの人に、今回は助けられたと実感しております。

作品を上演する機会はもちろんのこと、多くの人に出会い、そのなかで自分が成長していけるところ、チャレンジできチャンスもあるこの企画。今後も続けていきましょう。

## プロフィール

00年に2人は同じオウチに住むようになる。'02年に「seesaw」を共同振付で踊る。

ハニーサクルとはチンパンジーがよく手に持っている小枝のようなもの「すいかずら」という植物。

星加は'99~'01年山崎広太作品にダンサーとして参加、高橋は松山を拠点に活動しているヤミーダンスのメンバー。

ミクロな2人が織りなすポエトリーなムーブメントが持ち味。「踊りに行くぜ！！」は昨年に続き参加。

## 広島アートダンスプロジェクト参加者 / 広島

### 「握手名人」

振付:近藤 良平

出演:広島アートダンスプロジェクト参加者  
高野仁美、益田幸代、空津江、  
戸田貴子、三井奈々、大橋美香、  
中島由美子、砂田洋子、都築右典、  
鶴田正之、松本かおる



'03年8月26日~9月6日までの9日間、安芸区民文化センター主催にて行った近藤良平ワークショップ&デモンストレーションの参加者有志による作品です。

踊りに行くぜ！！出演は……………今回のメンバーとしては初めて 個人としては2回目

出演場所……………広島

上演回数……………合計 2回

### 出演者アンケート (回答者:空 津江)

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

地元での1ヶ所だけの公演でした。それでも、以前自分達だけで作品発表をしたときと、今回、他の県外の出演者達と公演をするのでは気持ちが違いました

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

重複しますが、他を知ることで自分の事がわかりました。作品を仕上げていく過程に触れ、作品を観、直接話をする中で作品をつくるという行為を身近に感じました。多様な表現者に出会い、オリジナルである事の面白さを知り、自分に何ができるのか、これから何をしたいのか考えました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

連絡をとりあい、応援しあえる新しいネットワークができました。次に企画を立てたとき、声を掛けられる付き合いができました。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

客席が近いことが面白い体験でした。そして周りに育てられている、助けられていることを感じました。観客、スタッフ、主催者の方々に。

表現を必要としている人と場所があると思うことができました。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

普段は踊りたいから踊ると思っていました。自分が楽しいから、踊ることそのものが面白いからやる。その延長線上で他の人にも楽しんでもらったり、何か人の役に立てればいいなと思い、人前で踊る。「踊りに行くぜ！！vol4」に参加して、作品及び表現者が生まれ、育つ事を望み、楽しみにしている人が確かにいるのだということを感じました。

また、他の出演者の作品を見て、現在の日本で多様な作品と表現者が存在する事を知りました。今回、広島公演に来た観客も多様である事を、アフタートークの時間を持った事で知りました。さらに、生まれたての作品や表現に興味を持ってきているその表情の一つ一つが心強く感じました。

昔からの様式にはまった表現でなくても受け入れられている。現在この社会で生きている人間がその表現をし、作品を生み、現在この社会で生きている人間がその表現と作品を望んでいるという関係を知ることができたのが、今回の収穫です。

広島でもそんな関係が具体的な現象として起こり始めそうです。私をはじめ、あたらしい作品を自分達なりに作ってみようという個々の動きと、それを応援すると申し出てくれた人がいます。私は vol3 も参加しましたが、前は多様な表現がありうると知る機会にはなりませんが、今回のような楽しまれたり、望まれたりしている熱をあまり感じませんでした。

希望ですが、広報するにあたり、出演者や作品の情報がもう少しあるといいと思いました。写真や映像の一部などがあるとどんな公演なのか想像を持ちやすくなると思います。

まずはこれからの半年間でどんな作品が生まれるのが楽しみです。ありがとうございました。

**プロフィール**

(広島アートダンスプロジェクト)

'03年8月26日～9月6日までの9日間、安芸区民文化センター主催にて行った近藤良平ワークショップ&デモンストラーションの参加者有志。総勢24名。

**福村 まり** / 札幌



**'Die Puppen Spiele (ディーブッペンシュピール)'**

振付・出演：福村まり

ドイツ語で、「Puppen」はお人形、「Spiele」は遊び、芝居という意味。日々、習慣や決まり切った中に安心して浸かってしまいがちだけど、この時、ココを動かせるのは自分だよ！生き物としての欲望を取り戻せ！せめて日常の隙間で遊ぼうよ。

踊りに行くぜ！！出演は……………2回目  
出演場所……………札幌2回  
上演回数……………合計 2回

**Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？**

作品に対するアプローチが自分とは全然違ったり自分では思いつかない体の使い方をしていて勉強になった。

札幌公演に出演したダンスシアタールーデンスさんはエスプリのきいた笑いをダンスに持ち込んでいて自然に笑えるダンス作品を作っていたことに興味を覚えた。

人の身体の可能性はまだまだあると感じたし、自分の感じたことをもっと深く追求していく、または、捨てるという自分なりの作品の作り方を探したいという欲求ができました。今後も自分の動きを追求していきたいと思いました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

頭を柔らかくしていくことを心がけるようになった。と、同時に誰かのまねでない自分独自のものは大切にしたいと思えたことが、プラスになったと思います。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

もう少し、大がかりな仕掛けをしてみたいと思ってちょっと制限を感じる。  
逆に限られた制限の中で、何ができるか工夫しようというのが働くのが面白いともいえます。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

感想ですが、今回参加してみて自分の甘さを痛感しました。

アーティストとして、一人の表現者として強くなりたいと思いました。次こそは、全国各地にもっていきたいと思わせる作品を作りたい物です。

さて、今回の札幌公演は、出演者それぞれ個性があてバランスが良かったと思いますが、これはダンスか否か？なんじゃーというくらい強烈なものが一つくらいあってもいいのではないかと思います。

自分も問題を投げかけられるくらいの作品を見たいと思っていますので・

もっとも、札幌のお客さんは、意外に保守的なところがありますのでこれぞダンスというものを織り交ぜながらというプログラムがいいとは思いますが・

それと、有名なダンサーを呼ぶ場合、企画として積極的にワークショップを組み合わせるといいと思います。全然ダンスをやったことがない人向けのプログラムとダンス経験者とうクラスをつくってもいいし、逆にダンス経験者と初心者を組み合わせたクラスをつくっても面白い発想がわきそうです。

チラシに関しては、全国版と地方版にしたのは良いと思いました。

それと、集客に関して、今回の私の場合ですが、かなりの数のDMを個人負担で、個人的に出しました。もし、領収書でおちるのなら領収書でおとせるようにしてもらえるとありがたいかなと思いました。(今回は福村自分で、勝手にやったことなので別に請求はしませんよ)お金は色々大変だと思いますが宣伝のためにこのくらいまではお金が出せるという上限があってもいいと思いますので、多少は経費でおとせるとありがたいと思います。

チケット代に関してですが、学生料金ができたのはとても良いことだと思いますし地方によって、それぞれ物価が違うと思いますので料金設定もちょうど良かったと思います。

募集の仕方ですが、もう少し早い段階で募集要項がでるといいなとは思いますが。なんじゃこれは一というものを集めるために募集の仕方も工夫は必要かと思えます。具体的には今私もかけませんが・以上です。とりとめのない書き方で失礼しました。

**プロフィール**

ある日、芝居に出会い、自分の肉体と声を使う表現が好きになる。同時にバレエなど、ダンスをかじり始める。コンテンポラリーダンスや舞踏など自分が面白いと思うものには首をつっこむ。2001年 JCDN「踊りに行くぜ！」札幌公演 MIRACLE WONDERZ 「METALIC WATER」で参加。2002年コンカリーニョダンスウィークス ユニットM3で「無題」を踊る。空想、想像、妄想大好き！地の底深く掘り下げ、天を突き抜け、宇宙まで突き抜きたい・！



# ほうほう堂 / 東京



## 「北北東に進む方法」

振付・出演:新舗美佳、福留麻里

ふたりの間、時間とリズムの濃度。カタチになるまでの波間をゆらゆらもつれてシンメトリー、骨からパラレル、めくるめく連ダンス。北北東シリーズの第3弾たぶん完結編。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………松山、新潟、広島  
上演回数……………合計 6回

出演者アンケート (回答者:新舗 美佳 / 福留 麻里)

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

ありました。各公演終える毎に作品は部分的に変わっていきました。

具体的にも変わったのですが、要は本番までの作品のつめ方、みたいな事が変わっていったのではないかと思います。踊る回数を重ねていくほど自分達の身体がその作品に慣れてしまう、というような事が起こっていたように思うのですが、それをいかにより新鮮に取り戻すかという事をこの短い期間に何度も踊る「踊りにいくぜ！」で研究できたんじゃないかと思います。

10回のリハーサルより1回の本番の方が作品が育つなあ、と感じます。(新舗)

具体的な振付のないようや、照明、扇風機との関係で発見あり、等の変化があった。そのことで、作品自体のもつ、リズムや流れみたいなものがだんだん生まれてきた感じがします。(福留)

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

出演者に限らず、地方で活動されている方達が、いかにその土地でダンスのお客さんやダンサー自体の活動を盛んにしようとしているかという熱意、活動は驚きでした。小さい規模でもとても勢いを感じました。(新舗)

それぞれの人の踊りに向き合う姿勢や生き様に刺激をうけた。

森下さんとかおもしろくてファンになったり、丹野さんの、作品づくりのこだわりと、楽屋で感じる少しうちとけた時の人柄と、アフタートークでの徹底した態度には、色々と考えさせられる謎の深みがあった。

広島でしげやんさんを見て、いいダンス踊れるようになりたいなあ、とこころから思った。

あと、松山で会ったヤミーダンスのひとたちとか、スタッカートの人たちとか、年齢がわりと近くて、踊りや踊る環境を、自分達で企てようとしている人たちに、刺激をうけた。

沸騰しているかんじがして、いいなあ、とおもった。(福留)

### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

初めての方たちばかりがみるという点において、より作品がよい時も悪い時もストレートに伝わったのではないかと思います。お客さんたちの真剣な視線も印象的です。自分達の力だけでこんなツアーは不可能なので、とてもとても貴重な経験でした。(新舗)

それぞれの土地でのお客さんの反応というか雰囲気が違ったのがおもしろくて、その感じは、それぞれの土地のもつ雰囲気(商店街や食べもの屋さんや会う人とか)、あと、歴史とかやっぱり関係あるのかなとおもった、そういう意味で特に印象に残ったのは、広島でした。

初めての土地で作品をやってく中で、自分達の意識も毎回少しずつほぐれていったような気がして、それは作品にもいい影響があったと思った。(福留)

#### **Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか?(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

毎回広さや会場の色味やいろんな条件の違い、はじめて行く会場で短時間に照明等いろんな事を決定していくという点。

また、旅公演なので、その日公演が終わってもみんな家に帰るわけではないというところで、一緒にご飯を食べたり飲みに行ったりして、出演者の方やスタッフさん達からいろんな話や作品に関する率直な意見が聞けること。

あと、ワクワク感!(新舗)

舞台の上に舞台をつくるというのが、初めてのことだった。

アフタートーク。(福留)

#### **Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

とにかくはじめましての土地へ自分達の作品を発表することができたこと自体がとても貴重でした。また各地域毎に地道に活動をしている人たちがいるということを知ることができたのもとても嬉しい事でした。

今回全部ではないけれど幾つかのほかの方の作品をみていて図らずも何かダンスのアイデアみたいなものが似ていると感じるものがあったのは不思議です。だからこそより、自分達独自のものをもっともっと発掘していこうと思いました。

また、今後、作品をつくり踊るといことだけでなく、自分達なりにダンスを通してもっと色々な事と関わるとい活動もしていきたいと思いました。

それから佐東さん、水野さんのけなしているような(失礼)、ほっとするようないつもまっすぐで裏のないおコトバに、そんな風に言うてくださることそれはとても新鮮で、感謝いっぱいです。ありがとうございました!!!本当に!!!(新舗)

3ヶ所違う土地に行ったけれど、毎回必ず佐東さん水野さん相川さんはいて、3人に最初に会うのは必ず劇場の中だし、どの土地でも1番長くいる場所は劇場の中だから、それぞれの土地を思い浮かべると必ず劇場がいちばんにうかんでくるのが、当然のような、不思議なような感じがした。

いろんな人やいろんなダンスがあって良かった、もっといろんなびっくりするようなものや人にあってみたいと思った。

何度も上演することで、洗練されたりいい意味でかわっていく部分と、新鮮さがうすくなっていく危険がある部分とあって、それとのたたかいで、それはほんとにちょっとした意識の持ち方の違いとか、作品や振付のちょっとした仕掛けによって、きっと全然ちがってしまうもので、そのことで、生きてたり、死にかけたりして、踊りはナマモノだ!こわい。とおもった。

いろんな土地に行ったことで、東京のことも考えたし、地方のひとのほうが自由にみえてうらやましい気がしたりもしたけれど、東京生まれ東京育ち、東京だって結構いいんだぜって気持ちで、今の自分達がいきいきできるダンスをはりきってさがして、またいろんな土地にも行きたい!と東京公演をみて心がはげしくさわぎました。

今回お世話になって本当にどうもありがとうございました。(福留)

---

### **プロフィール**

01年、新舗美佳と福留麻里により結成。これまでにSTスポットのラボ20#13にて「ホーホー注意報」、ラボセレクションにて「北北東の芳香」、03年横浜ダンスコレクション ソロ×デュオコンペティションにて「北北東に進む方法」を発表。その他クラブや神社で行われたイベントや「金魚×10」の公演に参加など。身長155cmの視線の先にあるカラフルな瞬間を題材にあたらしくときめくダンスの発見、追求にはげむ日々。

---

# 増子 浩介 / 新潟



## 「Hyphenation」

振付・出演:増子浩介

Hyphen でつなぐと面白い。ある意味微妙で、いい加減なものであったり、あるいはとても正確なものになりうるが、その関係がしだいに密着してくると、一つになると言うのである。人間や人生に置き換えても、また同じである。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………新潟  
上演回数……………合計 2回

## 出演者アンケート

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

コンテンポラリーダンスの幅広さ、表現手段の多彩さを、改めて感じました。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

東京でもなかなか見る事の出来ないメンバーでの、個性豊かな上演内容だったと思います。このような企画が、新潟でも出来る事を再認識しました。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

新潟公演では、たまたま偶然に、各作品の衣裳の色が「白」「アイボリー」「ベージュ」と、かぶってしまいました。作家としては譲れないところもありますが、観客に対するサービスとして、衣裳の突き合わせも必要かも知れません。

### Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。

このような公演が、全国各地で上演される事は、地方で活動する一舞踊家として大変喜ばしい事でした。文化庁、主催者、協賛各社に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。このような公演が、再び新潟で企画される事を、切に期待しています。

新潟では多彩な作品が上演されましたが、ゆえに様々な物議も観客の中から起こっています。

私が最も困った質問は、「コンテンポラリーダンス」と「舞踏」との違いについてです。実際に、「舞踏」の作家が、海外での公演で、「コンテンポラリーダンス」として上演するのでしょうか？逆に、「コンテンポラリーダンス」の作家が、海外公演で、「舞踏」として上演するのでしょうか？「どちらも創作であり、肉体表現」であることに変わりありませんが、日本でも、カテゴリーや上演作品の整理が必要なのではないかと思いました。

終演後、ハワイエにおけるワンドリンクサービスは、大変好評でした。その反面、地域性にもよるのですが、アフタートークでの司会者と一部の出演者の発言や態度が、非常に横柄で行儀が悪いという指摘が、観客の中からありました。目の前に座っている人は、お金を払って見に来てくださった「お客様」だという認識が必要だと思いました。

## プロフィール

バレエを田沢澄子、マックス・ボゾニー、現代ダンスを庄司裕、ペーター・ゴスの各氏に師事。'90年度文化庁派遣芸術家国内研修員として、グラハムメソッド、作舞法を専攻。'96年こうべ全国洋舞コンクール創作部門優秀賞受賞、他、多数。新国立劇場、国民文化祭、文化庁移動芸術祭等への出演も数多い。'98年度文化庁派遣芸術家在外研修員として、パリ・ニューヨークで学ぶ。'01年秋、在仏日本大使館の招聘を受ける。現在も、様々な分野のアーティストと共にコラボレーションを展開。

# 三好 絵美 / 松山



## 「Sinking float」

振付・出演：三好 絵美

知らないうちにプカプカしてた。  
外では グルグル。  
内では ドクドク。  
私は沈みながら漂う。

踊りに行くぜ！！出演は……………2回目  
出演場所……………札幌2回 / 岡山1回 / 沖縄2回 / 東京2回  
上演回数……………合計 7回

### 出演者アンケート

#### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

劇場によって、舞台の大きさや設備・お客さんとの距離等、いろいろ異なっていたので、場所によって毎回作品の見え方が全く違っていったような気がします。また、作品自体も、再演することで一つ一つ新たな課題が生まれてきて毎回変化していったように思います。

#### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

前回参加させて頂いたときは、何も分からず他の共演者の方達にただただ圧倒されて、見ているだけで感じだったのですが、今回は少し落ち着いている方とお話する事が出来ました。

特に、私たちと同じように地方で活動されているアーティストの方たちとお話できたことで、同じ問題点等を抱えていきながらも、どうやって活動を広げられているのか？等、いろいろお聞きできて刺激になりました。

#### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

今回は札幌・岡山・那覇・東京と、4箇所も巡回させて頂いて、はじめていく場所が多かったのですが、それぞれの場所の持つ力みたいなものを感じました。岡山はとってお客さんが明るく元気だったり、沖縄は時間軸が他と違ってみんなのんびりーって感じだったり。

知らない土地で自分の作品がどういう風に受け入れられるのか、怖さもあったのですが、前回に比べて、少しお客さんと作品についてお話できる機会もあり、とても勉強になりました。

#### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

今のところ特にありませんが、前橋・松山ダンス姉妹都市計画？をはじめ、岡山のズンチャチャさん等、地方で活動されているアーティストの方と交流ができたので、これから少しずつですが何か形にしていけたらなと思っています。

#### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

普段ではまず長い期間で作品を再演するというのがまずないので、同じ作品を繰り返すなかで自分がどう舞台に立つか？ということがこんなに見透かされるのか…と実感しました。また劇場の大きさに合わせてテクニカルな事や構成を変えなければいけなくなるときに、イメージを的確に伝えることや、その場での瞬時的な判断やがまだまだ出来なくて、スタッフの方にたくさん迷惑をかけてしまいました…。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

前はトリオだったのですが、今回ソロで参加させて頂いて、前回見えなかった事がいろいろ見えてきた気がします。以前よりは、ほんの少しだけ・・・作品と自分を切り離して客観的に見る事ができはじめたのでしょうか？やはり、再演することは本当に大事ですね。

今回感じた事のひとつに、作品は舞台上で生まれる。っていう事があります。今考えればホント当たり前のことなのですが、舞台上立つ自分の状態が作品を別物にする。という恐ろしさを実感しました。

日頃、同じ作品を3ヶ月かけて再演するという事はまず出来ないのですが、本番が終わればまた次の事へと見過ごしがちなのですが、本番後に、自分がどう作品と向き合うかが作品の成長に影響するということが分かりました。

今回の経験を生かして、また作品づくりを続けていきたいと思っていますので、踊りに行くぜ！これからは是非続けて下さい。

本当に貴重な経験有難うございました。

**プロフィール**

6歳からモダンダンスを学ぶ。大学時代からコンテンポラリーダンスの世界に興味を持ち始め、ダンスグループ MOGA-Japan のメンバーとなる。

その後、'99 Amanda Miller との出会いにより、ダンスユニット "yummydance "での活動が始まる。「踊りに行くぜ！」は、今年のトリオでの参加に続き二度目。

**村上 和司 / 兵庫**



**「あかり」**

振付・出演： 村上和司

闇・光・闇

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………札幌2回 / 名古屋2回  
上演回数……………合計 4回

**出演者アンケート**

**Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？**

はい、回を重ねるごとに作品のいやなところが浮き出てくる。

**Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？**

ありました。落ちのつけ方や、作品構成のもっていきかた。自分の思いつかない事に出会うのでそれだけで十分刺激になった。

**Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？**

特に、本番前の緊張感に変わりは無かったです、自分の作品を見た事が無い、より多くの人に見てもらえた点についてはすごく良かったと思います。よし悪しは別で。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

ありました。やはり会場によって全然雰囲気が違うし、スタッフワークもこちらがお願いした事はちゃんとやっていただいたのですが、人が違えば勝手も違うので音や、明かりの出し方が予想どうり違った。本番中の雨漏りには驚きました、初めての経験だったので。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

まず一番思うことは、20組以上のアーティストが参加する企画なのに他の自分以外のアーティストと出会えたり知り合えたり出来るのは限られてくるというのが少しだけ残念です。まあすべての参加アーティストと出会うのは物理的にも含め無理かもしれませんが、この人と一緒にやりたかったとか、お話ししたかったというのは少なからず同じ事を思っている方もいるだろうと思います。逆に僕の場合はいろんな人と会ってみたいというのがありますが、誰と一緒にやるという風にも楽しんでいきます。と同時に何処に踊りに行く事になるかという事も。

アフタートークは初めてだったのでホンの少しだけ緊張しました。お客さんも緊張していたんだと思った。休憩は挟むもののやはり舞台をみ終わったそのままの状態なんで(アーティストは舞台、観客は客席)中にはいいたい事、聞きたい事が言えずに終わってしまった人もいるんじゃないかなあ、でももしかしたらそれもその日の舞台にもよるんじゃないかなあとアフタートークの最中に感じていました。やはりみんな聞いているんだから言葉とかに多少気を使うだろうし。舞台に臨む緊張だけでなくアフタートークでの緊張も味わえて正直楽しかったです。それともっと作品を突き詰めないといけないという事も感じました。

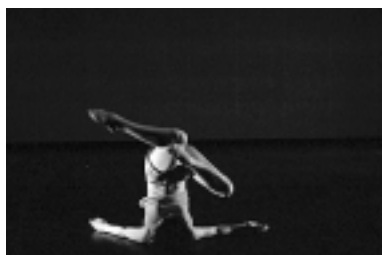
今回は東京公演のセクションが設けられましたが、今後回を重ねる事で、そういう形でのセレクト中のセレクトor踊りに行くぜ！！スーパーベスト！とか海外のアーティストも参加するようになっていけるとか、海外でやるとか勝手に夢は膨らむばかりです。

---

**プロフィール**

近畿大学芸術学科を卒業、在学中にダンスに出会う。2000年頃から本格的ソロ活動開始。しかしそれ以前にもいろいろな人と関わり、主にダンサーとして活動。「ココロを開いてゆたかに動く」をコンセプトに作品創りしています。DANCEBOX企画ダンスサーカス、ダンスセクション、近畿大学芸術フェスティバル、シアター21フェス、「ダンスがみたい！5～新人シリーズ～」等に作品を発表。また、神戸・大阪のライブハウス、カフェなどでミュージシャンとの完全即興コラボレーションパフォーマンスを行う。

---



# 森下 真樹 / 東京



## 「デビュタント Debutante」

振付・出演：森下真樹

製作：Study of Live works 発条ト・2003年

華やか、変身、陶酔、脱走、表裏、パッション、ツクパヤ、うふふ、あはは、ぶっちゃけ、森下真樹、ひっそり、びっしょり。

デビュタント/debutante = 初舞台の女優；初めて社交界に出る娘

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………松山2回 / 福岡1回 / 仙台2回  
上演回数……………合計 5回

## 出演者アンケート

### Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？

公演回数を重ねるごとに作品が良くなったと思います。

### Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？

普段あまり出会う機会のない、地方で活動している方たちとの出会いの機会がもてました。

それぞれ、その地域で活動する上で妨げとなることがあったり、事情はいろいろあるようです。

活動する環境、生活スタイルは様々だけど、今回の公演にかける情熱はどの方も同じで、とても刺激になりました。

### Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？

どこへ行っても知らない人だらけ……。

顔見知りの多い東京で上演するのはまた違ったプレッシャーを感じました。

私をまったく知らない人の中で上演したり、環境にすることで、新しい自分を発見しました。

こういう時、私はこうするんだあ、へえ、こう思うんだあ……コミュニケーションのとり方とか、感情とか、意外な自分を知ってしまった……自分に新規開拓をしたという感じでしょうか……。

### Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？

踊りに行くぜに出演したことで……というわけではありませんが、同じ作品を横浜ダンスコレクションソロ×デュオコンペティションにて作品を発表する機会を得ました。2月7日、8日(私は7日)踊りに行くぜでの経験が生かせたらと思っています。

### Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)

どこの会場も雰囲気は良く、劇場、スタッフの方やボランティアの方と気持ちよく仕事ことができました。

なにより、この公演を成功させたいという気持ちがひとつになる感じは最高です。励まされました。

アットホームな感じが出演者にとって安心できる環境だったと思います。

私はソロ作品なので、リハーサルなどで舞台に立つと自分を客観的にみるのが難しいのですが、踊りに行くぜでは、必ず見てアドバイスや感想を言ってくれる人がいたので助かりました。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

ひとつの作品を選考会から半年もかけて作り続けるということはとても贅沢なことだと思う。踊りに行くぜ！！に参加していなかったら、この作品は選考会(6月)で終わっていたかもしれない。同じ作品をたくさんの人に観てもらい、作品を削ったり足したりしていく…。だんだん作品に飽きてくると、いかに作品の鮮度を保つかを探ろうと、いろいろな角度から見ようとする。

作品を、自分のテンションを維持し続けるのは難しいし、正直言ってめんどい。新しい作品をつくった方がまだ楽だと思ってしまう。しかし、踊りに行くぜ！！に参加し同じ作品を再演することがなければ、作品に愛着を持つことができなかつたかもしれない。自分と戦える、とても贅沢な経験ができました。

今年もチャレンジしたい！

その他、こんなのはどうでしょう？！！

4、5組が開催地で上演した次の日に、出演者と地元で活動している方たちと、ちょっとした交流が持てる場があれば楽しいと思いました。例えば、一方が他方に教えるといった感じのものではなくもっと楽に楽しめるような、ワークショップのようなものを。(それってワークショップとは言えませんか?)主演者にとっても、他のアーティストと何かできるのは嬉しいし、何か次へのステップアップに繋がる可能性もあると思います。地元で活動している方たちにとっても刺激になると思います。

**プロフィール**

'75年生まれ。愛媛・松山西高校でダンスを始める。'96年より Study of Live works 発条トのダンサーとして、主な国内外公演に出演。その他、伊藤キム+輝く未来、まことクラブにも参加。'03年、初のソロダンス『デビュタント』を発表。長い手・足を活かしたムーヴメントと、端正な容姿とはうらはらに陽気でユニークなパーソナリティから生まれるパフォーマンスがあわさったパワフル、かつ、ちょっぴりクレイジーなダンスが持ち味。

**康本 雅子 / 東京**



**「夜泣き指ゆ」**

振付・出演：康本雅子

今宵も素知らぬふりして夜な夜なふけます、いきます、したらこぼれ落ちたんでした、きっと。

踊りに行くぜ！！出演は……………初めて  
出演場所……………大阪2回 / 沖縄2回 / 東京2回  
上演回数……………合計 6回

**出演者アンケート**

**Q.同じ作品で巡回公演をした事で、何か作品の変化はありましたか？**

次の上演までに作品を練りなおす時間が持てたため、作品は変わっていきました。私の場合は場所ごとに変化を楽しみたいのが前提にあったので、お客さんに絡むシーンを入れて毎回即興で踊る部分があったため、全部の回で上演時間も変わりましたし、雰囲気も違うものになりました。



**Q.他の出演者から何か得た事、刺激になったことはありますか？**

毎回色々な地域の人達の作品を見れた事はとても刺激になりましたし、純粹にお客としても楽しんで見ました。

**Q.初めての土地で作品を上演した事について、どのような感想を持ちましたか？**

初めての土地で踊る事は、誰も私を知らない訳で、先入観なく見てもらえる気がしてよかったです。私自身、東京でやるよりも気構えなくのびのびやれました。旅に行くと人見知りしなくなる感覚に近いと思いました。

**Q.踊りに行くぜに出演したことで、具体的に今後の仕事などに発展したことはありますか？**

やはり色々な人に自分の事を知ってもらえた事は大きいです。具体的に次に繋がる事というのはまだないですが、やった事は全てに繋がっているのが発展してる事は間違いありません。

**Q.通常公演を行う時と何か違いはありましたか？(雰囲気・会場・テクニカル他どんな事でも良いです)**

回数を重ねる事でスタッフさんに対して安心や信頼感がうまれていくのは他の単独公演ではない事だと思いました。舞台裏でどんどん過ごしやすくなってくのが有り難かったです。

**Q.その他、参加した感想・問題点・希望することなど自由にお書き下さい。**

同じ作品を短期間でこんなに上演したのは初めてだったので、なじんでゆく良さと飽きていくだめさを味わえました。何回でも踊りたくなる作品を作ろうと思ったのにも関わらず、飽きる部分もあったのでそこは今後の課題です。

この企画の今後の希望としては、ただダンサーが行って自分の作品を踊るのは別に、その土地のダンサーと共同で何かできる枠があっても面白いのではないかと(スケジュール的には難しいでしょうが)思いました。普段ではありえない人同士の組み合わせがこの企画では見れたりすると興味を引くのかなと思いました。

それからJCDN側でどの人をどの場所でやるかを決める訳ですが、終わってみてこれは大正解だったとか、意外な結果だったとか、土地ごとの状況を知りたいと思いました。自分が行った場所以外ではどんな反応だったんだろう？と、気になります。

それから折角色々な地域に行ける企画なので、その土地の出演者の人との交流にとどまらずに、その土地のダンス状況を知った上での今後の地域との関わりにまで発展していくと良いと思います。

---

**プロフィール**

その昔こぞって生まれる。かいあって普段は日銭を稼ぐためどっかで踊る。今にも踊る。車内ではそっと。よって家では乳母として暮らし、晴れてたら干すし。

---



# 新聞、雑誌掲載記事

【松山公演】

(縮尺 50%)

(縮尺 50%)

【札幌公演】

合田・玉井デュオと  
三好絵美が参加へ

「踊りに行くぜ! vol.4」

会場/8F イムズホール

18:30開場、19:00開演

●料金/前売2,500円 当日3,000円  
(全席自由・税込)  
学生券2,000円(前売・電話予約のみ)  
学生券予約:イムズマーケットプロモーション部  
092-733-2018 (10:00~18:00)

※チケット発売中  
チケットぴあ:092-708-0999 (Pコード:931-939)  
●主催・制作/「踊りに行くぜ!」福岡公演実行委員会、イムズ  
●後援/福岡市、福岡市教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団  
●お問い合わせ/イムズマーケットプロモーション部 092-733-2018



【福岡公演】 (縮尺 100%)

～JCDN全国巡回プログラム～  
**踊りに行くぜ! vol.4**  
10月14日(火)・15日(水) 演劇専用小劇場「L.O.C.U」

平塚市市民文化センター 企画・制作・主催: NPO法人 Japan Contemporary Dance Network  
協賛: アサヒビール株式会社、アサヒビール株式会社

現代コンテンポラリーで驚かすのではなく、コンテンポラリーダンスの企画も積極的に行っているのが、JCDNと協力して開催しているこの公演。今年も独自のダンスを思いついて、あちこちから踊りに来てくれたダンサーが、札幌の観客と出会いました。

＜出演者＞  
村上和司(札幌)/福村あかり(札幌)/三好絵美(松山)/  
長岡 忍(佐賀)/Dance Theatre UOEH(徳島)

村上和司さん(札幌から2回目の参加)  
いつもお嬢さんに助けてもらってます。当初初めてソロでやってみて、自分の力不足と筋力不足を痛感しました。でも、終わったばかりなのに、もうやりたい!と燃ってます。もっと表現者として、自立しようと思いましたが、これからはお嬢さんのおかげで、もがきまわって、挑戦しなすります!

長岡さん(佐賀)のダンスワークもとても面白かったです。札幌はとってもよい所でした。行きたいと思いましたが、今は、次の公演に向けて途中稽古中です。がんばります。またみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。  
村上和司さん(兵庫から初参加)




(縮尺 100%)

【名古屋公演】

## EVENT INFO IMS Art Festa

イムズ芸術祭 2003 9.17-11.3

イムズパフォーマンスシリーズ03 Vol.6  
2003「踊りに行くぜ!!」  
10. 28 tue.

昨年のトヨタコレオグラフィアワードで、次代を担う振付家賞に選ばれた砂邊尾 理十寺田みよこをはじめ、地元・福岡のアーティストもパワーアップ。

●会場/8F イムズホール  
18:30開場、19:00開演  
●料金/前売2,500円 当日3,000円  
(全席自由・税込)  
学生券2,000円(前売・電話予約のみ)  
学生券予約:イムズマーケットプロモーション部  
092-733-2018 (10:00~18:00)

※チケット発売中  
チケットぴあ:092-708-0999 (Pコード:931-939)  
●主催・制作/「踊りに行くぜ!」福岡公演実行委員会、イムズ  
●後援/福岡市、福岡市教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団  
●お問い合わせ/イムズマーケットプロモーション部 092-733-2018



JCDN  
JCDN全国巡回プロジェクト  
名古屋公演

11月28日(金) 19:30  
29日(土) 15:00  
セツ寺共同スタジオ

企画・制作・主催:NPO法人 Japan Contemporary Dance Network  
共催:「踊りに行くぜ!」名古屋公演実行委員会

**踊りに行くぜ!!**  
We're gonna go Dancing!! vol.4

 sonno(大阪) [a la notte]	 高木理恵(名古屋) [2002年6月9日より]	 高野美和子(東京) [fragment vol.4]
 納谷衣美+山下残 (東京) [シビビビ]	 村上和司(札幌) [あかり]	特別 アイカワマサアキ 盲曹 神坂立人

東京 大阪 福岡 (夕刊) 2003年(平成15年)10月27日 月曜日

「踊りに行くぜ!」  
大阪でも「踊りに行くぜ!」  
は、踊りに行くぜ!  
大阪でも「踊りに行くぜ!」  
は、踊りに行くぜ!  
大阪でも「踊りに行くぜ!」  
は、踊りに行くぜ!

大阪毎日 2003年(平成15年)11月11日 月曜日

(8F)

新世代の舞付家や  
パフォーマー集団  
「踊りに行くぜ」  
新世代の舞付家や  
パフォーマー集団  
「踊りに行くぜ」  
新世代の舞付家や  
パフォーマー集団  
「踊りに行くぜ」



Bi-Weekly 2003  
**あ contents**  
4 NOVEMBER 2003 Number 32\*

Play NOW

「踊りに行くぜ!」VOL.4  
「踊りに行くぜ!」VOL.4  
「踊りに行くぜ!」VOL.4

L magazine 12  
No. 334  
DECEMBER 2003

STAGE



JCM 踊りに行くぜ!!  
「踊りに行くぜ!」  
「踊りに行くぜ!」  
「踊りに行くぜ!」

JCDN全国パフォーマンススペース 11.15 (土) 11.16 (日)  
ダンス巡回プロジェクト



踊りに行くぜ!! vol.4 那覇公演  
今年で4回目を迎える「踊りに行くぜ!!」は、日本中から集った「踊る表現者たち」を各地で紹介しながら、観る人にコンテンポラリーダンスの面白さを知ってもらおうというもの。コンテンポラリーダンスって何? 一般にイメージするダンスとはちょっと違うもの? でもそんな私達の知らないダンスの世界へ、誘われるのをお楽しみにしてください。ワークショップもアリです。行ってみましょう。

DATA .....  
◎11月15日(土)・16日(日)  
場・那覇アートセンター5F  
JUNK TAKASAGOホール  
時・19:00開演  
料・前売1番2000 学生1500  
当日500増し  
販売那覇公演実行委員会  
☎090-1941-6903 08231D

おさなわJOJO

11月14日(日)会場販売 9:30  
会場販売/場 TAKASAGO, TOYAMA  
前売1,500円増し 当日2,000  
販売那覇公演 090-1941-6907

月刊誌 ハンス

◎11.15 (sat)・16 (sun)  
踊りに行くぜ!! vol.4  
舞せませ。ダンスフルコース!  
全国の舞踊振り付け師、ダンサー、パフォーマンス系アーティストが全国各地で公演を行う大プロジェクト。沖縄で公演するのは沖縄出身の舞踊家、又地元を舞台とするアーティスト。舞踊的な身体表現の豊かさを堪能しよう。

11月15日(土)16日(日) @JUNK TAKASAGO 5F  
那覇アートセンター5Fホール、那覇市第一文化ホール、那覇市山崎町2丁目、三軒茶屋、那覇市  
前売1,500円・当日2,000円 学生/高校生1,000円・高校生以下 前売1,000円  
※「踊りに行くぜ!!」開催公演事務局 ☎090-1941-6903(販売)

2008年(平成15年) 11月15日土曜日  
**琉球新報**  
THE RYUKYU SHIMPO  
第34051号  
発行所 琉球新報社  
那覇市読者1丁目10番2号  
電話098-933-2525  
社説部・社説の印刷部  
903-8858  
広告部印刷部

踊りに行くぜ!!  
きょう、あす  
踊りに行くぜ!!  
舞せませ。ダンスフルコース!  
ZAO 入「Jason  
Contemporary Dan  
ce Network」の本拠  
地「高松市」のコンテン  
ポラリーダンスのマーチ  
ン・ダンスの作品を鑑  
賞して、ワークショップ  
に参加しよう。  
O.P. 料金は2000円  
O.P. 学生1500円  
当日500増し  
問合せ先 那覇公演  
実行委員会  
☎090-1941-6903

踊りとは魂の叫びだ! ~JCDN全国巡回プロジェクト~  
**「踊りに行くぜ!!vol.4」**

今年で4回目を迎える「踊りに行くぜ!!」は、日本中から集った「踊る表現者たち」を各地で紹介しながら、観る人にコンテンポラリーダンスの面白さを知ってもらおうというもの。コンテンポラリーダンスって何? 一般にイメージするダンスとはちょっと違うもの? でもそんな私達の知らないダンスの世界へ、誘われるのをお楽しみにしてください。ワークショップもアリです。行ってみましょう。

日・11/15(土)・16(日)  
場・那覇アートセンター5F  
TAKASAGOホール  
開演・19:30 開演19:00  
料・1番前売¥2000 当日  
¥2000 学生前売¥1500  
当日¥2000  
場・那覇アートセンター  
098-933-0244

**踊りに行くぜ!!**  
vol.4  
新潟公演

11月21日 午後19時～ / 22日 午後15時～  
会場：りゅーとびあ・スタジオB

**北村 隆興**

「うたげうた」  
現代・舞踊・現代音楽

「北北舞の再発見」  
現代・舞踊・現代音楽

**丹野 賢一**

「PUNK ERECTION  
-SHORT SOLD WORKS」  
現代・舞踊・現代音楽

**[Hyphenation]**  
現代・舞踊・現代音楽

料金：一般 2500円  
学生 2000円  
5歳以下 1000円（全員自由）

お問い合わせ：211924  
電話 0270544 または  
http://dance-jpn.org

03.11.14

**踊りに行くぜ!!**

「踊りに行くぜ!!」は、新潟市芸術文化会館スタジオBで開催される。この公演は、新潟市芸術文化会館の「文化劇場」と京都に事務局をおくNPO法人Japan Contemporary Dance Networkの共催。4回目を開催したが、新潟では初公演となる。

出演者は4人で、うち1人は新潟市在住の現代舞踊家、堀子能介さん。「Hyphenation」をテーマに、自然、人など様々な目に入るものを独自の動きで表現するという。新潟からダンスを発信すること

を基本にしている堀子さんは、様々なアーティストとのコラボレーションを試みている。98年に「こころ全国舞踊コンクール」創作部門優秀賞を受賞、98年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリ、ニューヨークでダンスの腕を磨いた。

堀子さんは今回の公演について、「伝統の風、流を根源に使うなど、素材のすべてを新潟のものに表現します。これを機会にコンテンポラリーダンスを多くの人に知ってもらえたら」と話す。ほかの出演者は、北村隆興(大阪)、丹野賢一・NAMIBERINO MACHINE(東京)、さうぼう堂(東京)。

入場料は一般2500円(当日500円増)、学生2000円(前売りのみ)。問い合わせは、文化劇場(025-270-0544)へ。

(金曜日) 新潟 03.11.14

**イベント・レジャー**

**「個性派」4人が競演 踊りに行くぜ!! 新潟公演**

21日午後7時、22日午後3時・新潟市芸術文化会館スタジオB

「踊りに行くぜ!!」は、新潟市芸術文化会館の「文化劇場」と京都に事務局をおくNPO法人Japan Contemporary Dance Networkの共催。4回目を開催したが、新潟では初公演となる。

出演者は4人で、うち1人は新潟市在住の現代舞踊家、堀子能介さん。「Hyphenation」をテーマに、自然、人など様々な目に入るものを独自の動きで表現するという。新潟からダンスを発信すること

を基本にしている堀子さんは、様々なアーティストとのコラボレーションを試みている。98年に「こころ全国舞踊コンクール」創作部門優秀賞を受賞、98年度文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリ、ニューヨークでダンスの腕を磨いた。

堀子さんは今回の公演について、「伝統の風、流を根源に使うなど、素材のすべてを新潟のものに表現します。これを機会にコンテンポラリーダンスを多くの人に知ってもらえたら」と話す。ほかの出演者は、北村隆興(大阪)、丹野賢一・NAMIBERINO MACHINE(東京)、さうぼう堂(東京)。

入場料は一般2500円(当日500円増)、学生2000円(前売りのみ)。問い合わせは、文化劇場(025-270-0544)へ。

**情報ピックアップ**

(FRI) 11/21

**踊りに行くぜ!!**

新潟市芸術文化会館スタジオB

11/21 午後7時～  
11/22 午後3時～  
会場：りゅーとびあ・スタジオB

お問い合わせ：211924  
電話 0270544 または  
http://dance-jpn.org

常楽泰さんや夏の近藤良平ワークショップ参加者出演の  
**「踊りに行くぜ! vol.4」広島公演**

12月20日(土)午後6時～、21日(日)午後2時～開催



「踊りに行くぜ! vol.4」は、コンテンポラリーダンスの分野で活躍する常楽泰さんや、夏の近藤良平ワークショップ参加者の出演が最大の特徴。また、踊り、身体、音楽、人形劇の2つを合わせた演出が、エンターテインメントの醍醐味を堪能できる。



▲常楽泰さん、夏の近藤良平ワークショップ参加者出演の「踊りに行くぜ! vol.4」広島公演。踊り、身体、音楽、人形劇の2つを合わせた演出が、エンターテインメントの醍醐味を堪能できる。

「踊りに行くぜ! vol.4」は、コンテンポラリーダンスの分野で活躍する常楽泰さんや、夏の近藤良平ワークショップ参加者の出演が最大の特徴。また、踊り、身体、音楽、人形劇の2つを合わせた演出が、エンターテインメントの醍醐味を堪能できる。

「踊りに行くぜ! vol.4」は、コンテンポラリーダンスの分野で活躍する常楽泰さんや、夏の近藤良平ワークショップ参加者の出演が最大の特徴。また、踊り、身体、音楽、人形劇の2つを合わせた演出が、エンターテインメントの醍醐味を堪能できる。

広島公演は、12月20日(土)午後6時～、21日(日)午後2時～開催。広島市立大学 4階学生ホールにて開催。チケットは、12月15日(土)より発売。学生前売り1,500円、一般前売り2,000円、当日2,500円。



常楽 泰さん [22] 広島市立大学 4年生

#10  
**Choiceな人**  
 一度しかない大学生生活を思いきりエンジョイする!  
 チョイスな人はいつだって輝いています!

「Choiceな人」は、一度しかない大学生生活を思いきりエンジョイする人たちの物語。彼らは、自分の人生を自分で切り拓き、輝いています。彼らの生き様を、ぜひ読んでほしい。

Choice! vol.12 #10

Wink 100%

**コレからの日本を担う、新しいダンサーを見た!**

日本各地で活躍するダンサーたちが、新しいスタイルで踊りを創り出している。彼らのダンスは、従来のダンスとは異なり、身体表現と音楽、人形劇を合わせた演出が特徴。彼らのダンスは、エンターテインメントの醍醐味を堪能できる。

広島アートダンスプロジェクトの活動。公演には、多岐岐にもアフターパーティーが行われる。

# 次世代ダンサー、ここに現れたり。

## ダンス

思ひが舞うては舞う女、果敢とした  
らわぬが、あなたにたまたまの舞踏家  
あたる。一身体表現アーティストと  
称する写真の彼ら。身体表現に本  
業(一)回舞踏家として、普段は広島  
とある大学で共に彫刻を学ぶ学生。ヘンリー・コ  
ネリなどを模った立体制作のための動きは、い  
つしか彫刻のなま身体表現へ、人々を流るる舞  
出してしまったこのイベントは、日本各地で新

しい個性家・ダンサー・パフォーマンスなどのア  
ーティストを輩出して、そして観客自身のダ  
ンスへの理解をも深めていこうとする団体  
JODNによるプロジェクトの一環だ。広島公  
演には、大阪公演で好評を博した彼ら「身体  
表現アーティスト」の他、大阪や東京のパフォー  
マンスの現場、様々な個性が一体どんなダンス作  
品を見せてくれるか、心算だ。



【踊りに行くぜ!!  
We're gonna go Dancing!!  
vol.4 広島公演】  
12/20(土) 18:00~  
12/21(日) 14:00~  
広島市安芸区民文化センター  
芝一帖2200円(前売2000円)、  
学生1700円(1500円)  
広島市安芸区民文化センター  
☎(082) 824-1330  
FREE HEARTS  
☎(082) 843-2388



50

Wink 03. 12月号 no.122 (11.23発行)

■ このページの取材スタッフは東京の志保のみなさんです。



「広島の『踊りに行くぜ!!』  
パフォーマンスの真のダン  
サーを輩出して、全国を公演し  
て来る『踊りに行くぜ!!』(ジ  
ヤパン・コンテンポラリー・  
ダンス・ネットワーク主催)。  
四回目を迎えた今回、初の広  
島代表として常務理事さん(左)  
写真左)と竹内雅人さん(右)

「広島の『踊りに行くぜ!!』  
パフォーマンスの真のダン  
サーを輩出して、全国を公演し  
て来る『踊りに行くぜ!!』(ジ  
ヤパン・コンテンポラリー・  
ダンス・ネットワーク主催)。  
四回目を迎えた今回、初の広  
島代表として常務理事さん(左)  
写真左)と竹内雅人さん(右)

### now now

- ▲ ふんどし姿で身体表現
- ▼ ドゥーワップなど10組

「広島の『踊りに行くぜ!!』  
パフォーマンスの真のダン  
サーを輩出して、全国を公演し  
て来る『踊りに行くぜ!!』(ジ  
ヤパン・コンテンポラリー・  
ダンス・ネットワーク主催)。  
四回目を迎えた今回、初の広  
島代表として常務理事さん(左)  
写真左)と竹内雅人さん(右)

「広島の『踊りに行くぜ!!』  
パフォーマンスの真のダン  
サーを輩出して、全国を公演し  
て来る『踊りに行くぜ!!』(ジ  
ヤパン・コンテンポラリー・  
ダンス・ネットワーク主催)。  
四回目を迎えた今回、初の広  
島代表として常務理事さん(左)  
写真左)と竹内雅人さん(右)

「広島の『踊りに行くぜ!!』  
パフォーマンスの真のダン  
サーを輩出して、全国を公演し  
て来る『踊りに行くぜ!!』(ジ  
ヤパン・コンテンポラリー・  
ダンス・ネットワーク主催)。  
四回目を迎えた今回、初の広  
島代表として常務理事さん(左)  
写真左)と竹内雅人さん(右)

まれるコミュニケーション  
を、肉體だけで表現したい」  
と常務理事さん(左)は、二十一日は、  
いよいよ広島市安芸区民  
文化センターで公演がある。  
イベントをサポートする  
「Project HEARTS」  
主催の島村勝子さんは「地元  
から彼らのようなアーティスト  
が出ていってほしい。広島  
も盛り上げていきたい」と意  
気込み。問い合わせ082  
(943) 23388 岡部 修

2003年(平成15年)12月11日 木曜日 東京 朝日新聞 (夕刊)

月刊 **ぶらあぼ**  
ホームページ www.mde.co.jp

**Ballet & Dance**  
バレエ&ダンス  
ホームページでもご覧ください。

「NONOON」

話題の白作昌忠を上演

本誌の新人作家・タナト・コトシロの  
最新作品集『NONOON』を上演する。コトシロの  
代表作『NONOON』は、現代舞の  
先駆者として知られる。この舞は、  
「NONOON」の題名通り、午後の  
1時から3時までの間に上演される。  
是非ともご覧いただきたい。



JCDN全国巡回プロジェクト「踊りに行くぜ!! vol.4」東京公演

**酸いも甘いも噛み分けた**

全国ツアー途中に、コンテンポラリーダンスの種を継ぐプロジェクト「踊りに行くぜ!!」の活動が、今年も全国11地域を巡回し、この秋も各地に届く。そして、東京公演地の東京では、各地で話題となった作品に出会える。公演内容(前編)は、『酸いも甘いも噛み分けた』。『酸いも甘いも噛み分けた』は、現代舞の先駆者として知られる。この舞は、「酸いも甘いも噛み分けた」の題名通り、午後の1時から3時までの間に上演される。是非ともご覧いただきたい。



「ダンスらしきもの」たちが  
肉体美のヒエラルキーを突き崩す  
「踊りに行くぜ!! vol.4」

12月11-12日、ソフィアホール(文芸春秋ビル)にて開催。後日21日-22日「踊りに行くぜ!!」は、東京をはじめ、各地の「舞」のダンスを継ぐ全国巡回公演。東京公演は、多目的ホールからスタートする。本誌の「踊りに行くぜ!!」は、今年も全国11地域を巡回し、この秋も各地に届く。そして、東京公演地の東京では、各地で話題となった作品に出会える。公演内容(前編)は、『酸いも甘いも噛み分けた』。『酸いも甘いも噛み分けた』は、現代舞の先駆者として知られる。この舞は、「酸いも甘いも噛み分けた」の題名通り、午後の1時から3時までの間に上演される。是非ともご覧いただきたい。

文：櫻井圭介  
写真：KISHIMOTO GARUDA

今、音楽と比べて日本のコンテンポラリーダンスをジャズやロックに例えて「ジャズ系」「ロック系」と呼ぶのは、多分誤りだ。少なくとも、その前提条件が異なる。ジャズやロックは、音楽のジャンルであり、その表現の手段は、楽器や声である。一方、コンテンポラリーダンスは、身体そのものが表現の手段であり、その表現の手段は、身体そのものである。ジャズやロックは、音楽のジャンルであり、その表現の手段は、楽器や声である。一方、コンテンポラリーダンスは、身体そのものが表現の手段であり、その表現の手段は、身体そのものである。



「踊りに行くぜ!!」は、東京をはじめ、各地の「舞」のダンスを継ぐ全国巡回公演。東京公演は、多目的ホールからスタートする。本誌の「踊りに行くぜ!!」は、今年も全国11地域を巡回し、この秋も各地に届く。そして、東京公演地の東京では、各地で話題となった作品に出会える。公演内容(前編)は、『酸いも甘いも噛み分けた』。『酸いも甘いも噛み分けた』は、現代舞の先駆者として知られる。この舞は、「酸いも甘いも噛み分けた」の題名通り、午後の1時から3時までの間に上演される。是非ともご覧いただきたい。



# 萬 ダンス商会

YOROZU DANCE & CO.



「踊りに行くぜ!」最終公演  
 [Agon Contemporary Dance Network]が主催するこの企画は、全国各  
 地からダンサーが選り抜かれ、地元以外の土地へ行って、公演をするこ  
 ういう趣向がコンセプト。「踊りに行くぜ!」に集合している中で最も注目  
 の高い「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

第4回となる今年の公演は、踊りに行くぜ!の企画から選り抜かれたダンサーたちが、地元以外の土地へ行って、公演をするという趣向がコンセプト。「踊りに行くぜ!」に集合している中で最も注目の高い「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)



「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

「踊りに行くぜ!」最終公演  
 アイランド  
 天玉洲  
 会場: 東京都千代田区千代田1-1-1  
 公演日: 平成15年12月19日(金) 19時開演  
 料金: 前売券1100円、当日券1200円

「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

文: 高橋大助 ラストダンスは「踊りに行くぜ!!」  
 『STUDIO VOICE』vol.337 1月号 (12月6日発売)



「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)

「踊りに行くぜ!」に注目してください。(分譲券価格は1100円)